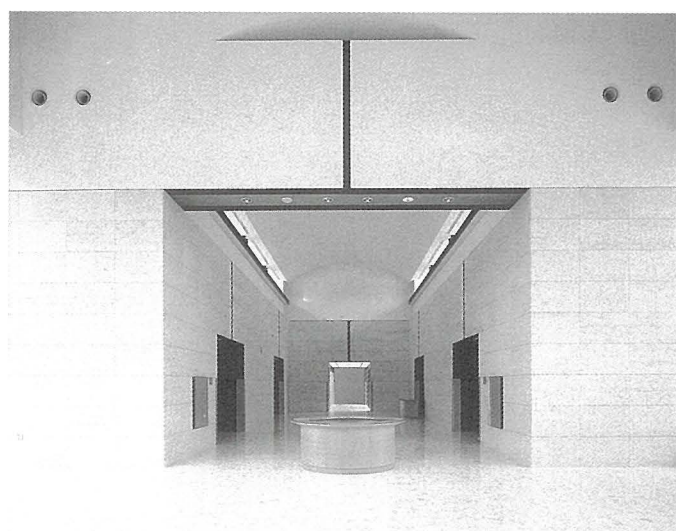


北海道立帯広美術館年報
平成 9 年—10年度

北海道立帯広美術館年報

平成9年—10年度



目 次

目 次	3
展覧会事業	
平成9－10年度コレクション・ギャラリー一覧	5
現代日本のポスター展 partⅢ	6
版の小宇宙	7
主題と表現－油彩画	9
20世紀の世界のポスター	10
銅版画の世界	11
ポスターにみる旅のイメージ	12
森 弘志展	13
バルビゾン村の画家たち	14
平成9－10年度特別展一覧	16
帯広美術館コレクション選集	18
ヨーロッパ・アカデミー絵画展	20
マリリン・モンローとエルヴィス・プレスリー展	24
茶の湯の美術	29
浮世絵の中の美人たち	33
マルク・シャガール展	38
知られざるインド更紗展	43
自然の中の画家たち	47
イギリス絵本の世界展	49
北海道はどう描かれてきたか	55
明治の浮世絵版画	59
現代日本画名品展	63
モネ、ルノワールと印象派の画家たち	66
リモージュの輝き－磁器名品展－	69
帯広美術館コレクション選集	73
教育普及事業	
美術講演会	75
特別展セミナー	75
ミュージアム・カレッジ	76
土曜映写室	77
トークショー	77
キッズ・ミュージアム	78
ミュージアム・ミステリー	79
団体オリエンテーション	80
博物館実習	81
移動美術館	82
その他	83
美術作品の収集	
平成9年度作品収集状況	84
購 入	85
受 贈	85
平成10年度作品収集状況	86
購 入	87
美術作品の貸出	88
特別観覧	89
名 簿	90
館内案内図	91
建築概要	92
設備概要	92
沿 革	93
観覧者数一覧	94

展覧会事業

平成9年度コレクションギャラリー一覧

No.	展 覧 会 名	会 期	開催日数
1	現代日本のポスター展 partⅢ	4 月 5 日(土)～ 6 月15日(日)	57
2	版の小宇宙	6 月21日(土)～ 9 月 7 日(日)	60
3	主題と表現—油彩画	9 月15日(月)～12月 7 日(日)	64
4	20世紀の世界のポスター	12月13日(土)～ 3 月29日(日)	77

平成10年度コレクションギャラリー一覧

No.	展 覧 会 名	会 期	開催日数
1	銅版画の世界	4 月10日(金)～ 6 月17日(水)	52
2	ポスターにみる旅のイメージ	6 月26日(金)～ 8 月26日(水)	46
3	十勝の新時代Ⅰ 森 弘志展	9 月 4 日(金)～12月 2 日(水)	71
4	バルビゾン村の画家たち	12月18日(金)～ 3 月24日(水)	73

現代日本のポスター展 part III

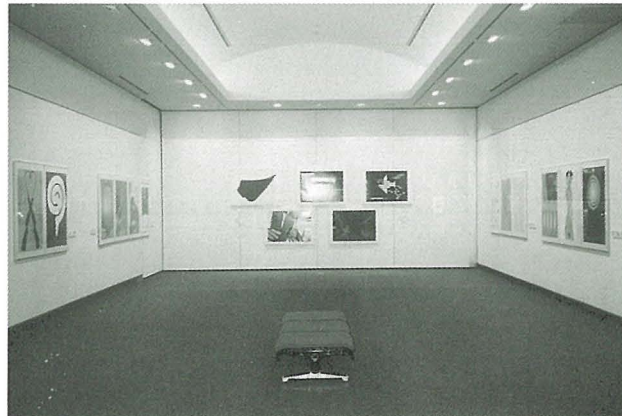
会期＝平成9年4月5日(土)－6月15日(日)

主催＝北海道立帯広美術館

戦後、日本のポスターは1950年代の経済復興と軌を一にして発展の歩みをたどる。はやくも1951年には、デザイナーたちの全国組織である日本宣伝美術協会が組織され、以後、さまざまな国際交流や技術的進歩を背景に日本のポスター表現は豊かに展開されてきた。

近年ではデザイナー、カメラマン、コピーライターらが共同で作業を行うアートディレクター・システムが定着し、高度な専門化・分業化のもと、より斬新な作品が生み出されている。また電子製版技術の開発、コンピューター・グラフィックスの利用など、グラフィックアートの表現世界はますます多様化している。

本展は、part I（平成5年1月5日－3月28日）、part II（平成7年4月15日～7月30日）に次ぐ、「現代日本のポスター展」シリーズの第3弾であり、同シリーズの最終回である。戦後の代表的なポスター100点を復刻・再現した『戦後日本のポスター 100』（1990年、凸版印刷）より34点を紹介し、1950年代から1980年代にいたる戦後日本のグラフィズムを概観した。



会場風景

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	早川良雄	カロン洋裁生徒募集	1951 (昭和26)	オフセット、紙	102.8× 73.2
2	河野鷹思	かばわれた臆病者……日本	1953 (昭和28)	オフセット、紙 (オリジナルはシルクスクリーン印刷)	73.2×102.8
3	河野鷹思	月刊・茶道総合誌〈淡交〉	1955 (昭和30)	オフセット、紙 (オリジナルはシルクスクリーン印刷)	102.8× 73.2
4	大橋 正	明治キャラメル	1957 (昭和32)	オフセット、紙	102.8× 73.2
5	亀倉雄策	ニコン S P	1957 (昭和32)	オフセット、紙	102.8× 73.2
6	杉浦康平、宇野亜喜良	越路吹雪リサイタル	1959 (昭和34)	オフセット、紙	102.8× 73.2
7	田中一光	第8回産経観世能	1961 (昭和36)	オフセット、紙	102.8× 73.2
8	亀倉雄策、村越 襄、早崎 治	東京オリンピック	1963 (昭和38)	オフセット、紙	102.8× 73.2
9	栗津 潔	第2回世界宗教者平和会議	1964 (昭和39)	オフセット、紙	102.8× 73.2
10	横尾忠則	TADANORI YOKOO	1965 (昭和40)	オフセット、紙	102.8× 73.2
11	永井一正	書籍「サイエンス・ライブラリー」生長の話	1966 (昭和41)	オフセット、紙	102.8× 73.2
12	木村恒久	図解・エスカレーション戦略 (其の二)	1966 (昭和41)	オフセット、紙	102.8× 73.2
13	中村 誠、横須賀功光	資生堂	1966 (昭和41)	オフセット、紙	102.8× 73.2
14	長友啓典、黒田征太郎	エドワーズ	1971 (昭和46)	オフセット、紙	73.2×102.8
15	青葉益輝	灰皿ではありません	1971 (昭和46)	オフセット、紙	102.8× 73.2
16	松永 真、安達洋次郎	資生堂サンオイル“人・人・人”	1971 (昭和46)	オフセット、紙	102.8× 73.2
17	杉浦康平	第8回東京国際版画ビエンナーレ展	1972 (昭和47)	オフセット、紙	102.8× 73.2
18	宮永馨夫、操上和美	BLUE DOT	1973 (昭和48)	オフセット、紙	73.2×102.8
19	石岡瑛子、横須賀功光	国際カンバス・ファニチュア・デザイン・コンペ	1973 (昭和48)	オフセット、紙	73.2×102.8
20	田中一光、滝野晴夫	櫻の園	1974 (昭和49)	オフセット、紙	102.8× 73.2
21	佐藤晃一	死のう団	1976 (昭和51)	オフセット、紙	102.8× 73.2
22	上条喬久	IDENTITY	1976 (昭和51)	オフセット、紙	73.2×102.8
23	石岡瑛子	PARCO/ハイヒール・エクスプレスにレールはない	1977 (昭和52)	オフセット、紙	102.8× 73.2
24	勝井三雄、奈良原一高	第11回東京国際版画ビエンナーレ展	1979 (昭和54)	オフセット、紙	102.8× 73.2
25	青葉益輝	THE END	1980 (昭和55)	オフセット、紙	102.8× 73.2
26	河村要助	AMNESTY	1980 (昭和55)	オフセット、紙	102.8× 73.2
27	福田繁雄	日本古典芸能団招聘記念	1981 (昭和56)	オフセット、紙	102.8× 73.2
28	福田繁雄	HAPPY EARTHDAY	1982 (昭和57)	オフセット、紙	102.8× 73.2
29	早川良雄	HIROSHIMA APPEALS	1986 (昭和61)	オフセット、紙	102.8× 73.2
30	田中一光	JAPAN	1987 (昭和62)	オフセット、紙	102.8× 73.2
31	小島良平	世界の鳥を救おう	1987 (昭和62)	オフセット、紙	102.8× 73.2
32	田中一光	HIROSHIMA APPEALS	1988 (昭和62)	オフセット、紙	102.8× 73.2
33	仲條正義	WELCOME TO JAPAN	1988 (昭和62)	オフセット、紙	102.8× 73.2
34	浅葉克己、操上和美	西武セゾングループのキャンペーン	1989 (昭和63)	オフセット、紙	102.8× 73.2

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

* 作品はすべて1990年に復刻されたものである。

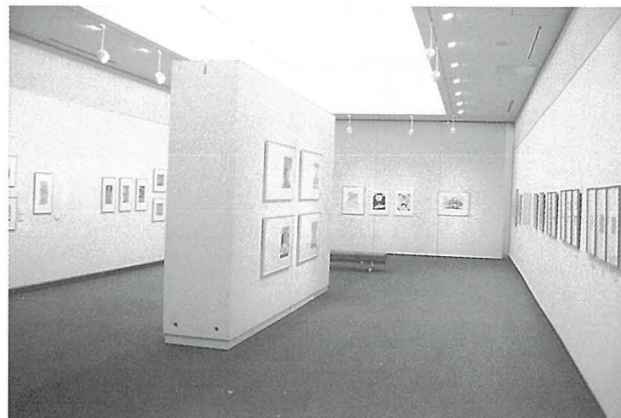
版の小宇宙

会期＝平成9年6月21日(土)－9月7日(日)

主催＝北海道立帯広美術館

版画は、古くからある木版画ばかりでなく、銅版画やリトグラフ、シルクスクリーンなど、長い歴史と様々な技法をもち、今世紀に入ってますます多様な表現領域を開拓しつつある。それぞれの作家は、技法を深める中から独自の表現を展開してきた。

この展覧会では、北岡文雄、増田誠、矢柳剛、多賀新、渋谷栄一など、版画技法の特質を巧みに生かしながらイマジネーションの世界を繰り広げる5人の作家を取りあげ、小さな版の枠にとらわれずに豊かな小宇宙を作り上げる版画家たちの多彩な美の世界を紹介した。



会場風景

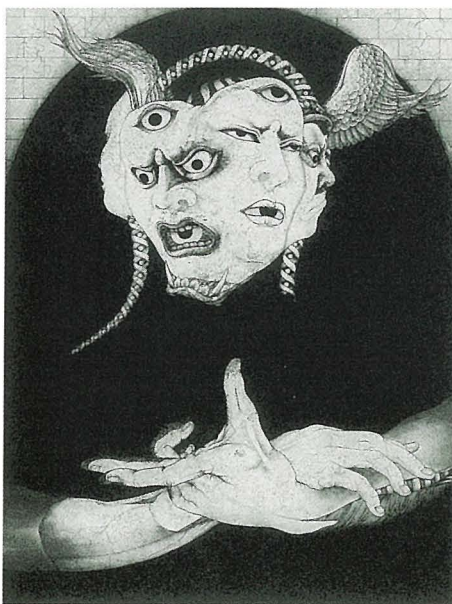
出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	北岡文雄	祖国への旅 出発	1947 (昭和22)	木版、紙	11.0×13.0
2	北岡文雄	祖国への旅 母と子	1947 (昭和22)	木版、紙	17.5×13.0
3	北岡文雄	祖国への旅 部落を通る	1947 (昭和22)	木版、紙	14.0×18.5
4	北岡文雄	祖国への旅 野宿の夜	1947 (昭和22)	木版、紙	11.0×13.0
5	北岡文雄	祖国への旅 木蔭の休息	1947 (昭和22)	木版、紙	14.0×18.5
6	北岡文雄	祖国への旅 渇き	1947 (昭和22)	木版、紙	13.0×18.4
7	北岡文雄	祖国への旅 太車の旅	1947 (昭和22)	木版、紙	14.0×18.5
8	北岡文雄	祖国への旅 雨に日	1947 (昭和22)	木版、紙	10.8×12.9
9	北岡文雄	祖国への旅 新しい寡婦	1947 (昭和22)	木版、紙	11.0×13.0
10	北岡文雄	祖国への旅 引揚者の顔 (A)	1947 (昭和22)	木版、紙	16.3×10.8
11	北岡文雄	祖国への旅 孤児	1947 (昭和22)	木版、紙	13.0×11.1
12	北岡文雄	祖国への旅 船艘	1947 (昭和22)	木版、紙	13.9×18.5
13	北岡文雄	祖国への旅 上陸前のDDT	1947 (昭和22)	木版、紙	10.9×13.0
14	多賀 新	傍観者 (自画像)	1974 (昭和49)	エッチング、アクアチント、紙	24.0×21.3
15	多賀 新	虚飾	1981 (昭和56)	エッチング、アクアチント、紙	36.5×24.0
16	多賀 新	装束の文	1987 (昭和62)	エッチング、紙	36.5×24.5
17	多賀 新	生存者	1978 (昭和53)	エッチング、アクアチント、紙	36.5×55.0
18	多賀 新	射影	1978 (昭和53)	エッチング、ルーレット、紙	60.0×36.5
19	多賀 新	魚 No.2 (食傷)	1978 (昭和53)	エッチング、ルーレット、紙	26.7×36.5
20	多賀 新	魚 No.17 (シーラカンス)	1979 (昭和54)	エッチング、アクアチント、紙	36.5×60.0
21	多賀 新	合体図	1976 (昭和51)	エッチング、紙	48.0×36.5
22	多賀 新	飛来	1977 (昭和52)	エッチング、アクアチント、紙	48.0×36.5
23	多賀 新	双壁	1982 (昭和57)	エッチング、アクアチント、紙	49.7×36.5
24	多賀 新	伝承	1988 (昭和63)	エッチング、アクアチント、紙	36.5×23.7
25	多賀 新	静謐	1990 (平成2)	エッチング、紙	36.5×24.7
26	増田 誠	旧約聖書 バベルの塔	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	33.0×24.3
27	増田 誠	旧約聖書 十戒	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	33.0×24.3
28	増田 誠	旧約聖書 紅海	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	24.5×33.5
29	増田 誠	旧約聖書 ソロモン王 (ダビデ王の子)	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	33.1×24.0
30	増田 誠	旧約聖書 ダビデ王	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	33.8×24.6
31	増田 誠	ギリシャ神話 ヘラクレスとクレタの牡牛	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	24.5×33.0
32	増田 誠	ギリシャ神話 ゼウスとエウロペ	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	25.0×33.1
33	増田 誠	ギリシャ神話 アマゾンと戦うヘラクレス	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	33.2×24.5
34	増田 誠	ギリシャ神話 トロイの馬	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	33.5×34.9
35	増田 誠	ギリシャ神話 ゼウス	1976 (昭和51)	リトグラフ、紙	34.9×26.6

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
36	渋谷栄一	シャルトル	1980 (昭和55)	エッチング、シュガー・アクアチント、 ドライポイント (ルーレット)、紙	36.5×20.3
37	渋谷栄一	PARIS D	1972 (昭和47)	シュガー・アクアチント、紙	23.0×28.0
38	渋谷栄一	アンティーブ A	1989 (平成元)	エッチング、シュガー・アクアチント、紙	22.0×36.5
39	渋谷栄一	サーカスと白い馬	1977 (昭和52)	エッチング、シュガー・アクアチント、 ドライポイント (ルーレット、ナイフ)、紙	44.7×33.0
40	渋谷栄一	月明りのピエロ	1980 (昭和55)	エッチング、シュガー・アクアチント、紙	36.4×20.2
41	渋谷栄一	吟遊詩人 A	1975 (昭和50)	エッチング、シュガー・アクアチント、紙	36.5×20.3
42	渋谷栄一	楽園の調べ C	1981 (昭和56)	エッチング、シュガー・アクアチント、紙	49.8×36.5
43	渋谷栄一	人形の館 B	1980 (昭和55)	エッチング、シュガー・アクアチント、 ドライポイント (ルーレット)、紙	49.7×36.5
44	渋谷栄一	カーニバル B	1971 (昭和46)	エッチング、シュガー・アクアチント、紙	49.5×36.5
45	渋谷栄一	楽園の子供達	1971 (昭和46)	エッチング、シュガー・アクアチント、 ドライポイント (ルーレット、ハーフトーンコウム)、紙	36.5×50.0
46	矢柳 剛	飛んだえんぴつ 青い空のような花	1982 (昭和57)	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7
47	矢柳 剛	飛んだえんぴつ 星	1982 (昭和57)	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7
48	矢柳 剛	飛んだえんぴつ まどの氷	1982 (昭和57)	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7
49	矢柳 剛	飛んだえんぴつ バレンタインデー	1982 (昭和57)	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7
50	矢柳 剛	飛んだえんぴつ おとうさんのちんこ	1982 (昭和57)	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7
51	矢柳 剛	飛んだえんぴつ ぶた	1982 (昭和57)	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7
52	矢柳 剛	飛んだえんぴつ 飛んだえんぴつ	1982 (昭和57)	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7
53	矢柳 剛	飛んだえんぴつ にじ	1982 (昭和57)	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。



多賀 新「飛来」



増田 誠「旧約聖書 紅海」

主題と表現—油彩画

会期＝平成9年9月15日(月)－12月7日(日)

主催＝北海道立帯広美術館

何をどのように表現するのか、それは画家にとって大きな課題である。画家が描く題材はさまざまで、身近になにげなく存在するものから画家自身の心象風景にいたるまで幅広く、時には生涯同じテーマを追い続ける画家も少なくない。また、実際の表現にあっては、色彩や構図はもちろんのこと、画材の選択や筆の運びにも、あるものは描く前に緻密な熟慮を重ね、また、あるものは描きながら感性のひらめきに大胆に従いつつ、画面上何がどのような効果を生むか、細部にわたり執拗にこだわる。

本展では、このような画家の心をとらえた主題とそれを伝える表現様式との密接な関わりを見つめながら、当館所蔵の油彩画によりその豊かな造形性の一端を紹介した。



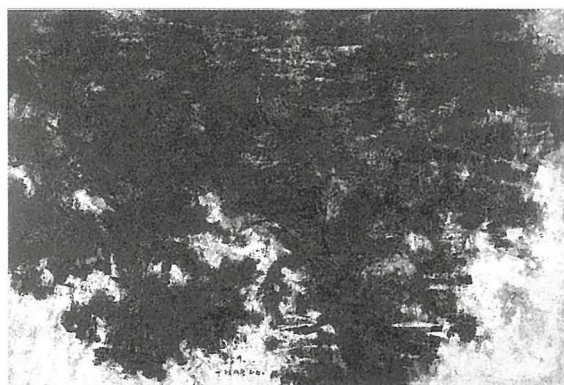
会場風景

出品目録

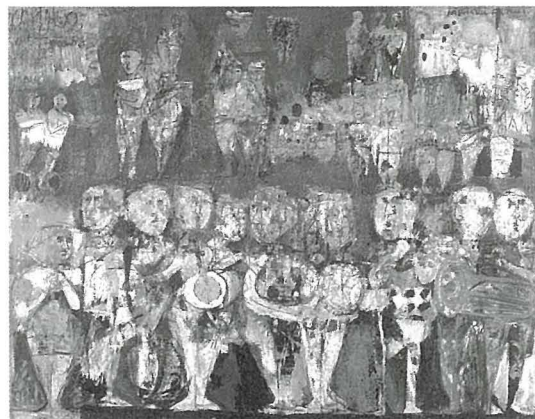
No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	伊藤隆二	池のほとり	1931 (昭和6)	油彩、キャンバス	72.8× 91.0
2	伊藤隆二	曇り日	1932 (昭和7)	油彩、キャンバス	53.1× 72.9
3	伊藤隆二	裏門	1933 (昭和8)	油彩、キャンバス	66.6× 91.0
4	伊藤隆二	雪景	1936 (昭和11)	油彩、キャンバス	72.8× 91.0
5	伊藤隆二	初秋	1935 (昭和10)	油彩、キャンバス	80.7×116.8
6	寺島春雄	黒の凶地	1959 (昭和34)	油彩、キャンバス	130.9×194.2
7	寺島春雄	凍土	1961 (昭和36)	油彩、キャンバス	117.0× 91.1
8	寺島春雄	北の碑	1962 (昭和37)	油彩、キャンバス	130.7×162.4
9	神田日勝	画室E	1967 (昭和42)	油彩、板	163.0×183.0
10	神田日勝	画室D	1967 (昭和42)	油彩、板	163.3×183.0
11	神田日勝	人と牛B	1968 (昭和43)	油彩、板	183.5×182.5
12	福井正治	没陽一野一	1986 (昭和61)	油彩、キャンバス	162.5×162.2
13	福井正治	北方村落A	1983 (昭和58)	油彩、キャンバス	162.5×162.5
14	福井正治	サーカスの祭り	1966 (昭和41)	油彩、キャンバス	130.3×193.6
15	福井正治	野の鳥	1988 (昭和63)	油彩、キャンバス	162.1×112.1
16	檜原武正	子供	1976 (昭和51)	油彩、キャンバス	135.0×110.0
17	檜原武正	日の出	1975 (昭和50)	油彩、キャンバス	165.0×132.5
18	檜原武正	子供の国	1977 (昭和52)	油彩、キャンバス	181.5×227.5

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。



寺島春雄「黒の凶地」



福井正治「サーカスの祭り」

20世紀の世界のポスター

会期＝平成9年12月13日(土)ー平成10年3月29日(日)

主催＝北海道立帯広美術館

今世紀を通じ、商品や観光の宣伝を目的とする広告ポスターやメッセージ性に富んだ公共ポスターなど、数多くのポスターが制作されてきた。それらポスター作品は、各々の時代の風潮や新たに起きた美術運動の影響を受けながら、また写真やコンピュータによる画像処理といった新技術を積極的に導入しながら、多彩な展開をとげてきた。今日、ポスターは「時代の証言者」として、また優れた芸術作品として高い評価を得ている。

本展では、帯広美術館が所蔵する石版画ポスター、および複製版『欧米のポスター100・1945-1990』(1995年、凸版印刷)より、合わせて29作品を展示し、今世紀初頭から今日にいたる欧米のポスター芸術の変遷を紹介した。



会場風景

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	F.リバス・モンテネグロ	マルケス・デル・メリト、ワインとコニャック	1920	リトグラフ、紙	152.0×109.0
2	R.ランピット	コーンウォール	1920頃	リトグラフ、紙	100.0×123.5
3	不詳	シトロエンの在庫	1923	リトグラフ、紙	156.0×116.0
4	不詳	発泡性ワイン「ヴーヴ・アミオ」	1925頃	リトグラフ、紙	150.0×112.5
5	J.スプリング (アンドレ・ラプシェフスキー)	コニャック「ソラン」	1930	リトグラフ、紙	151.4×113.7
6	R.マルトン	ワイン「ジェスヴェレール」	1930頃	リトグラフ、紙	150.3×112.5
7	K.ファン・デル・ラーン	国立航空学校	1930頃	リトグラフ、紙	80.0× 57.2
8	ロビィ	食前酒「トニ＝コーラ」	1935	リトグラフ、紙	200.0×130.0
9	P.コラン	W公園	1935	リトグラフ、紙	80.0× 60.0
10	ベッシーニ	ルガノ・スイス見本市	1937	リトグラフ、紙	117.0× 81.8
11	A.ラスムッセン	D. S. B.、デンマーク国有鉄道	1937	リトグラフ、紙	100.0× 63.0
12	E.ベネール	アーラウ	1937頃	リトグラフ、紙	126.0× 90.0
13	不詳	あなたの列車、C. F. F.	1939頃	リトグラフ、紙	125.2× 90.0
14	D.ブラン	バータ	1940頃	リトグラフ、紙	127.4× 91.0
15	J.モレル	スペイン探訪	1941	リトグラフ、紙	98.6× 60.8
16	A.ブルネ	フランスへ、シャルジュール・レユニ・海運会社で (エッフェル塔)	1950	オフセット、紙	97.5× 61.8
17	J. P. ラタビィ	モン・ド・マルサン	1950	リトグラフ、紙	98.0× 60.6
18	不詳	ボーツマスとサウス・シー	1950頃	リトグラフ、紙	99.7× 62.8
19	J. ミュラー＝ブロックマン	子供たちを守ろう	1953	オフセット、紙	102.8× 72.2
20	H.ロイビン	コカ・コーラ「休憩」	1953	オフセット、紙	102.8× 72.2
21	M.グレイザー	ディラン	1966	オフセット、紙 (オリジナルはシルクスクリーン印刷)	102.8× 68.4
22	P.マックス	トゥールーズ＝ロートレック	1967	オフセット、紙 (オリジナルはシルクスクリーン印刷)	102.8× 69.2
23	M.ウルバニェツ	ポーランド平和委員会「ABC」	1971	オフセット、紙	102.8× 71.6
24	I.チャマイエフ	テレビ番組「大戦の狭間で」	1977	オフセット、紙	102.8× 67.4
25	G.ランボー	出版社「S.フィッシャー」	1979	オフセット、紙	102.8× 72.7
26	F.ブリンドラー	原爆廃絶	1982	オフセット、紙	72.6×102.8
27	A.グレイマン	デザインショールーム協会「あなたの番、私の番」	1983	オフセット、紙	102.8× 66.8
28	C.フォーブス	I B M「暗闇を呪うよりロウソクに火をつけよ」	1987	オフセット、紙 (オリジナルはシルクスクリーン印刷)	102.8× 73.0
29	グラフィティ	人は生まれながらにして…自由で平等である	1989	オフセット、紙	102.8× 70.8

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

* No.19～29は1995年に複製されたものである。

銅版画の世界

会期＝平成10年 4 月10日(金)ー 6 月17日(水)

主催＝北海道立帯広美術館

銅版画は、平滑な銅板の表面に図柄となる傷（凹部）をつけ、そこにインクを詰め込み、プレス機に通してインクを紙にうつし取る版画技法である。版面に凹部を作る方法には、刃物などで銅板を直接削り取るエンブレイヴィングやドライポイント、酸などで腐蝕させて凹部を作るエッチングやアクアチントなどさまざまな技法があり、それぞれ異なった表現が得られる。15世紀にヨーロッパで始められた銅版画は、これら多様な技法を生み出しながらその表現の幅を広げ、多くの美術家たちによって多彩な作品が作られてきた。

この展覧会では、17世紀にエッチングによる新たな表現世界を切り開いたレンブラントや、自然風景を精緻に描き出した19世紀のバルビゾン派、そしてさまざまな手法を組み合わせながら独自の作品を作り出す現代の作家たちなど当館所蔵の銅版画作品38点を展示。銅版画固有の緻密な表現や、多彩な技法が生み出す複雑な表情など、その魅力を紹介した。

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	レンブラント・ファン・レイン	戸口の女	1641	エッチング、紙	9.2× 6.0
2	レンブラント・ファン・レイン	羊飼いに現われた天使	1634	エッチング、紙	25.2×21.5
3	レンブラント・ファン・レイン	エマオのキリスト	1654	エッチング、紙	20.9×15.7
4	P.ユエ	フォンテーヌブロー付近	1866	エッチング、紙	19.3×28.0
5	P.ユエ	オージュ谷のノルマンディー人の家の庭	1866	エッチング、紙	9.5×14.0
6	J.B.C.コロー	イタリアの思い出	1863	エッチング、紙	29.5×22.0
7	Th.ルソー	櫟の木と岩	1861	エッチング、紙	12.7×17.2
8	J.ヨンキント	オランダの風車	1867	エッチング、紙	13.7×18.8
9	J.ヨンキント	オンフルールの港の入り口	1863	エッチング、紙	22.1×30.5
10	J.F.ミレー	耕す人	1855頃	エッチング、紙	24.0×34.0
11	J.F.ミレー	落穂ひろい	1855-56	エッチング、紙	19.2×25.0
12	Ch.E.ジャック	水飲み場	19世紀後半	エッチング、紙	14.5×21.0
13	Ch.E.ジャック	豚飼いの少年	19世紀後半	エッチング、紙	11.5×17.7
14	Ch.E.ジャック	雄鳥と雌鳥	不詳	エッチング、紙	12.1×17.0
15	Ch.E.ジャック	オランダ牛	不詳	エッチング、紙	11.0×17.9
16	Ch.F.ドービニー	ヴィラーヴィル海岸	不詳	エッチング、紙	9.2×19.8
17	Ch.F.ドービニー	羊の柵囲い	1860	エッチング、紙	18.4×34.3
18	Ch.F.ドービニー	オーヴェールのりんごの木	1877	エッチング、紙	14.0×23.9
19	増田 誠	「Bonjour Messieurs et Mesdames」よりスペイン酒場	1976 (昭和51)	エッチング、紙	14.6×20.2
20	増田 誠	「Bonjour Messieurs et Mesdames」よりカルト	1976 (昭和51)	エッチング、紙	15.4×22.2
21	増田 誠	「Bonjour Messieurs et Mesdames」よりリュウ・ムフタル	1976 (昭和51)	エッチング、紙	18.5×24.3
22	増田 誠	「Bonjour Messieurs et Mesdames」よりサンジェルマンのパパ	1976 (昭和51)	エッチング、紙	15.5×19.3
23	矢柳 剛	心の窓	1967 (昭和42)	エッチング、紙	36.0×48.5
24	矢柳 剛	夜の鳥	1968 (昭和43)	エッチング、紙	51.7×39.2
25	池田良二	Reaching the cape (岬への到着)	1988 (昭和63)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手書き版	57.0×84.6
26	池田良二	Deposition of memories (記憶の沈殿)	1988 (昭和63)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手書き版	69.0×58.0
27	池田良二	Architecture on the cape (岬の上の家)	1989 (平成元)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手書き版	37.0×53.0
28	池田良二	Window under the midnight sun (白夜の窓)	1988 (昭和63)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手書き版	50.0×50.0
29	多賀 新	女と止揚	1974 (昭和49)	エッチング、アクアチント、メゾチント、紙	42.0×36.5
30	多賀 新	魚 No.2 (食傷)	1978 (昭和53)	エッチング、ルーレット、紙	26.7×36.5
31	多賀 新	三界	1977 (昭和52)	エッチング、紙	36.5×21.5
32	多賀 新	落飾	1988 (昭和63)	エッチング、紙	36.5×24.0
33	多賀 新	虚飾	1981 (昭和56)	エッチング、アクアチント、紙	36.5×24.0
34	渋谷栄一	サーカスと白い馬	1977 (昭和52)	エッチング、シュガーアクアチント、ドライポイント、紙	44.7×33.0
35	渋谷栄一	楽園の子供達	1971 (昭和46)	エッチング、シュガーアクアチント、ドライポイント、紙	36.5×50.0
36	渋谷栄一	月明りのピエロ	1980 (昭和55)	エッチング、シュガーアクアチント、紙	36.4×20.2
37	渋谷栄一	楽園の調べ C	1981 (昭和56)	エッチング、シュガーアクアチント、紙	49.8×36.5
38	渋谷栄一	吟遊詩人 A	1975 (昭和50)	エッチング、シュガーアクアチント、紙	36.5×20.3

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。



会場風景

ポスターにみる旅のイメージ

会期＝平成10年6月26日(金)～8月26日(水)

主催＝北海道立帯広美術館

ベル・エポックと呼ばれ慣わされるヨーロッパの「古き良き時代」は、19世紀末から20世紀初頭に至る平和と繁栄の時代であり、旅行が大衆化に向かう幕開けの時代でもあった。人々は、見たことのない異国の地を訪ねては好奇心や冒険心を満たし、あるいは、リゾート地ではカジノやスポーツなどに興じ自由と享楽の時間を過ごした。そうした日常から切り離された旅心を駆り立てたのが、観光ポスターであった。

この展覧会では、当館所蔵のヨーロッパのポスターの中から、観光地や鉄道など旅行をテーマとした多彩な作品の数々を紹介した。



会場風景

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	不詳	自動車「ベルリエ」	1924	リトグラフ、紙	138.0× 95.0
2	アーヴェ・ラスムッセン	D.S.B.、デンマーク国有鉄道	1937	リトグラフ、紙	100.0× 63.0
3	フレデリック・ドロスト	8日間フリー・チケット	1936	リトグラフ、紙	100.0× 62.0
4	不詳	あなたの列車、C.F.F.	1939頃	リトグラフ、紙	125.2× 90.0
5	ルネ・グリュオー	くつろぎ	1950	リトグラフ、紙	80.0× 60.0
6	マリア・サッシ	イタリア航路、南アメリカ	1950	リトグラフ、紙	96.4× 59.5
7	不詳	パン・アメリカン航空によるアメリカ旅行	1940頃	オフセット、紙	92.5× 59.5
8	ポール・コラン	W公園	1935	リトグラフ、紙	80.0× 60.0
9	ベルナール・ヴィルモ	北アフリカ	1946	リトグラフ、紙	98.0× 61.5
10	アンリ・ゾー	スペイン旅行の割引チケット	1910頃	リトグラフ、紙	107.5× 76.0
11	ホセ・モレル	スペイン探訪	1941	リトグラフ、紙	98.6× 60.8
12	ベルナール・ヴィルモ	スペイン	1957	オフセット、紙	96.8× 60.3
13	ホセ・モレル	レバンテの海岸	1940頃	リトグラフ、紙	95.9× 61.4
14	ホセ・モレル	カンブロドン	1930	リトグラフ、紙	89.2× 61.0
15	不詳	フランスへ行こう、コート・ダジュール	1952	オフセット、紙	98.5× 61.0
16	J.P.ラタビィ	モン・ド・マルサン	1950	リトグラフ、紙	98.0× 60.6
17	アロイス・カリジエ	アローザ	1931	リトグラフ、紙	127.8× 91.5
18	W. マーレル	ジュネーヴ、スイス	1950	リトグラフ、紙	98.5× 63.5
19	ブッポ	モンテ・ファイト、ナポリ	1959	リトグラフ、紙	98.5× 64.0
20	不詳	ルガノ、グラント・パレス・ホテル	1910	リトグラフ、紙	69.3× 98.0
21	キルニツヒ専門工房	オーストリア	1935	リトグラフ、紙	93.6× 61.5
22	H.F.F.	ヘルシンキ	1930	オフセット、紙	99.0× 60.5
23	ロナルド・ランビット	コーンウォール	1920頃	リトグラフ、紙	100.0×123.5
24	リンヌ	バーデン＝バーデン、1934	1934	リトグラフ、紙	120.0× 80.0
25	H.ララメ	カジノ、トゥルーヴィル＝シュル＝メール	1902	リトグラフ、紙	129.5× 90.0
26	アルフレッド・シュープラク	トゥルーヴィルのカジノ	1885頃	リトグラフ、紙	130.0× 90.5
27	エマニュエル・ベリーニ	ニースの温泉、ベルトモン＝レ＝バン	1950	リトグラフ、紙	114.5× 77.5

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

十勝の新時代 I 森 弘志展

会期＝平成10年 9 月 4 日(金)－12 月 2 日(水)

主催＝北海道立帯広美術館

関連事業

トークショー

「森 弘志と語る」

講師＝森 弘志氏 (画家)

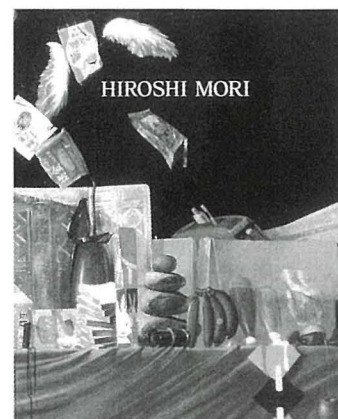
日時＝10月17日(土) 午後 2 時～ 4 時

会場＝コレクション・ギャラリー

「十勝の新時代」は、平成10年度より当館が新たに企画・開催したシリーズ展である。現在、および今後の活躍が期待される十勝ゆかりの作家に着目し、その制作活動の現況をコレクション・ギャラリーにおいて個展形式で紹介しようというものである。

シリーズ展の第 1 回目となる今回は、新得町在住の画家・森弘志の作品を紹介した。1960年新得町生まれの森弘志は、全道美術協会会員、安井賞展入選、VOCA展奨励賞受賞など積極的な制作活動によって注目を集めている画家である。自身の精神世界のありようを、人物や静物、風景などの具象的な表現に託し描き出したその作品は、豊かな物語性と深遠な象徴性をたたえ、具象絵画の可能性の一端を示すものとして高く評価されている。本展では1987年制作の安井賞展入賞作から最新作まで9作品を展示し、この10年あまりの制作の軌跡をたどった。

地元を代表する中堅作家の本格的な個展ということからも市民の関心は高く、会期中の観覧者は7,867名の多数を数える一方、新聞・テレビなど多方面で報道された。また展覧会に関連して、会期中会場内で作者自身によるトークショーを開催したが、多くの参加者を迎え活発な質疑がなされた。



図録



会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	もう一度口ごもられる世界	1987(昭和62)	油彩、キャンバス	162×62・162×130・162×62(3点組)	帯広・法人
2	水沿いの十一月	1988-89(昭和63-平成元)	油彩、キャンバス	124×32・124×32・124×32(3点組)	帯広・個人
3	夜の雨、あしたの海	1991(平成3)	油彩、キャンバス	162×61・162×97・162×97(3点組)	財団法人荒井記念美術館
4	霧の音	1992(平成4)	油彩、キャンバス	162×162	新得町教育委員会
5	少年深夜劇	1993-94(平成5-6)	油彩、キャンバス	227×80・227×162・227×80(3点組)	第一生命保険相互会社
6	それ、普通	1994-95(平成6-7)	油彩、キャンバス	162×162	北海道立帯広美術館
7	樹木門(未完)	1996(平成8)	油彩、キャンバス	162×162	作者
8	うろこを持つわたし	1997-98(平成9-10)	油彩、キャンバス	162×54・162×54・162×54(3点組)	作者
9	川の中のもう一本の川	1997-98(平成9-10)	油彩、キャンバス	194×130・194×162・194×162(3点組)	作者

* 寸法は縦×横。

バルビゾン村の画家たち

会期＝平成10年12月18日(金)－平成11年3月24日(水)
主催＝北海道立帯広美術館

19世紀中頃、パリの東南フォンテーヌブローの森のはずれにあるバルビゾン村で制作した一群の風景画家たちは、今日、バルビゾン派と呼ばれている。彼らは、フォンテーヌブローの豊かな自然を謳い上げた清新な作品を描き、近代風景画の確立に大きな役割を果たした。

本展は、当館に所蔵されているバルビゾン派およびその周辺作家の油彩、水彩、素描、版画19作家52点により、当館の特色あるコレクションの一端を紹介した。



会場風景

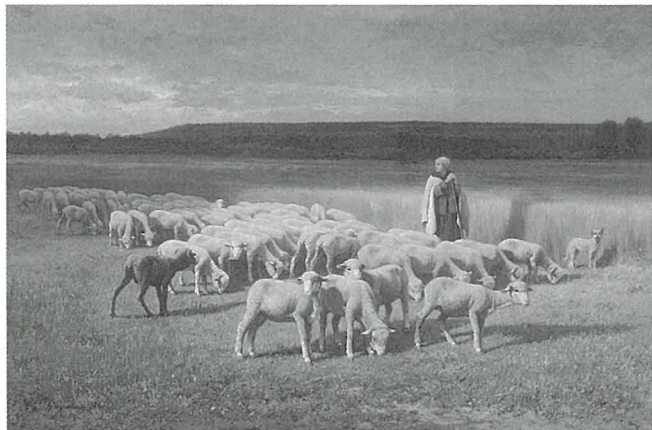
出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	A.アビアン	リックスの周辺	1864	エッチング、紙	7.0× 15.1
2	A.アビアン	ロメ谷	1868	エッチング、紙	10.1× 19.1
3	A.アビアン	リヨン周辺	1879	エッチング、紙	14.1× 23.3
4	A.アビアン	マントン近郊	1879	エッチング、紙	12.2× 20.1
5	H.J.アルピニー	川辺の道	不詳	水彩、紙	23.9× 33.7
6	H.J.アルピニー	川辺	不詳	水彩、紙	22.5× 33.8
7	A.アロンジェ	池の水門	1879	リトグラフ、木炭、紙	55.7× 41.6
8	A.アロンジェ	森の中	不詳	水彩、紙	53.5× 75.7
9	J.B.C.コロ	ひざまずくマグダラのマリア	1858	クリシェ＝ヴェール、紙	16.5× 11.4
10	J.B.C.コロ	イタリアの思い出	1863	エッチング、紙	29.5× 22.0
11	J.B.C.コロ	植林された平野	1866	エッチング、紙	10.0× 13.0
12	J.F.シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	油彩、キャンバス	65.4× 100.4
13	J.F.シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	エッチング、紙	19.8× 30.7
14	Ch.E.ジャック	蹄鉄場	1865	エッチング、紙	12.8× 19.3
15	Ch.E.ジャック	森の中の羊飼いと羊の群れ	不詳	油彩、キャンバス	81.2× 65.0
16	Ch.E.ジャック	オランダ牛	不詳	エッチング、紙	11.0× 17.9
17	Ch.E.ジャック	雄鳥と雌鳥	不詳	エッチング、紙	12.1× 17.0
18	Ch.E.ジャック	夏	不詳	エッチング、紙	12.8× 9.7
19	Ch.E.ジャック	水飲み場	19世紀後半	エッチング、紙	14.5× 21.0
20	Ch.E.ジャック	豚飼いの少年	19世紀後半	エッチング、紙	11.5× 17.7
21	L.シャブリ	牧場と木々	1873	油彩、キャンバス	32.0× 47.5
22	L.シャブリ	アレスの道（ジロンド）	不詳	エッチング、紙	14.3× 20.8
23	J.デュブレ	ソーニユの風車	1835	リトグラフ、紙	19.6× 14.0
24	J.デュブレ	ノルマンディー地方の風景	1835	リトグラフ、紙	13.7× 20.7
25	J.デュブレ	イギリス風景	1836	リトグラフ、紙	12.9× 20.7
26	J.デュブレ	アランソン風景	1839	リトグラフ、紙	13.3× 19.0
27	J.デュブレ	水飲み場	19世紀後半	パステル、紙	80.0× 98.8

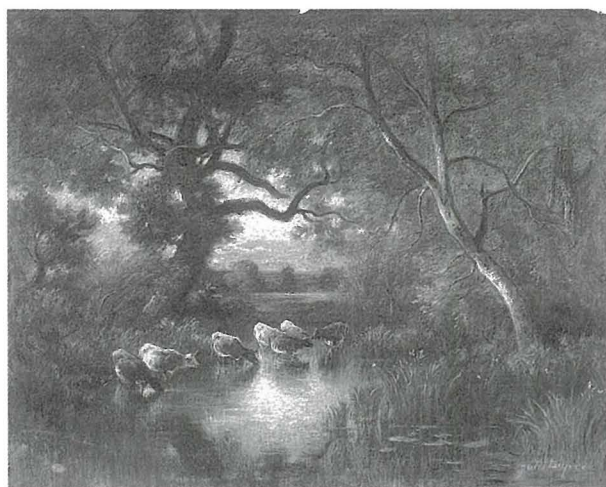
No	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
28	A.ドゥフォー	農家の中庭	19世紀後半	油彩、キャンバス	40.0× 68.0
29	Ch.F.ドービニー	レバノンの西洋杉	1842	エッチング、紙	17.5× 11.3
30	Ch.F.ドービニー	羊の柵囲い	1860	エッチング、紙	18.4× 34.3
31	Ch.F.ドービニー	オーヴェールのりんごの木	1877	エッチング、紙	14.0× 23.9
32	Ch.F.ドービニー	ヴィラーヴィル海岸	不詳	エッチング、紙	9.2× 19.8
33	C.トロワイヨン	牛のいる風景	不詳	油彩、キャンバス	80.6× 99.7
34	J.R.ブラカサ	海辺の羊	不詳	油彩、キャンバス	49.0× 65.0
35	F.L.フランセ	風景－丘陵の牛	1859	パステル、紙	54.7× 82.6
36	F.L.フランセ	沼辺の犬	不詳	リトグラフ、紙	15.6× 24.7
37	K.ボドメール	鹿の呼び声	不詳	油彩、キャンバス	101.0× 81.0
38	K.ボドメール	鹿	不詳	エッチング、手彩色、紙	8.7× 13.5
39	K.ボドメール	鳥の水場	不詳	リトグラフ、紙	48.8× 34.4
40	J.F.ミレー	裁縫する女	1855-56	エッチング、紙	10.5× 7.4
41	J.F.ミレー	耕す人	1855頃	エッチング、紙	24.0× 34.0
42	J.F.ミレー	落穂ひろい	1855-56	エッチング、紙	19.2× 25.0
43	P.ユエ	フォンテーヌブロー付近	1866	エッチング、紙	19.3× 28.0
44	P.ユエ	オージュ谷のノルマンディー人の家の庭	1866	エッチング、紙	9.5× 14.0
45	E.A.ラヴィエイユ	村の眺め	不詳	油彩、板	32.8× 56.0
46	L.リッシュ	農婦のいる風景	19世紀後半	油彩、キャンバス	43.8× 59.7
47	Th.ルソー	ビオーのサ克蘭ボの木	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	22.1× 27.7
48	Th.ルソー	ビオーの平原	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	21.8× 27.7
49	Th.ルソー	樅の木と岩	1861	エッチング、紙	12.7× 17.2
50	不詳	コロアの肖像	不詳	エッチング、紙	11.9× 10.9
51	不詳	ユエの肖像	不詳	エッチング、紙	15.1× 11.2
52	不詳	ドービニーの肖像	不詳	エッチング、紙	21.4× 15.3

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。



シェニョー「草原の羊飼いの少女と羊の群れ」



デュブレ「水飲み場」

平成9年度特別展一覧

No.	展 覧 会 名	会 期	開催日数	主 催 ・ 後 援 ほ か
1	帯広美術館コレクション選集 プリントアートの世界	4月5日(土)～ 5月5日(月)	27	主催／北海道立帯広美術館
2	栄光と伝統の19世紀 ヨーロッパ・アカデミー絵画展	5月13日(火)～ 6月15日(日)	30	主催／北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、北海道新聞社 後援／ポーランド大使館 協力／ルフトハンザ・ドイツ航空
3	象徴から神話へ～アメリカン・ポップ・カルチャーの聖像 マリリン・モンローと エルヴィス・プレスリー展	6月21日(土)～ 7月31日(木)	34	主催／北海道立帯広美術館、社団法人国際芸術文化振興会、財団法人日本文化藝術財団、NHK帯広放送局 後援／外務省、文化庁、アメリカ大使館 協力／日本航空 企画協力／エキシビジョン・マネージメント・インク
4	MOA美術館展 茶の湯の美術 季節の彩り・伝統の美	8月9日(土)～ 9月7日(日)	26	主催／北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、十勝毎日新聞社、財団法人エム・オー・エー美術・文化財団北海道支部、MOA美術館展実行委員会 後援／十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、十勝文化会議、帯広市町内会連絡協議会、帯広市民劇場運営協議会、とちかカルチャーネット、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、UHB帯広支社、HTB帯広支社、帯広シティケーブル、FM-JAGA 協力／MOA美術館 特別協賛／MOA美術館「帯広展」推進の会
5	太田記念美術館所蔵 浮世絵の中の美人たち	9月15日(月)～ 10月16日(木)	27	主催／北海道立帯広美術館、太田記念美術館、帯広美術館振興会、北海道新聞社
6	愛と幻想のイマジネーション マルク・シャガール展	10月25日(土)～ 12月7日(日)	37	主催／北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社 後援／フランス大使館 企画協力／アートブランニングレイ
7	知られざるインド更紗展 南海の島々インドネシアにおける発見	12月13日(土)～ 1月25日(日)	29	主催／北海道立帯広美術館、朝日新聞社 協力／岡田コレクション、今昔西村コレクション、織田有コレクション、国立民族学博物館
8	自然の中の画家たち [バルビゾン派／十勝]の美術	1月31日(土)～ 3月29日(日)	48	主催／北海道立帯広美術館

平成10年度特別展一覧

No.	展 覧 会 名	会 期	開催日数	主 催 ・ 後 援 ほ か
1	イギリス絵本の世界展 夢の記憶と出会うとき	4月10日(金)～ 5月13日(水)	29	主催／北海道立帯広美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 後援／ブリティッシュ・カウンシル、日本国際児童図書評議会 協賛／花王株式会社 協力／ヴァージンアトランティック航空 企画／(株)エム・エ・エム
2	北海道美術の20世紀 I 北海道はどう描かれてきたか	5月22日(金)～ 6月17日(水)	23	主催／北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社
3	明治の浮世絵版画	6月26日(金)～ 7月22日(水)	23	主催／北海道立帯広美術館、北海道新聞社
4	箱根・芦ノ湖 成川美術館所蔵 現代日本画名品展	7月31日(金)～ 8月26日(水)	23	主催／北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、十勝毎日新聞社、現代日本画名品展実行委員会 後援／十勝町村会、十勝教育局、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、十勝文化会議、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小中学校長会、帯広市校長会、十勝教育研究所、帯広市PTA連合会、帯広市町内会連絡協議会、財団法人帯広市文化スポーツ振興財団、とかちカルチャーネット、帯広市民劇場運営委員会、帯広シティーケーブル、FM-JAGA 協力／箱根・芦ノ湖 成川美術館
5	モネ、ルノワールと印象派の 画家たち	9月4日(金)～ 10月2日(金)	25	主催／北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会 後援／ドイツ連邦共和国大使館 協賛／大成建設 協力／ルフトハンザ・ドイツ航空
6	ヨーロッパの名窯 リモージュの輝き—磁器名品展— アドリアン・デュブーシェ国立美術館所蔵	10月9日(金)～ 12月2日(水)	46	主催／北海道立帯広美術館、北海道新聞社、リモージュの輝き展実行委員会 後援／フランス大使館 協力／エール・フランス国営航空会社
7	帯広美術館コレクション選集 現代の版画／道東の美術	12月18日(金)～ 3月24日(水)	73	主催／北海道立帯広美術館

帯広美術館コレクション選集 プリントアートの世界

会期＝平成9年4月5日(土)－5月5日(月)

主催＝北海道立帯広美術館

美術館にとってコレクションは活動の軸となる重要なものである。北海道立帯広美術館は、平成3年9月の開館以来、多くの展覧会の企画・開催を進めると同時に積極的な作品収集を行っており、その数は平成8年度末までで468点に達している。収集方針として、地域ゆかりの美術を収集する「道東の美術」、並びに近現代美術の版画を中心とした「プリントアート」の二つを核にコレクションの充実をはかっている。さらに、平成11年度からは農業を基幹産業とする地域の特性を鑑み、農村風俗や田園風景を描いた「西洋の美術」を三番目の核として加えることとした。

本展ではその中から、当館コレクションのプリントアートに焦点を当て、現代のプリントアート、バルビゾン派の版画、ヨーロッパのポスター、といった三つのコーナーによって、その多彩な造形世界を紹介した。



会場風景

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	一原有徳	ZOM 88	1988	モノタイプ (アルミ板)、鳥の子紙	151.0×425.0
2	幾 嘯	オープニング或いは再び田園	1992	シルクスクリーン、紙	各105.0×157.0(2点組)
3	磯辺行久	江戸障壁	1965	ミクストメディア、紙	200.5×299.5
4	横尾忠則	ブルー・ワンダーランド	1973	シルクスクリーン、紙	各103.2×72.6(8点組)
5	島 州一	CONSTRUCTION OF FINGER PRINTS NO.38	1982-85	フィンガープリント、シルクスクリーン ステレンボード、アクリルボックス、チョーク	90.0×98.0×d11.3
6	島 州一	FINGER PRINT	1981	フロッタージュ、粘土、和紙、段ボール	99.0×69.0
7	島 州一	FINGER PRINT	1981	フロッタージュ、粘土、和紙	73.0×63.5
8	池田良二	Space of foggy ocean (海霧の空間)	1990	フォトエッチング、エッチング、アクアチメント ドライポイント、メゾチント、手漉き雁皮	113.5×179.7
9	百瀬 寿	Square-Metallic Yellow and Silver	1984	シルクスクリーン、紙	90.0×90.0
10	百瀬 寿	Square-Metallic Green and Violet	1984	シルクスクリーン、紙	90.0×90.0
11	百瀬 寿	Square-Vertical Blue to Magenta	1981	キャンバス、スクヤナグラフ (NECO)	180.0×180.2
12	國安孝昌	Wind Field Project	1994	鉛筆、コピー、紙	各35.2×52.2 (15点組)
13	大浦一志	杉並区阿佐ヶ谷南3丁目23-13〜普賢岳 (川は水を必要としていた)	1994	土、石、灰、木、合成樹脂、印画紙	169.0×225.0
14	森村泰昌	野菜涅槃 (若冲)	1990	カラー写真プリント	185.3×100.1
15	森村泰昌	寒雀寒鳩 (御舟)	1990	カラー写真プリント	132.9×97.8
16	太田三郎	Seed Project	1992-95	種子、和紙	20.4×11.7他
		-1 マメゲンバイナズナ <i>Lepidium virginicu</i> L. 1992年8月6日香川県小豆島寒霞溪			
		-2 ナナカマド <i>Sorbus commixta</i> Hedl. 1992年12月30日北海道小樽市幸			
		-3 クジャクソウ <i>Tagestes</i> 1993年6月4日東京都中央区築地			
		-4 イヌムギ <i>Bromus catharticus</i> Vahl 1993年6月12日東京都練馬区北町			
		-5 ヤマノイモ <i>Dioscorea japonica</i> Thunb. 1993年11月3日東京都練馬区北町			
		-6 センダングサ <i>Bidens biternata</i> Merr. et Sherff 1993年12月11日東京都練馬区高松			
		-7 シロバナタンポポ <i>Taraxacum albidum</i> Dahlst. 1994年4月24日岡山県津山市北園町			
		-8 チカラシバ <i>Pennisetum alopecuroides</i> Spreng. 1994年10月14日岡山県津山市山北			
		-9 ツワブキ <i>Farfugium japonicum</i> Kitam. 1995年1月3日岡山県津山市北園町			
		-10 ヘリクリサム <i>Helichrysum bracteatum</i> 1995年7月26日山形県山形市霞城公園			
17	デイヴィッド・ホックニー	京都 1993年4月24日	1993	カラー・レーザー・プリント紙	43.2×160.2
18	フランク・ステラ	スワン・エングレイヴィング、 ブルー、グリーン、グレー	1985	エッチング、ミクストメディア、紙	169.0×133.0
19	マイク・スターン、ダグ・スターン	若い娘たち	1990-93	印画紙、透明フィルム、木、釘	57.5×46.0×d5.5他 (9点組)
20	ロバート・ラウシェンバーク	スリング-ショット・リット No.8	1985	シルクスクリーン、ミストメディア	214.3×141.8×d32.2
21	不詳	コロの肖像	不詳	エッチング、紙	11.9×10.9
22	ジャン・バティスト=カミーユ・コロ	ひざまずくマグダラのマリア	1858	クリシェ=ヴェール、紙	16.5×11.4
23	ジャン・バティスト=カミーユ・コロ	植林された平野	1866	エッチング、紙	10.0×13.0
24	ジャン・バティスト=カミーユ・コロ	イタリアの思い出	1863	エッチング、紙	29.5×22.0
25	不詳	ユエの肖像	不詳	エッチング、紙	15.1×11.2

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
26	ボール・ユエ	オージュ谷のノルマンディー人の家の庭	1866	エッチング、紙	9.5×14.0
27	ボール・ユエ	フォンテヌブロー付近	1866	エッチング、紙	19.3×28.0
28	カール・ボドメール	鹿	不詳	エッチング、手彩色、紙	8.7×13.5
29	カール・ボドメール	鳥の水場	不詳	リトグラフ、紙	48.8×34.4
30	ジュール・デュブレ	イギリス風景	1836	リトグラフ、紙	12.9×20.7
31	ジュール・デュブレ	ノルマンディー地方の風景	1835	リトグラフ、紙	13.7×20.7
32	ジュール・デュブレ	ソローニュの風車	1835	リトグラフ、紙	19.6×14.0
33	ジュール・デュブレ	アランソン風景	1839	リトグラフ、紙	13.3×19.0
34	テオドール・ルソー	樅の木と岩	1861	エッチング、紙	12.7×17.2
35	テオドール・ルソー	ビオーの平原	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	21.8×27.7
36	テオドール・ルソー	ビオーのサクランボの木	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	22.1×27.7
37	ジャン=フランソワ・ミレー	裁縫する女	1855-56	エッチング、紙	10.5× 7.4
38	ジャン=フランソワ・ミレー	耕す人	1855頃	エッチング、紙	24.0×34.0
39	ジャン=フランソワ・ミレー	落穂ひろい	1855-56	エッチング、紙	19.2×25.0
40	シャルル=ミエール・ジャック	雄鶏と雌鶏	不詳	エッチング、紙	12.1×17.0
41	シャルル=ミエール・ジャック	蹄鉄場	1865	エッチング、紙	12.8×19.3
42	シャルル=ミエール・ジャック	オランダ牛	不詳	エッチング、紙	11.0×17.9
43	シャルル=ミエール・ジャック	夏	不詳	エッチング、紙	12.8× 9.7
44	シャルル=ミエール・ジャック	水飲み場	19世紀後半	エッチング、紙	14.5×21.0
45	シャルル=ミエール・ジャック	豚飼いの少年	19世紀後半	エッチング、紙	11.5×17.7
46	フランソワ=ルイ・フランセ	沼辺の犬	不詳	リトグラフ、紙	15.6×24.7
47	不詳	ドービニーの肖像	不詳	エッチング、紙	21.4×15.3
48	シャルル=フランソワ・ドビーニー	ヴィラーヴィル海岸	不詳	エッチング、紙	9.2×19.8
49	シャルル=フランソワ・ドビーニー	羊の柵囲い	1860	エッチング、紙	18.4×34.3
50	シャルル=フランソワ・ドビーニー	レバノンの西洋杉	1842	エッチング、紙	17.5×11.3
51	シャルル=フランソワ・ドビーニー	オーヴェールのりんごの木	1877	エッチング、紙	14.0×23.9
52	アドルフ・アピアン	ロメ谷	1868	エッチング、紙	10.1×19.1
53	アドルフ・アピアン	リックスの周辺	1864	エッチング、紙	7.0×15.1
54	アドルフ・アピアン	リヨン周辺	1879	エッチング、紙	14.1×23.3
55	アドルフ・アピアン	マントン近郊	1879	エッチング、紙	12.2×20.1
56	レオンス・シャブリ	アレスの道（ジロンド）	不詳	エッチング、紙	14.3×20.8
57	アーウェ・ラスムッセン	D.S.B.、デンマーク国有鉄道	1937	リトグラフ、紙	100.0×63.0
58	フレデリック・ドロスト	8日間フリーチケット	1936	リトグラフ、紙	100.0×62.0
59	不詳	あなたの列車、C.F.F.	1939頃	リトグラフ、紙	125.2×90.0
60	キルニッヒ専門工房	オーストリア	1935	リトグラフ、紙	93.6×61.5
61	ホセ・モレル	カンブロードン	1930	リトグラフ、紙	89.2×61.0
62	アロイス・カリジエ	アローザ	1931	リトグラフ、紙	127.8×91.5
63	不詳	自動車「ベルリエ」	1926	リトグラフ、紙	138.0×95.0
64	不詳	自動車「ビューイール」	1924	リトグラフ、紙	140.0×100.0
65	不詳	シトロエンの在庫	1923	リトグラフ、紙	156.0×116.0
66	リンヌ	バーデン=バーデン、1934	1934	リトグラフ、紙	120.0×80.0
67	エティエンヌ・ベネール	アーラウ	1937頃	リトグラフ、紙	126.0×90.0
68	ボール・コラン	W公園	1935	リトグラフ、紙	80.0×60.0
69	N. ジェラルド	雪の楽しみ、高まる喜び	1938	リトグラフ、紙	97.5×59.0
70	レシェク・ピアトコフスキー	F I S スキー世界選手権	1939	オフセット、紙	96.4×60.1
71	S.G.	第25回ザグレブ見本市	1936	リトグラフ、紙	91.0×57.5
72	ペッシーニ	ルガノ・スイス見本市	1937	リトグラフ、紙	117.0×81.8
73	マルト・レ工房	アンリ・エズデール・グランプリ ーモンルージュ・スポーツ・クラブ主催	1928	リトグラフ、紙	114.0×71.5
74	ボール・コラン	ジョセフィン・ベイカー	1925	リトグラフ、紙	80.0×60.0
75	ジャン・ドン	ジャヌ・マルニ	1930	リトグラフ、紙	153.5×110.5
76	R. ショピイ	ブランシュ・ノレル	1926	リトグラフ、紙	94.5×63.0
77	ジャン=ガブリエル・ドメルグ	バゲーラ	1935	リトグラフ、紙	117.6×75.2
78	ラウール・マルトン	ワイン「ジェスヴェレール」	1930頃	リトグラフ、紙	150.3×112.5
79	バルドリッシュ	果物は健康食品	1928	リトグラフ、紙	107.5×66.5
80	オットー・パウムベルガー	高品質の P K Z	1921	リトグラフ、紙	124.5×84.2

* 寸法は縦×横（×d 奥行）。
 * 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

栄光と伝統の19世紀 ヨーロッパ・アカデミー絵画展

会期＝平成9年5月13日(火)～6月15日(日)

主催＝北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育
委員会、北海道新聞社

後援＝ポーランド大使館

協力＝ルフトハンザ・ドイツ航空

関連事業

特別展セミナー

「アカデミズムの伝統と印象派の誕生」

講師＝寺嶋弘道（当館学芸課長）

日時＝5月31日(土)、6月14日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

土曜映写室

「ロマン派宣言」「リアリズムの道」

日時＝5月17日(土)、5月24日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂



ポスター



図録

近年、ヨーロッパ各国では西洋美術の主流をなしたアカデミズムの画家たちの再発見、再評価が盛んになっている。とりわけ、印象派の画家たちが登場する19世紀の絵画界にあって社会的権威を保っていた官立の美術組織、アカデミーを中心に活躍した数多くの画家たちには再び大きな光が当てられている。

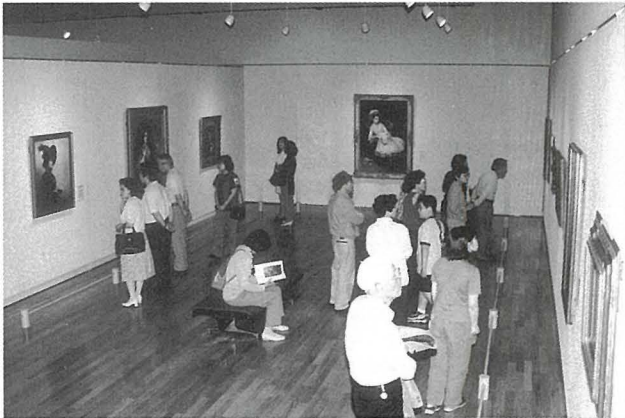
アカデミーは、体系的な美術教育と主題や表現上の規範の設定などによって、ルネサンスから継承した伝統的な美学を賛美し、当時の美術界を強力に支配していた。熟達した技法の基礎の上に、多彩な歴史物語や平明な日常生活の情景を描いた彼らの作品は、多くの人々に受け入れられ圧倒的な人気を博した。アカデミーにおける表現傾向はアカデミズムと呼ばれて画壇の主流を占める一方、その保守的な姿勢は批判の対象ともなり、やがて伝統と革新、

保守派と新興勢力の対立となっていった。
しかし、彼らの魅力に富んだ優れた作品の数々は、今日、改めて絵画史上に位置を得て、その影響の幅の広さと重要性が大きく見直されている。

本展では、ワルシャワ国立美術館を中心としたポーランド国内のコレクションにより、新古典主義を代表するアングルをはじめ、ジェローム、ブーグロー、マティコ、アルマ=タデマ、レイトンなど、19世紀を代表するヨーロッパ各国の巨匠たちの作品98点が紹介された。ヨーロッパ絵画のいわば正統派ともいえるアカデミズムの系譜を辿り、この時代の美術の精華に触れる格好の機会となった。



館外景

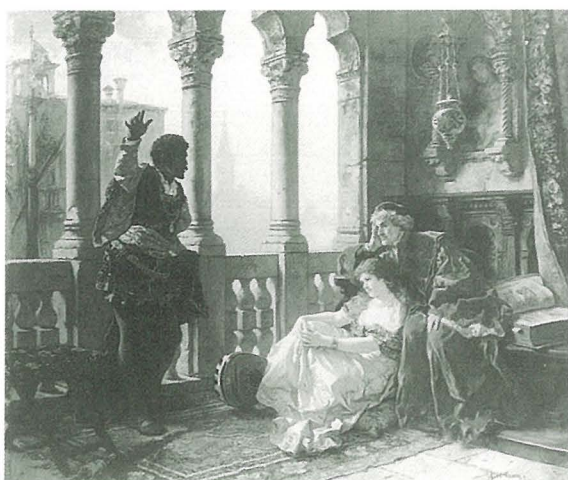


会場風景

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	ローレンス・アルマ=タデマ	イグナツィ・パデレフスキの肖像	1890	油彩、キャンバス	45.5× 59.0
2	イヴァン・コンスタンティノヴィッチ・アイヴァゾフスキー	クリミアの風景		油彩、キャンバス	133.0×172.0
3	カール・ベッカー	語るオセロ		油彩、キャンバス	159.5×190.0
4	アンナ・ピリンスカ=ボフダノヴィチョヴァ	オペラ・グラスを持つ婦人の肖像	1884	油彩、キャンバス	91.0× 72.0
5	アンナ・ピリンスカ=ボフダノヴィチョヴァ	男性のセミヌード ― 習作	1885	油彩、グワッシュ、キャンバス	95.0× 67.0
6	クリストフェル・ビスホッフ	施し		油彩、キャンバス	130.0×140.0
7	ウィリアム・アドルフ・ブーグロー	ヴィーナスとキューピッド		油彩、キャンバス	195.5×106.5
8	ウィリアム・アドルフ・ブーグロー	若い女性の肖像		油彩、キャンバス	46.0× 38.0
9	ユゼフ・ブランド	ザポロジェのキャンブ	1880頃	油彩、キャンバス	72.5×113.0
10	ユゼフ・ブランド	ポチャユフの聖母マリア ― 草原の祈り	1890頃	油彩、キャンバス	65.0×120.0
11	ユゼフ・ブロードフスキ	チュートン騎士団との闘いから帰還するリトアニア人たち	1868	油彩、キャンバス	92.0×144.0
12	ヴァツラフ・プロジク	乳飲み子を抱えて逃げる母親		油彩、キャンバス	137.5×116.0
13	グスタフ・ダニエル・ブドコフスキ	求婚	1862	油彩、キャンバス	119.0× 86.0
14	ユゼフ・ハウモニスキ	水鳥	1894	油彩、キャンバス	133.0×198.5
15	ユゼフ・ハウモニスキ	ウクライナの埋葬塚	1912	油彩、キャンバス	111.0×189.0
16	ローヴィス・コリント	人形を抱いたアンナ・シャウンベルクの肖像		油彩、キャンバス	90.0× 53.5
17	ヴワディスワフ・チャプルスキ	ライラック色のドレスを着た婦人と花	1880-90頃	油彩、キャンバス	55.0× 78.0
18	ナルシス・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	沐浴するヴィーナス		油彩、キャンバス	69.0× 47.0
19	アンゼルム・フォイエルバハ	自画像	1854	油彩、キャンバス	96.5× 81.0
20	アンゼルム・フォイエルバハ	ビエトロ・アレティーノの死		油彩、キャンバス	101.0× 81.0
21	ジャン=レオン・ジェローム	水差しを持つエジプト女性（フェラの女）		油彩、キャンバス	46.2× 37.9
22	ヴォイチェフ・ゲルソン	森の精の誘惑	1864	油彩、キャンバス	88.0× 70.0
23	ヴォイチェフ・ゲルソン	タトラ山地のビャラ・ヴォダ溪谷の断崖	1892	油彩、キャンバス	80.5× 65.5
24	ヴォイチェフ・ゲルソン	休息	1895	油彩、キャンバス	143.0×195.0
25	ヴォイチェフ・ゲルソン	裸婦	1896頃	油彩、キャンバス	194.0×114.0

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
26	カルル・フェドロヴィチ・グン	ヌイイの船遊び		油彩、キャンバス	32.0× 44.5
27	ルートヴィヒ・フォン・ホフマン	寓話		油彩、キャンバス	149.5× 95.5
28	ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル	アカデミック・スタディ	1801	油彩、キャンバス	97.5× 80.6
29	フランツ・クネベル	ローマのフォロ・ボアーリロの風景	1872	油彩、キャンバス	75.5×105.5
30	コンスタンチン・アレクセヴィチ・コロヴィン	パリの路		油彩、キャンバス	89.0× 67.5
31	フレデリック・レイトン	ソフィー・ウェルズリーの肖像		油彩、キャンバス	69.0× 51.0
32	ライムンド・マドラソ・イ・ガレッタ	ピンクのドレスを着た少女の肖像		油彩、キャンバス	151.0×100.0
33	ハンス・マカルト	若い女性の肖像		油彩、キャンバス	157.0×130.0
34	ハンス・マカルト	愛の寓意		油彩、キャンバス	91.4× 76.2
35	ウラジーミル・イゴロヴィチ・マコフスキー	画家セルゲイ・コロヴィンの肖像	1892	油彩、キャンバス	121.0× 78.0
36	ヤン・マティコ	ヴィリニウスのラジヴィウ宮殿にいるズィグムント・アウグストゥス王とその妻バルバラ	1867	油彩、キャンバス	127.0×107.0
37	ガブリエル・フォン・マックス	タンホイザー		油彩、キャンバス	194.0×139.0
38	フリードリヒ・ブレラー (父)	オデュッセウスとナウシカ	1864	油彩、キャンバス	100.0×156.5
39	アレクサンドル・ドニ・アベル・ド・ピュジョル	ベンジャミンに兄弟を託すヤコブ		油彩、キャンバス	110.0×140.0
40	テオデュー・リボ	陶芸家		油彩、キャンバス	101.0× 88.0
41	イリヤ・エフィモヴィチ・レーピン	農家の少女	1880	油彩、キャンバス	62.0× 38.0
42	レオポルド・ロペール	バルディ・ボンチネから帰ってくる収穫者たち		油彩、キャンバス	100.0×136.0
43	アロイス・ハンス・シュラム	花で飾られたブッダの祭壇		油彩、キャンバス	98.5×184.0
44	ヘンリク・シェミラツキ	ローマの牧歌的風景 (釣り)		油彩、キャンバス	55.5× 75.0
45	ヘンリク・シェミラツキ	泉にて		油彩、キャンバス	96.0×149.0
46	ユゼフ・シムラー	バルバラ・ラジヴィウの死	1860	油彩、キャンバス	96.0×111.0
47	レオナルド・ストラシンスキ	リエージュ司教ルイ・ド・ブルボンの殺害	1862	油彩、キャンバス	104.5×184.0
48	パンタレオン・シンドラー	イヴ	1889	油彩、キャンバス	211.5×118.0
49	ヴァシリー・ヴェレシュヤギン	東方の市場		油彩、厚紙	47.5× 67.5
50	アントワヌ・ヴォロン	静物—果物籠		油彩、キャンバス	47.0× 55.6
51	ルドヴィク・ヴィエショウオフスキ	竖琴を奏でるダヴィデ	1881	油彩、キャンバス	184.0× 97.0
52	フランツ・クサファー・ウィンター＝ハルター	トルコの衣装をまとったカタズィーナ・プラニツカニボツカの肖像	1854	油彩、キャンバス	116.0× 88.5
53	フランチェスク・ズムルコ	パーディシヤ・オーダーより	1888	油彩、キャンバス	135.5×240.0
54	ミハウ・エルヴィロ・アンジオリ	コンラート・ヴァレンロートの死 (「これらは我が人生における罪の数々!」)	1891	インク、グワッシュ、紙 (厚紙で裏打ち)	84.7× 62.6
55	ミハウ・エルヴィロ・アンジオリ	「リトアニア人はどこからやってきた? 彼らは夜討ちをかけてきた……」	1892	チョーク、墨、グワッシュ、紙 (キャンバスで裏打ち)	97.0×151.0
56	レオン・バクスト	若い女性の肖像		水彩、紙	42.0× 27.0
57	アルベール・ベナール	若い女性の肖像		パステル、紙	56.5× 46.0
58	アントニ・ブロードフスキ	ワルシャワ国立劇場メイン・ホールの壁画のためのデザイン	1826	鉛筆、水彩、グワッシュ、紙	36.5× 50.6
59	アルベール＝エルネスト・カリエ＝ベールズ	松明を持つ女性の形をしたガス灯用燭台のデザイン		鉛筆、色チョーク、紙	42.1× 24.7
60	ローヴィス・コリント	裸体の習作	1904	パステル、木炭、紙	65.5× 50.6
61	モーリス・ドニ	化粧する少女またはニンフ	1899	リトグラフ、紙 (木炭と青鉛筆でアクセント)	56.8× 43.5
62	ジュリアン・ファラ	船出	1885	水彩、紙 (厚紙で裏打ち)	26.8× 38.0
63	ジュリアン・ファラ	シュヴィテシュ湖		水彩、紙	72.0× 50.5
64	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	女狩人またはディアナ	1892	リトグラフ、紙	22.7× 28.5
65	アンリ・ファンタン＝ラトゥール	ミューズ	1892	リトグラフ、紙	22.8× 15.0
66	ヴォイチェフ・ゲルソン	カルパティア山脈の風景	1855	油彩、紙 (厚紙で裏打ち)	17.1× 26.2
67	ヴォイチェフ・ゲルソン	施しを与える聖ヘドヴィク	1861	水彩、紙	28.3× 14.8
68	ヴォイチェフ・ゲルソン	ソビエシヤダ	1889	水彩、紙	18.1× 26.2
69	ヴォイチェフ・ゲルソン	グースネックからの風景	1892	水彩、厚紙	18.2× 26.5
70	ヴォイチェフ・ゲルソン	レシェク白髪侯の死	1898	木炭、チョーク、紙	79.8× 59.8
71	ヴォイチェフ・ゲルソン	夏の風景		水彩、紙	21.8× 28.4



カール・ベッカー「語るオセロ」



ウィリアム・アドルフ・ブーグロー
「ヴィーナスとキューピッド」

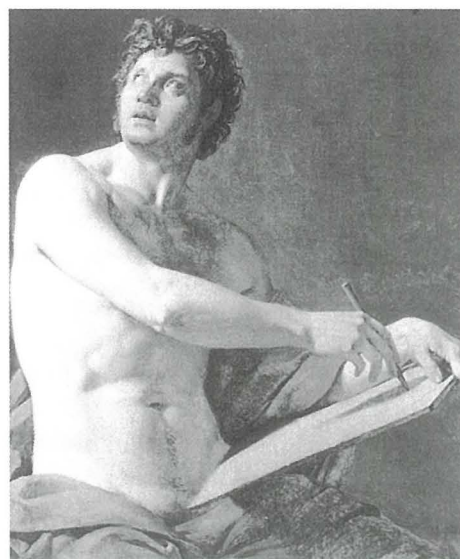
No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
72	アレクサンダー・ギエルイムスキ	フィレンツェのサンタ・クロチェ教会のゾフィア・チャルトルイスカ・ザモイスカの墓	1885頃	水彩、グワッシュ、油ワニス、厚紙	41.0× 33.2
73	アレクサンダー・ギエルイムスキ	芸術と科学		インク、グワッシュ、鉛筆、紙(厚紙で裏打ち)	41.7× 30.3
74	マクシミリアン・ギエルイムスキ	森の射撃場	1873	鉛筆、墨、グワッシュ、紙	31.4× 48.0
75	フランツ・テオドル・グローセ	寓意的構成		鉛筆、紙	24.7× 38.0
76	アルトゥル・グロットゲル	彗星	1866	チョーク、紙	44.5× 59.3
77	アルトゥル・グロットゲル	ナポレオン像の前にて	1867	黒と白のチョーク、紙(キャンバスで裏打ち)	50.0× 63.0
78	エドゥアルト・グルユツナー	シェークスピアの『ヘンリー4世』のための挿絵	1877	木炭、白チョーク、紙(キャンバスで裏打ち)	108.0× 89.5
79	レオポルド・ホロヴィッツ	ヘレナ・モザエイエフスカの肖像	1888	木炭、キャンバス	65.5× 50.5
80	アントニ・カミエンスキ	未完成作品	1900	黒チョーク、木炭、白チョーク、パステル、紙(キャンバスで裏打ち)	94.0× 94.0
81	アントニ・カミエンスキ	慈善事業のための寄付を集める修道女たち		墨、グワッシュ、紙(厚紙で裏打ち)	35.2× 43.5
82	ヴィルヘルム・フォン・カウルバハ	福音書記者、聖ルカ	1850	鉛筆、紙	54.0× 39.0
83	アレクサンダー・レッサー	ゆがんだ口のボレスワフ王の青年時代		鉛筆、紙	73.3× 50.2
84	アルフォンス・ミュシャ	モエ・エ・シャンドン社のポスターのための下絵		墨、水彩、紙	68.1× 27.7
85	ヴァツワフ・パヴウイシャク	タタル人の射手		墨、グワッシュ、紙	34.3× 25.0
86	ヴァツワフ・パヴウイシャク	ハゲコウのいる東方の風景		水彩、紙	47.5× 70.0
87	ヴァツワフ・パヴウイシャク	伝染病犠牲者の父		水彩、チョーク、紙	27.2× 46.0
88	ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ	ソース川の寓意		パステル、紙	120.0× 40.0
89	ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ	ロース川の寓意		パステル、紙	120.0× 40.0
90	アリ・シェファー	聖アウグスティヌスと聖モニカ		水彩、グワッシュ、紙	58.0× 46.7
91	ヨハン・ヴィルヘルム・シルマー	放浪者のいる風景		木炭、白チョーク、紙	42.1× 54.9
92	ユリウス・ショルツ	「ヴァレンシュタイン将軍の最後の祝宴」のための習作	1862	木炭、色チョーク、紙	19.3× 34.7
93	モーリツ・フォン・シュヴァイント	ミダスの審判		鉛筆、褐色の淡彩、紙	25.0× 35.0
94	ヘンリク・シェミラツキ	二人の騎手がいる風景		墨、オイル・グワッシュ、チョーク、紙(厚紙で裏打ち)	30.1× 37.1
95	ヘンリク・シェミラツキ	リラの演奏		鉛筆、チョーク、墨、水彩、グワッシュ、紙	22.2× 24.8
96	ヴィルヘルム・トリュブナー	立ち姿の裸婦のための習作		鉛筆、紙	48.7× 32.5
97	カール・フリードリヒ・ヴェルナー	ナイル川のフィラエ島のイシス神殿の景観、1865年1月21日		水彩、厚紙	37.2× 64.3
98	ミハイル・ズイフイ	ミハイル・レールモントフの詩『悪魔』のための挿絵	1872	鉛筆、黒と白のチョーク、紙	72.0× 49.2

* 寸法は縦×横。

* №3、19はヴロツワフ国立美術館蔵、№20はグダンスク国立美術館蔵、№30、41はウッチ美術館蔵、№38、42はポズナン国立美術館蔵、№7、8、18、21、31、32、34、43、50はヨハネ・パウロ2世コレクション蔵、他はワルシャワ国立美術館蔵。



ヴォイチェフ・ゲルソン「休息」



ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル
「アカデミック・スタディ」

象徴から神話へ～アメリカン・ポップ・カルチャーの聖像 マリリン・モンローとエルヴィス・プレスリー展

会期＝平成9年6月21日(土)～7月31日(木)

主催＝北海道立帯広美術館、社団法人国際芸術文化振興会、財団法人日本文化藝術財団、NHK帯広放送局

後援＝外務省、文化庁、アメリカ大使館

協力＝日本航空

企画協力＝エキシビジョン・マネージメント・インク

関連事業

美術講演会

「エルヴィス：不滅のアメリカン・ヒーロー」

講師＝前田絢子氏（フェリス女学院大学教授）

日時＝6月21日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

特別展セミナー

「ポップ・アートの巨匠たち」

講師＝鎌田 享（当館学芸員）

日時＝7月5日(土)、7月19日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

土曜映写室

「ジス・イズ・エルヴィス」「七年目の浮気」

日時＝6月28日(土) 午後1時～

会場＝当館講堂

ミュージアム・ミステリー

「アメリカン・ポップの神話に挑戦」

日時＝7月12日(土) 午前10時～午後4時

会場＝当館講堂、展示室



ポスター



図録

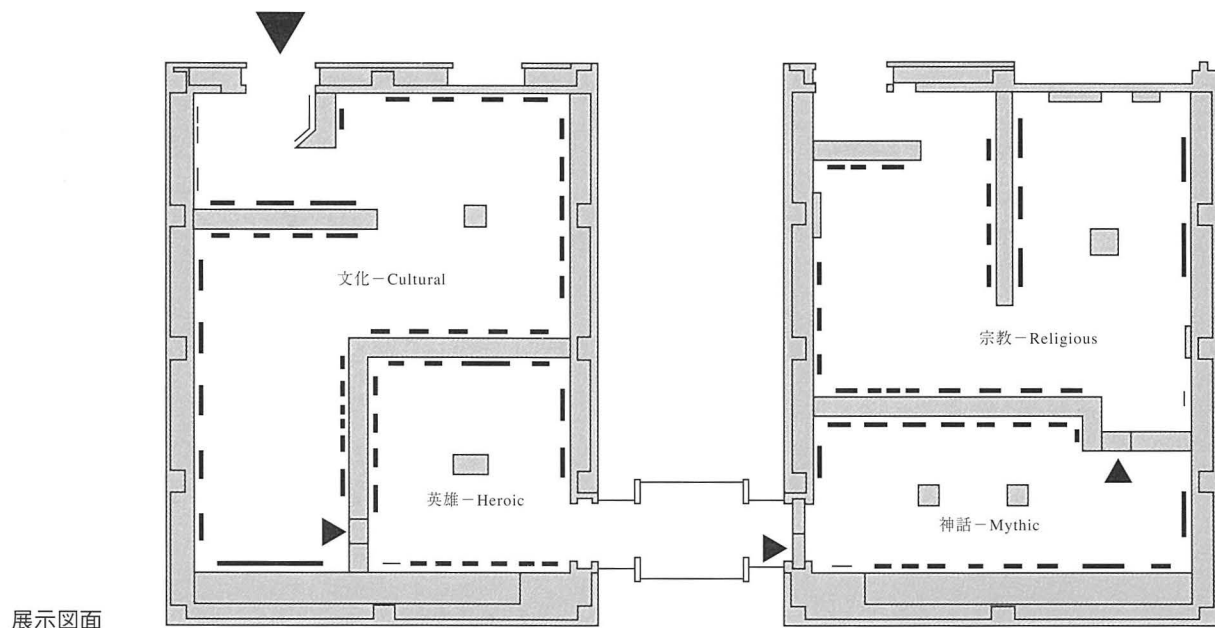
マリリン・モンローとエルヴィス・プレスリーは、第二次世界大戦後のアメリカを代表する二大スターであり、没後数十年を経た今なおファンの心を引きつけて止まない。その存在は、たとえば多くの美術家が彼らをテーマとした作品を制作してきたというように、映画や音楽にとどまらず幅広い分野に影響をおよぼしてきた。彼らは、現代アメリカの社会や文化のシンボルとみなされてきたのである。

この展覧会ではモンローとプレスリーという二人を主題にした1950年代から現代にいたる欧米や日本の美術作品109点を紹介。現代における美術とサブ・カルチャーの関連性・同期性を探るとともに、二人の傑出したスターの図像が美術の中でいかに多様な意味・内容を付加されてきたかを検証した。出品作品は、「文化 Cultural」「英雄 Heroic」「神話 Mythic」「宗教 Religious」という四つのコーナーに分け構成。これらのコーナー分けは、社会的な事象が、やがては伝説化され、宗教上の信仰対象に変換されていくという民俗学的な視点を反映したものである。

本展は日米あわせて17会場で開催された国際巡回展である。リ

チャード・ハミルトン、アンディ・ウォーホル、クリストなど現代美術の巨匠たちの作品、および現在活躍中のアメリカの中堅・若手作家の作品によって構成された展覧会が、1995年から97年にかけてアメリカ国内11会場を巡回。その後、同展出品作品に磯崎新、横尾忠則、池田満寿夫、森村泰昌ら日本人作家の作品や国内の美術館に所蔵されている欧米作家の作品を加えて再構成し、1997年から98年にかけて、日本国内6会場を巡回した。帯広美術館は日本巡回展の第1会場として本展の準備に携わった。

美術とサブ・カルチャーの接点を探るという本展の趣旨に基づき、文化史的視点からプレスリーを取り上げた講演会や、プレスリー、モンローに関わる映画の上映など、多彩な内容の関連事業を実施。現代美術に関心のある層ばかりでなく、音楽ファンや映画ファンなど若年層を中心に幅広い層の来館者を迎える一方、共催者のNHKをはじめ多数の報道機関で紹介されるなど、多くの関心を集める展覧会であった。



展示図面



会場風景



会場風景

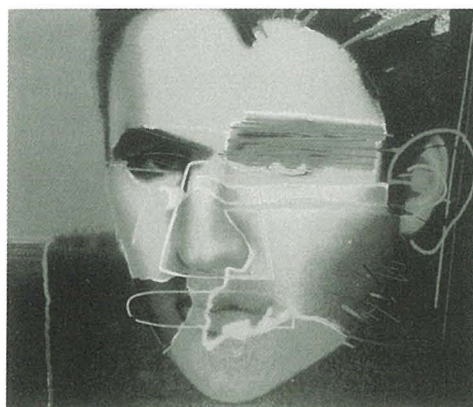
出品目録

文化- Cultural

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	アニー・アショアニット	マリリンとしてのアン（『生物学的人間』シリーズ）より	1991	ゼラチン・シルバー・プリント	73.6×73.6
2	荒木経惟	「東京物語」より	1987	ゼラチン・シルバー・プリント	60.3×75.7
3	ピーター・ブレイク	マリリン・モンローの壁 No.2	1990	ミクスト・メディア	167×109.8
4	ロジャー・ブラウン	キッス・カズン	1990	油彩、キャンバス	183×183
5	ウェイン・エドソン・ブライアン	ラスタス・フーによるフー・オブ・ソーツ	1990	エナメル、木	45.7×81
6	パティ・キャロル	12人の踊る日本のエルヴィス	1997	デュラトランス写真、木	147.3×111.7×d17.7
7	アラン・ダーカンジェロ	マリリン	1962	アクリリック、糸、鉄、キャンバス	152×140
8	アラン・ダーカンジェロ	見出されたマリリン	1962	ファウンド・オブジェ、プレキシガラス、鎖	133×103
9	デイズ	逃走	1989	スプレー絵具、アクリリック、キャンバス	185.4×162.5
10	ジュシカ・ダイヤモンド	金の延べ棒	1989-90	金メッキしたブロンズ	6×16×3.5
11	ウティーヴン・ダニング	無題	1991	アクリリック、キャンバス	131.4×81.2
12	磯崎新	モンローチェア	1974	ブナ材、ポリウレタン樹脂、革シート	54×54.5×140
13	ベルナル・ジョイステン	リミックス	1988	アクリリック、PVCプレキシガラス	80.3×202.3×d8.3
14	デボラ・カース	ダブル・ダブル・イェントル	1992	シルクスクリーン、アクリリック、キャンバス	182.8×365.7
15	ジェリー・カーンズ	地上の天使	1989	アクリリック、キャンバス	193×254
16	マーク・ランカスター	「ウォーホル以後の記念品」より	1987-88	油彩、キャンバス	各30.4×25.4（24点組）
17	ジャン・ジャック・レベル	マリリンの驚くべき出し物を存分にのぞき見る： ショービジネスが生み出す官能的なヌード型 アイスクューブと同様に大量生産された	1961	ミクスト・メディア	50×65.4
18	ジェイ・B・レヴィトン	バックステージでインタビューを受けるエルヴィス	1956	シルバー・プリント	40.5×51
19	チャーリー・ルーカス	小さなエルヴィス	1985頃	ミクスト・メディア	40.6×61
20	ルイ・ルシェー	エルヴィスの影	1993	シルバー・プリント	172.7×127
21	森村泰昌	セルフポートレイト（女優）／赤いマリリン	1996	イルフォクローム	120×95
22	ナムジュン・バイク	20世紀の思い出	1963-94	ミクスト・メディア	307.3×184
23	エド・パシュケ	マチネー	1987	油彩、キャンバス	172.7×203.2
24	エド・パシュケ	ピンクのレディーⅡ	1993	インク、紙	95.2×66
25	リチャード・ベティボーン	アンディ・ウォーホル、エルヴィス、1964	1971	シルクスクリーン、キャンバス	21×21
26	マリー・ポーブル	マリリン	1986	油彩、キャンバス	101.6×76.2
27	ランシラック	若いマリリン	1992	アクリリック、キャンバス	90×90
28	ジェームズ・ローゼンクイスト	マリリン	1974	リトグラフ、紙	90.5×69.5
29	マイケル・ローゼンスタイン	マリリンⅠ	1978	木版、スクリーンプリント、紙	79×58
30	ロジャー・シモムラ	ヒロイン、ハンマー、火鉢	1987	アクリリック、キャンバス	152.4×61
31	ハイム・スタインバック	無題（乳房のマグカップ、マリリンのギター）Ⅰ-1	1990	プラスチックで表面加工した木の棚、オブジェ	73.7×137.8×89.2
32	アンディ・ウォーホル	マリリン	1967	シルクスクリーン、紙	各91.5×91.5（10点組）
33	ウィリアム・ウェグマン	エルヴィス（冷たくしないで）	1982	インク、紙	29×35.5
34	アルフレッド・ワートハイマー	キッス	1956	写真	40.6×50.8



R.シモムラ
「ヒロイン、ハンマー、火鉢」



E.パシュケ「マチネー」

英雄- Heroic

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
35	ロバート・アーンソン	エルヴィス	1978	コンテ、パステル、紙	105× 76
36	ロバート・アーンソン	エルヴィスⅡ	1978	コンテ、パステル、紙	105× 76
37	コンラッド・アトキンソン	トーマス・ペインのために、エルヴィス・プレスリーのために	1985	ミクスト・メディア	259×155
38	サリー・デイヴィス	デル・レイ（ザ・キング）	1987	油彩、キャンバス	61× 46
39	ハワード・フィンスター	故国に奉仕するエルヴィス（#2077）	1981	エナメル、マーカー、木	39× 49.5
40	マーガレット・ハリソン	名の無きもの、汝の名は女なり： ローザ・ルクゼンブルクからジャニス・ジョップリンまで	1977	アクリリック、コラージュ、文章	109.2×289.5, 30.5×243.8
41	池田満寿夫	マリリンの半分	1968	リトグラフ、紙	74.5× 57
42	ポール・カラピニス	砂漠のエルヴィス	1992	写真を再構成したコラージュ	30× 41
43	ケイタ	エルヴィスは男の中の男	1993	アクリリック、キャンバス	61× 61
44	ジョニ・メイビー	エルヴィス・プレスリー・スクラップ・ブック	1982	ミクスト・メディア、箱付きのハードカバー本	39× 29× 9
45	ロバート・ラウシェンバーグ	マーモント・フレアー	1991	4色リトグラフ、紙	78.7×104
46	レオニード・ソコフ	マリリンとスターリン	1990	油彩、金属	72.4× 53.3
47	ジェイムズ・ストロンボットニー	エルヴィスとアルファルファ	1993	アクリリック、キャンバス	91.4× 91.4
48	ロイ・タンボリ	エルヴィス	1993	コンピュータ加工したシルクスクリーンのチパクローム写真	101.6× 76.2
49	イヴォンヌ・ウェルズ	エルヴィス・キルト	1991	綿布、織混合布、合成布、リックラック、シーキン、糸、ボタン	203.2×121.9
50	キャシー・M・ヤンシー	遠くからヴィーナスを崇める	1992	ガッシュ、コラージュ、板	77.5× 75
51	マルカ・ゼルディス	アンディとマリリン	1974	油彩、板	121.9× 91.4

神話- Mythic

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
52	レジナルド・ケイス	マリリン／トロピカル	1992	ミクスト・メディア	46× 51× d8
53	クリスト	梱包された雑誌	1962	雑誌、プラスチック、紐	35.5× 28× 3
54	ウィリアム・エグルストン	無題（テレビルーム）	1983	ダイ・トランスファー・プリント	60× 50
55	ウィリアム・エグルストン	無題（ゴールド・ピアノ）	1983	ダイ・トランスファー・プリント	50× 60
56	ウィリアム・エグルストン	無題（TCBルーム）	1983	ダイ・トランスファー・プリント	50× 60
57	ウィリアム・エグルストン	無題（ゲート）	1983	ダイ・トランスファー・プリント	50× 60
58	スーザン・ポール・ファイアストーン	はーい、マリリンです	1984	ミクスト・メディア	21.6× 29.2
59	オードリー・フラック	マリリン：ゴールドデン・ガール	1978	油彩、アクリリック、キャンバス	122×157
60	ディヴィッド・ギルフォーリー	カエルのエルヴィス：ラウンジ・アクト	1993	白い陶器、市販の上薬	38× 33
61	リチャード・ハミルトン	私のマリリン	1965	シルクスクリーン、紙	69.2× 83.8
62	キース・ヘリング	無題（エルヴィス）	1981	墨、メタリック・インク、ポスター	98× 68
63	キース・ヘリング	無題（エルヴィス）	1981	墨、マーカー・インク、メタリック・マーカー、ポスター	98× 68
64	キース・ヘリング	無題（マリリン）	1981	墨、ポスター	98× 68
65	ジョージ・ヒロセ	エルヴィスの生地、ミシシッピ州デューベロ、1990	1990	油彩、写真	38.7× 57
66	マシュー・ローレンス	エルヴィスと病気の子犬	1989	木版、キャンバスに貼ったマルベリー紙	182.8×182.8
67	ジャスティン・マッカーシー	マイリン・モンロー	1974頃	アクリリック、メゾナイト	60× 40
68	グリーリー・マイアット	キングの生地	1985	鉛、セメント、土、絵具、髪の毛	66× 55.8× 38
69	シンディ・シャーマン	無題	1982	C-プリント	39.3× 24
70	バート・スターン	ドキュメント	1962	シルクスクリーン、紙	96.5× 76.2
71	ジョン・ステザカー	無題	1993	コラージュ	59.7× 42
72	アンディ・ウォーホル	多色による4つのマリリン	1979-86	シルクスクリーン、アクリリック、キャンバス	92× 70.8
73	ジェフ・ウェイ	偶像Ⅱ	1983	油彩、キャンバス	91.4× 76.2
74	フランク・ゼロックス	ほとんどフランク・ゼロックス作品	1992	F.X.ミックス	76.2× 76.2



池田満寿夫「マリリンの半分」



K.ヘリング「無題」

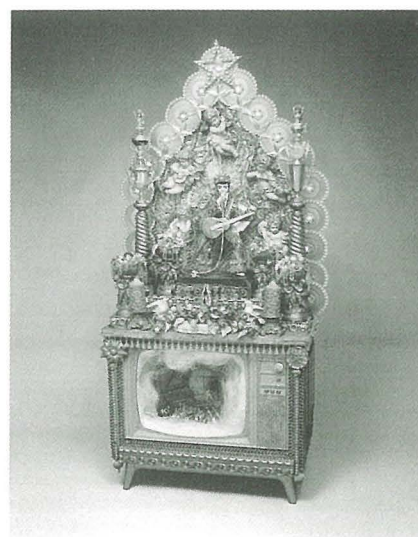
宗教- Religious

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
75	ジェフ・ブルジョー	あなたこそ、その人	1993-94	ミクスト・メディア、ビデオ	45.7×182.9×106.7
76	ラルフ・バーンズ	無題 (「グレイスランド・シリーズ」より)	1977-93	シルバー・プリント	各28× 35.5(6点組)
77	ナンシー・バーソン	赤ん坊のマリリン	1989-90	フォトリトグラフ、絹	98.5× 77.5
78	ナンシー・バーソン	赤ん坊のエルヴィス	1989-90	フォトリトグラフ、絹	98.5× 77.5
79	バスター・クリーヴランド	ポップ・アップ	1991	ミクスト・メディア	54× 50× d5
80	カラム・コルヴィン	人生の2つの道	1991	チバクローム・プリント	40× 50
81	カラム・コルヴィン	クライミング・イン・ザ・チャペル	1991	チバクローム・プリント	50× 40
82	カラム・コルヴィン	主の御手をわが胸に	1991	チバクローム・プリント	50× 40
83	ジョゼフ・コーネル	守護者 (MMへの沈黙の献身)	1963	木、紙	13× 31× 45
84	テッド・フェアーズ	ランデヴー	1977	アクリリック、キャンバス	156×183.5
85	アレグザンダー・ガイ	磔刑	1992-93	油彩、キャンバス	208.3×175.3
86	マイク・ヘイル	キング	1993	アクリリック、キャンバス	182.8×121.9
87	ニコラス・ヒギンズ	エルヴィス、ブック1	1989	エナメル、紙、布で装丁した本	11× 15.8× 1.2
88	ニコラス・ヒギンズ	エルヴィス、ブック2	1989	エナメル、鉛筆、紙、布で装丁した本	11× 15.8× 1.2
89	シーモア・ハワード	2連のイコン	1993	アクリリック、フォトコピー	32.4× 62.9
90	キャメロン・ジェイミー	エルヴィスのドローイング (歌う)	1993	インク、米粒	0.32×2×0.32
91	キャメロン・ジェイミー	エルヴィスのドローイング (肖像)	1993	インク、米粒	0.32×2×0.32
92	キャスリーン・コンディラス	聖母子	1993	ミクスト・メディア	35.2× 26.6
93	マイケル&ヘザー・マーティン=ダニエルズ	放縦と頽廢の祭壇	1988	ミクスト・メディア	33×207.5×180
94	キャレル・モザヤヴィッチ	ユーアー・ライト、アイム・レフト、ヒーズ・ゴーン	1993	パステル、紙	76× 57
95	フランシス・ペイヴィー	エルヴィスとイブ	1993	油彩、エナメル、銅板	66× 61
96	カルロス・パゾス	あなたの犬はあなたを覚えています	1989	ミクスト・メディア	252×131
97	ジャン・マーク・ベックハム	光、波、礼、雷	1992	油彩、金箔、カパ材のパネル	各91.4× 61(3点組)
98	ジェイムズ・B・ピンク	復活	1993	ミクスト・メディア	111.7× 76.2
99	ロン・リタコ	：表現か、搾取か？	1993-95	靑写真、ヴァンダイク・プリント、金属箔、ワイヤー、糸、手漉紙	64×175.2
100	キャロル・ロビソン	囁き泣くイコン	1992	ミクスト・メディア	243.8×243.8
101	エドワード・ルッシャ	キングの王冠	1993	乾燥顔料、アクリリック、紙	73.6× 56.8
102	ピーター・ソール	神は女を創る	1993	アクリリック、油彩、キャンバス	274.3×243.8
103	リチャード・スミス	MM	1959	油彩、キャンバス	91.4× 91.4
104	ジョアンヌ・ステイヴァンズ	エルヴィスへのオマージュ	1991	ミクスト・メディア	53.3×109.2×213.4
105	ヘンク・タス	ホーム	1991	カラー写真、ミクスト・メディア	122× 97.5
106	ジェフリー・ヴァランズ	エルヴィスの汗を拭いた布Ⅰ	1993	汗、サテン	55.8× 55.8
107	ジェフリー・ヴァランズ	エルヴィスの汗を拭いた布Ⅱ	1993	汗、サテン	55.8× 55.8
108	ジェフリー・ヴァランズ	エルヴィスの汗を拭いた布Ⅲ	1993	汗、サテン	55.8× 55.8
109	横尾忠則	マリリン・モンローの性の実録	1969	オフセット、紙	85× 60.2

* 寸法は、平面（レリーフ）作品は縦×横（×d奥行）、立体作品は奥行×幅×高さ。



M&H.マーティン・ダニエルズ
「放縦と頽廢の祭壇」



J.ステイヴァンズ
「エルヴィスへのオマージュ」

MOA美術館展 茶の湯の美術 季節の彩り・伝統の美

会期＝平成9年8月9日(土)～9月7日(日)

主催＝北海道立帯広美術館、帯広市、
帯広市教育委員会、十勝毎日新聞社、
(財)エム・オー・エー美術・文化財団北海道支部、
MOA美術館展実行委員会

後援＝十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、十勝文化会議、帯広市町内会連絡協議会、帯広市民劇場運営協議会、とかちカルチャーネット、NHK帯広放送局、HBC帯広放送局、STV帯広放送局、UHB帯広支社、HTB帯広支社、帯広シティーケーブル、FM-JAGA

協力＝MOA美術館

特別協賛＝MOA美術館「帯広展」推進の会

関連事業

美術講演会

「茶の湯の魅力」

講師＝藤浦正行氏 (MOA美術館学芸課長)

日時＝8月9日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

特別展セミナー

「わび茶の美意識とモダニズム」

講師＝平 利弘 (当館学芸員)

日時＝8月23日(土)、9月6日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

土曜映写室

「千利休の茶」「境の思想」

日時＝8月16日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

お茶席

協力流派＝MOA美術文化財団道東支部、表千家同門会帯広地区、
肥後古流、武者小路千家、宗徧流帯広支部、裏千家淡
交会帯広支部

日時＝8月9日(土)、8月10日(日)、8月12日(火)、8月13日(水)、8月19日(火)、
8月20日(水)、8月23日(土)、8月24日(日)、8月26日(火)、
8月27日(水)、8月30日(土)、8月31日(日)、9月2日(火)、
9月3日(水)、9月6日(土)

午前11時～午後4時 (8月9日は午後1時～4時)

会場＝当館ロビー



ポスター

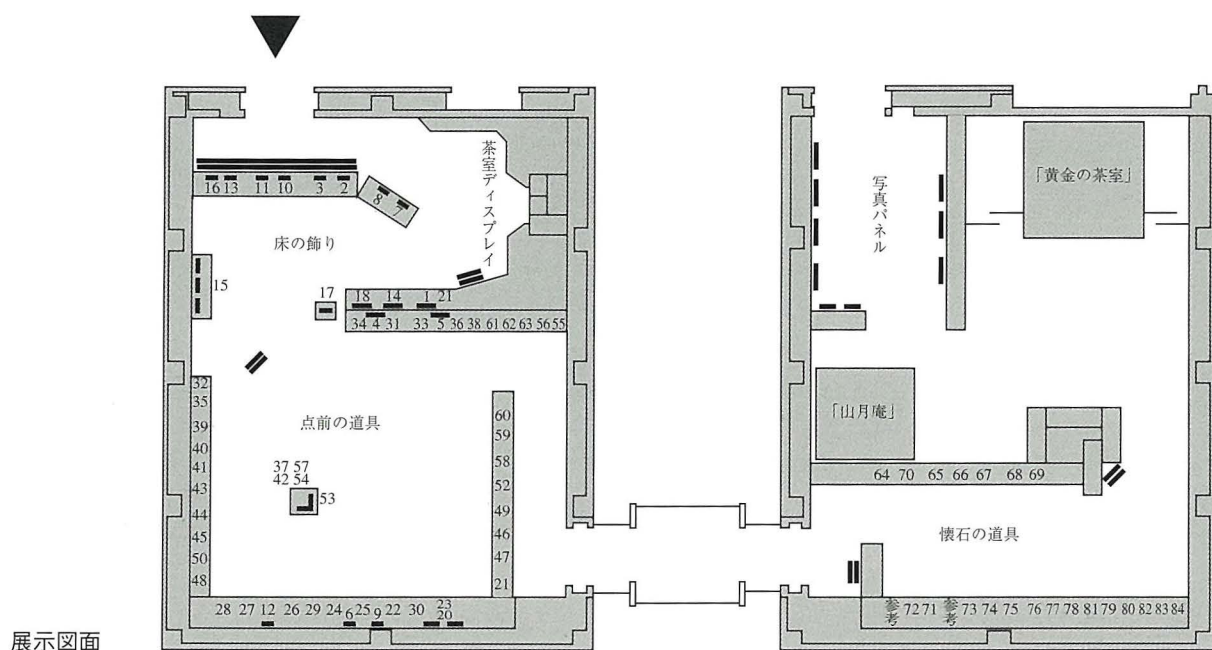


図録

茶の湯は、季節の移ろいに心を寄せる日本人の美的趣味が反映されたわが国独自の芸能文化である。中国から禅の茶礼として伝えられたのち、千利休によって佗び茶の美意識にねざした草庵の茶が完成され、江戸時代には多くの流派を生んだ。床飾りの花生に季節ごとの花が飾られるように、夏には涼しげな茶器を、冬にはぬくもりある道具を取り合わせるなど、茶の湯の世界には、日本人本来の自然感がいかされている。

本展は、こうした季節感に彩られた茶の湯の伝統美の世界を茶道具の展示と茶室の復元を通じて紹介するものであった。出品作品は日本美術の優れた収集で知られるMOA美術館の所蔵作品により、重要文化財1点、重要美術品2点を含む茶道具の優品84点

で構成した。実際の展示では、鎌倉時代から江戸時代に至る和物をはじめ唐物などの舶来品等を、各道具ごとのまとまりで紹介すると同時に、茶席の実際では季節感や催される茶会の趣旨などに応じて道具が選ばれる点を重視し、特設のディスプレイなどによって茶会の場の再現や道具の取合わせについても紹介した。また、そうした仮設の再現空間とは別に、佗びの茶室として名高い「山月庵」と豊臣秀吉が作らせた「黄金の茶室」二棟の復元展示を行ったほか、ロビーでは各流派の協力のもと立礼形式による茶席を設けるなど、空間芸能としての茶道を総合的に味わうことができる内容で注目を得て、会期中20,739人の来館者を集めた。



会場風景



会場風景

出品目録

〈床の飾り〉

No.	作品名	作者等	時代	技法・員数	法量(cm)
■床掛物					
1	◎兀庵普寧墨蹟 尺牘	兀庵普寧	中国・南宋時代	紙本墨書 一幅	縦51.5横68.2
2	古今和歌集切	伝藤原清輔	鎌倉時代	紙本墨書 一幅	縦24.4横15.4
3	玉藻切	伝後鳥羽院	鎌倉時代	紙本墨書 一幅	縦21.7横14.6
4	○正親町天皇宸翰 日課詠草	正親町天皇	桃山時代	紙本墨書 一幅	縦24.0横41.6
5	○豊臣秀吉消息 ともし宛	豊臣秀吉	桃山時代	紙本墨書 一幅	縦28.4横45.6
6	千利休消息 羽筑州宛	千利休	桃山時代	紙本墨書 一幅	縦29.3横39.0
7	沢庵宗彭墨蹟 打地一聲	沢庵宗彭	江戸時代	紙本墨書 一幅	縦107.4横29.5
8	天室宗竺墨蹟 山色清浄身	天室宗竺	江戸時代	紙本墨書 一幅	縦117.3横23.5
9	千宗旦消息 千宗左・千宗室宛	千宗旦	江戸時代	紙本墨書 一幅	縦14.0横80.0
10	鴈図	伝徽宗皇帝	中国・宋時代	絹本着色 一幅	縦25.0横29.4
11	鴈図		中国・明時代	絹本着色 一幅	縦24.4横23.5
12	かぶら図	芸愛	室町時代	紙本墨画 一幅	縦40.2横48.9
13	福祿寿図	等歳	室町時代	紙本墨画 一幅	縦66.5横25.0
14	大内図	俵屋宗達	桃山時代	紙本着色 一幅	縦30.5横58.2
15	寒山・蓮に鷺・岩に鳩図	狩野探幽	江戸時代	紙本墨書 三幅対	縦75.9横29.1 縦84.3横36.6 縦89.5横28.5
16	布袋図	宮本武蔵	江戸時代	紙本墨書 一幅	縦23.2横22.7
17	百合・燕子花図団扇	尾形光琳	江戸時代	紙本着色 一柄	縦129.2横40.9
18	瀑布図	渡辺始興	江戸時代	紙本墨画 一幅	縦54.1横26.8
19	風炉釜図画賛	松平不昧	江戸時代	紙本墨画淡彩 一幅	縦31.7横42.7
20	夏冬山水図	狩野常信	江戸時代	紙本墨画淡彩 双幅	縦31.6横42.6

■花生

21	青磁算木手花生		中国・元時代	一口	高25.5口径6.8幅9.5
22	伊賀耳付花生		桃山時代	一口	高27.5口径9.2～11.0
23	南蛮切溜花生		16～17世紀	一口	高26.6口径9.6
24	胡銅曾呂利花生		江戸時代	一口	高23.8口径1.7胴径6.4

■香合

25	交趾鹿香合		中国・明時代	一合	高4.7径6.0
26	松蒔絵香合		室町時代	一合	高4.0縦8.6横6.9
27	黄瀬戸香合	美濃窯	桃山時代	一合	高3.2径6.2
28	織部梅鉢香合		桃山時代	一合	高4.8径5.6
29	色絵羽子板香合	野々村仁清	江戸時代	一合	高1.8長12.5
30	独楽香合		17世紀	一合	高3.6径8.2

〈点前の道具〉

No.	作品名	作者等	時代	技法・員数	法量(cm)
■茶入					
31	古瀬戸肩衝茶入 銘入佐山		室町時代	一口	高6.3径3.3
32	備前肩衝茶入 銘有明		桃山時代	一口	高10.9径3.1
33	瀬戸椿手広口茶入		桃山～江戸時代	一口	高5.4径7.2
34	高取肩衝茶入 銘玉葛		江戸時代	一口	高9.2径2.7胴径5.5
35	黒釉金彩浜千鳥文肩衝茶入	野々村仁清	江戸時代	一口	高9.0径3.0
■薄茶器					
36	曳舟蒔絵中次		江戸時代	一口	高8.3径6.8
37	春野蒔絵棗		江戸時代	一口	高7.8径7.2
38	菊桐蒔絵雪吹		江戸時代	一口	高6.9径7.0
■茶碗					
39	祥瑞茶碗 銘有明		中国・明時代	一口	高6.4径10.8
40	井戸茶碗 銘常盤		朝鮮・李朝時代	一口	高7.2径15.3
41	釘彫伊羅保茶碗 銘九重		朝鮮・李朝時代	一口	高7.6径15.7
42	御所丸茶碗 銘金海		朝鮮・李朝時代	一口	高7.2径12.7
43	紅葉呉器茶碗 銘木賊		朝鮮・李朝時代	一口	高8.6径14.1
44	御本半使茶碗 銘霜夜		朝鮮・李朝時代	一口	高9.0径12.1
45	奥高麗茶碗 銘蓬壺		桃山時代	一口	高9.0径13.9
46	赤楽茶碗 銘太公望	左入	江戸時代	一口	高6.2径14.0
47	黒楽茶碗 銘伯蔵主	直斎	江戸時代	一口	高8.5径10.5
48	萩筆洗形茶碗	銘籬	江戸時代	一口	高9.2径14.7
49	鋪絵山家茶碗	尾形乾山	江戸時代	一口	高7.1径11.0
50	唐津輪文茶碗		江戸時代	一口	高7.4径11.9
51	黒薩摩茶碗		江戸時代	一口	高8.9径10.1
52	色絵近江八景絵茶碗		江戸時代	一口	高7.6径11.5
■風炉先屏風					
53	草花図風炉先屏風	酒井抱一	江戸時代	二曲一隻	縦23.4横93.3

■風炉・釜

54	金銀象嵌切掛風炉釜	金盛徳元	江戸時代	一口	(風炉) 高20.8両耳幅26.8奥23.4 (釜) 高9.7口径10.8胴径18.4
55	天命責紐釜		江戸時代	一口	高20.6径9.4
56	芦屋梅樹文真形釜		江戸時代	一口	高19.6径14.4

■水指

57	古染付龍鳳文桃形水指		中国・明時代末期	一口	高11.3径24.0
58	瀬戸洪紙手一重口水指		江戸時代	一口	高15.1径18.2
59	備前伊部手管耳水指		桃山時代	一口	高17.1口径15.1胴径21.9
60	白釉月形水指	野々村仁清	江戸時代	一口	高14.3径15.7

■茶杓

61	千利休茶杓 追筒	千利休	桃山時代	一本	長17.1
62	千少庵茶杓 宗旦追筒	千少庵 千宗旦筒	江戸時代	一本	長17.6
63	本阿弥光悦茶杓 追筒	本阿弥光悦	桃山時代	一本	長17.8

〈懷石の道具〉

No	作品名	作者等	時代	技法・員数	量法(cm)
■皿・鉢					
64	錆絵鉢 銘百万石		江戸時代	一口	高12.7径19.9
65	黄瀬戸縁鉢		桃山時代	一口	高5.6径16.3
66	織部角鉢		桃山時代	一口	高4.8径18.5奥行19.1
67	高取鉢 銘松島		江戸時代	一口	高7.7径14.8
68	九谷丸紋瓢形鉢		江戸時代	一口	高7.9径20.4
69	絵替盆	尾形光淋	江戸時代	五枚	各高2.2径22.9
70	色絵吉野山文透鉢	尾形乾山	江戸時代	一口	高12.8径20.0

■向付

71	牛形向付 古染付	景德鎮窯	中国・明時代	五客	各高4.0長径17.5短径9.0
72	五彩向付 金欄手	景德鎮窯	中国・明時代	五客	高6.2各径12.0
73	五彩花卉文向付 天啓赤絵		中国・明時代	五客	各高3.7長径9.0短径9.0
74	吊柿文六角向付 織部		桃山時代	五客	各高11.0径7.5
75	色絵菊文向付	尾形乾山	江戸時代	五客	各高3.5長径16.1短径7.9

■酒器

76	糸目銚子		桃山時代	一合	拵高14.3胴径14.3口長4.5
77	古赤絵徳利		中国・明時代	一口	胴径9.5高18.7口径4.9
78	絵刷毛目徳利		朝鮮・李朝時代	一口	高12.5口径3.7胴径9.7
79	古備前徳利		江戸時代	一口	高12.6口径2.9胴径7.2
80	黄瀬戸盃		桃山～江戸時代	一口	高3.4径6.3
81	瀬戸天目盃		江戸時代	一口	高3.3径6.5
82	瀬戸椿手盃		江戸時代	一口	高3.9径6.6
83	唐津盃		江戸時代	一口	高5.9径7.5
84	色絵麦藁文盃		江戸時代	一口	高6.3径4.4

* 作品はすべてMOA美術館蔵。

* 作品名頭初の◎は重要文化財、○は重要美術品を示す。



井戸茶碗 銘常盤



伊賀耳付花生

太田記念美術館所蔵 浮世絵の中の^{おんな}美人たち

会期＝平成9年9月15日(月)－10月16日(木)

主催＝北海道立帯広美術館、太田記念美術館、
帯広美術館振興会、北海道新聞社

関連事業

美術講演会

「浮世絵における美人画の変遷－春信・清長・歌麿を中心として」

講師＝杉本隆一氏（太田記念美術館学芸課長）

日時＝10月4日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

特別展セミナー

「浮世絵に見る時事風俗」

講師＝鎌田 享（当館学芸員）

日時＝9月27日(土)、10月11日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂



ポスター



図録

江戸時代は、それ以前の朝廷貴族や武家に加え、一般の庶民が文化の担い手として登場し町人文化が大きく花開いた時代である。芝居小屋や遊廓、祭りや行楽の場の人々が集い、華やかな大衆文化を形成した。そうした当時の社会風俗を描き出し、江戸の庶民に広く流布したのが浮世絵である。中でも木版という複製印刷技術を用いることで大量に制作され比較的廉価で市場に供給された浮世絵版画は、その優れた美的性質ともあいまって、江戸町民文化のひとつの極みを示している。

プリントアートを活動のテーマとする帯広美術館では、平成3年度に開催した開館記念展第2弾「江戸のプリントアート展」をはじめ、過去数度にわたって浮世絵展を開催、江戸時代を代表する版表現の世界を多方面から紹介してきた。本展は、さまざまな対象を描いた浮世絵の中でも、とりわけ「美人画」に焦点を当て

企画・開催したものである。吉原遊里の花魁を始めとする遊女や芸妓、あるいは商家の女房や評判の町娘など、市井に生きたさまざまな女性の姿を描いた「美人画」は、歌舞伎役者を主題とした「役者絵」と並ぶ浮世絵の主要な画題であり、江戸時代を通じて幾多の優れた作品が制作されてきた。本展では、鈴木春信が描いた可憐な女性像、喜多川歌麿の艶やかな遊女や町娘、歌川国貞や溪斎英泉の粋な美人たちなど、肉筆、版画、版本あわせて150点の作品を展示。浮世絵の歴史の変遷を通観するとともに、時代ごとの風俗や美意識、そして女性像の移り変わりを紹介した。

本展は、日本でも屈指の浮世絵専門の美術館として知られる東京の太田記念美術館より、作品の出品、展覧会図録への寄稿、関連講演会の実施など多方面にわたる協力を得て実現したものである。



会場風景



会場風景

出品目録

肉筆画

No.	作家名	作品名	版型	展示期間
1	古山師政	遊女と禿図	紙本1幅	前・後期
2	西川祐信	縁先美人図	絹本1幅	前・後期
3	懷月堂派	美人立姿図	紙本1幅	前・後期
4	梅翁軒永春	美人立姿図	紙本1幅	前・後期
5	宮川長春	縁台の遊女図	絹本1幅	前・後期
6	宮川一笑	花魁道中図	絹本1幅	前・後期
7	磯田湖龍斎	石山寺図	絹本1幅	前・後期
8	鈴木春重（司馬江漢）	引手茶屋花魁道中図	絹本1幅	前・後期
9	勝川春章	花魁図	絹本1幅	前・後期
10	栄松斎子興（長喜）	遊女と禿図	絹本1幅	前・後期
11	鳥文斎栄之	桜下遊女の図	絹本1幅	前・後期
12	葛飾北斎	花魁図	紙本1幅	前・後期
13	歌川豊国	月下頭巾の美人図	絹本1幅	前・後期
14	歌川豊広	蚊帳を吊る美人図	紙本1幅	前・後期
15	喜多川月磨	仕掛をなおす花魁図	紙本1幅	前・後期
16	菊川英山	花魁立姿図	絹本1幅	前・後期
17	歌川国貞	芸妓といねむりの仕込み図	絹本1幅	前・後期
18	歌川国芳	桜下身づくろいの芸者図	絹本1幅	前・後期
19	歌川広重	立美人図	絹本1幅	前・後期
20	小林清親	源氏浮舟之巻図	絹本1幅	前・後期

浮世絵版画

No.	作家名	作品名	版型	展示期間
21	大森善清	やしほ (元禄15年刊『しだれ柳』より)	大判	前・後期
22	大森善清	大はし (元禄15年刊『しだれ柳』より)	大判	前・後期
23	大森善清	うてな (元禄15年刊『しだれ柳』より)	大判	前・後期
24	大森善清	さんご きりやま (元禄15年刊『しだれ柳』より)	大判	前・後期
25	奥村政信	浮世花見車	大々判	前・後期
26	奥村政信	足袋の紐	大々判	前期
27	西村重信	宮古路紅梅三幅対右 かゝのおきく	細判	前・後期
28	西村重信	宮古路紅梅三幅対中 あふぎや夕ぎり	細判	前・後期
29	西村重信	宮古路紅梅三幅対左 いとやの小さいと	細判	前・後期
30	鳥居清広	潮干狩	大々判	後期
31	鳥居清満	面頭巾	柱絵	前・後期
32	鳥居清満	観梅	大々判	前・後期
33	鈴木春信	おせんの茶屋	中判	前期
34	鈴木春信	鶏飼い	中判	前期
35	鈴木春信	高野の玉川	中判	後期
36	鈴木春信	年わすれ	中判	後期
37	鈴木春信	虫聞き	柱絵	前・後期
38	鈴木春信	突風	柱絵	前・後期
39	鈴木春信	格子内の遊女	柱絵	前・後期
40	鈴木春信	かぎや	柱絵	前・後期
41	磯田湖龍斎	北楼略三十六哥仙 大たはらや内若まつ	中判	前・後期
42	磯田湖龍斎	井筒の男女	柱絵	前期
43	磯田湖龍斎	雛形若菜の初模様 若那や内しら露	大判	後期
44	勝川春章	忠臣蔵 七たんめ	中判	前・後期
45	勝川春章	かゝこやしなひ草 第一	中判	前期
46	北尾重政	かゝこやしなひ草 第二	中判	前期
47	勝川春章	かゝこやしなひ草 第三	中判	後期
48	無款 (北尾重政)	当世見立美人八景 両国のきはん	大判	後期
49	勝川春英	忠臣蔵 式段目	中判	前・後期
50	勝川春英	忠臣蔵 三たんめ	中判	前・後期
51	勝川春潮	高しまひさ	大判	前・後期
52	勝川春潮	秋の行楽	大判3枚続	前・後期
53	北尾政演 (山東京伝)	金繋付	柱絵	前・後期
54	北尾政演 (山東京伝)	遊里八景 品川帰帆	中判	前・後期
55	北尾政美	浮絵假名手本忠臣蔵 八段目	大々判	前・後期
56	窪俊満	六玉川	大判6枚続のうち3枚	前・後期
57	鳥居清長	誹風柳多留	中判	前・後期
58	鳥居清長	風俗東之錦	大判	前・後期
59	鳥居清長	風俗十二通意 蚊帳	柱絵	前・後期
60	鳥居清長	扇持つ美人	柱絵	前・後期
61	喜多川歌麿	婦女人相十品 文よむ美人	大判	後期
62	喜多川歌麿	菓子袋をもつ三美人	大判	前期
63	喜多川歌麿	手拭をくわえる美人	大判	前・後期
64	喜多川歌麿	青楼七小町 若那屋内白露	大判	前・後期
65	喜多川歌麿	中田屋	大判	後期
66	喜多川歌麿	蚊帳の男女	大判	前期
67	喜多川歌麿	当世女風俗通 下品の女房	大判	前・後期



宮川一笑「花魁道中図」



鈴木春信「高野の玉川」

No.	作家名	作品名	版型	展示期間
68	喜多川歌麿	夏衣裳当世美人 松坂屋仕入のしぼり向キ	大判	前・後期
69	栄松斎子興 (長喜)	東風俗五節句合 五月	大判	前・後期
70	栄松斎子興 (長喜)	婦人買初の図	大判 2 枚続	前・後期
71	鳥文斎栄之	浮世源氏八景 松風夜雨	大判	前・後期
72	鳥文斎栄之	七賢人略美人新造揃 てうしや内とき哥	大判	前・後期
73	鳥文斎栄之	名所盃合 高輪	大判	前・後期
74	鳥文斎栄之	若那初模様 扇屋瀧橋	大判	前・後期
75	一楽亭栄水	丁子やうちから琴	大判	前期
76	一楽亭栄水	霏や内陸奥	大判	後期
77	勝川春朗 (北斎)	風流男達八景 荒五郎の暮雪	中判	前・後期
78	勝川春朗 (北斎)	浮絵源氏十二段之図	大判	後期
79	葛飾北斎	秀逸六玉川 陸奥千鳥	中判	前・後期
80	葛飾北斎	三弁天 洲崎	小判	前・後期
81	葛飾北斎	東海道五十三次 二 品川	中判	前・後期
82	葛飾北斎	東海道五十三次 三十七 赤坂	中判	前・後期
83	歌川豊国	拳うち美人 团扇絵	前・後期	
84	歌川豊国	水無月 張物の図	大判	前期
85	歌川豊国	七月 七夕の景色	大判	後期
86	歌川豊国	風流芸者身振姿絵 とらや虎丸	大判	前・後期
87	二代歌川豊国	風流東姿十二支 子	大判	前・後期
88	二代歌川豊国	風流東姿十二支 寅	大判	前・後期
89	歌川国貞	水無月富士帰夕立	大判 3 枚続	前期
90	歌川国貞	星の霜当世風俗 蚊やき	大判	後期
91	歌川国貞	当世美人合 おもらん	大判	後期
92	歌川国貞	月の陰忍逢ふ夜 月見る美人	大判	前期
93	三代歌川豊国 (国貞)	日月星ノ内 星	大判 3 枚続	前・後期
94	三代歌川豊国 (国貞)	春遊十二時 亥ノ刻	大判	前・後期
95	三代歌川豊国 (国貞)	江戸名所百人美女 人形町	大判	前・後期
96	三代歌川豊国 (国貞)	源氏見立八景之内 花宴晩鐘	大判	前・後期
97	菊川英山	囲碁の三美人	大判	前・後期
98	菊川英山	江戸の花役者ひいき 尾上賀朝	大判	前期
99	菊川英山	傘さす美人	掛物絵	後期
100	菊川英山	青楼美人春手枕 鶴屋内橘	大判 3 枚続	前・後期
101	溪斎英泉	当世好物八契 酒	大判	前・後期
102	溪斎英泉	青楼七軒人 海老屋内大井	大判	前・後期
103	溪斎英泉	美人花あわせ 縁台でくつろぐ美人	大判	前・後期
104	溪斎英泉	傾城江戸方格 丁子屋内唐歌	大判	前・後期
105	歌川国芳	山海名産尽 相模ノ鰯	大判	前・後期
106	歌川国芳	近江の国の勇婦於兼	大判	前期
107	歌川国芳	四季心女遊 秋	中判 3 枚続	前期
108	歌川国芳	東都名所 洲崎初日出の図	大判	後期
109	歌川国芳	木曾街道六十九次之内 大久手	大判	前・後期
110	歌川国芳	山海愛度図会 出雲 はち蜜	大判	前・後期
111	歌川広重	今様四季の艶	大判 3 枚続	後期
112	歌川広重	江戸高名会亭尽 柳ばし夜景 万八	大判	前・後期
113	歌川広重	江戸高名会亭尽 両国 青柳	大判	前・後期
114	歌川広重	江戸旧跡尽 神田お玉が池の古事	团扇絵	前・後期
115	歌川広重	東海道五十三図会 二 品川	大判	前・後期



喜多川歌麿「菓子袋をもつ三美人」



歌川国貞「星の霜当世風俗 蚊やき」

No.	作家名	作品名	版型	展示期間
116	歌川広重	東海道五十三図会 廿八 袋井	大判	前・後期
117	歌川広重	五十三次 日本橋 品川（人物東海道）	2丁掛	前・後期
118	歌川広重	名所江戸百景 真乳山山谷堀夜景	大判	前・後期
119	二代歌川広重	隅田川八景 関屋之里晴嵐	大判	前・後期
120	二代歌川広重	隅田川八景 長命寺晚鐘	大判	前・後期
121	豊原国周	見立昼夜廿四時之内 午前二時	大判	前・後期
122	豊原国周	見立昼夜廿四時之内 午前十一時	大判	前・後期
123	豊原国周	見立昼夜廿四時之内 午後三時	大判	前・後期
124	豊原国周	見立昼夜廿四時之内 午後九時	大判	前・後期
125	月岡芳年	風俗三十二相 おきがつきさう 明治年間西京仲居之風俗	大判	前・後期
126	月岡芳年	風俗三十二相 しなやかさう 天保年間傾城之風俗	大判	前・後期
127	月岡芳年	月百姿 辻君ひととせ	大判	前・後期
128	月岡芳年	つき百姿 しばぬまちの暁月	大判	前・後期
129	小林清親	入浴二美人	大判	前・後期
130	小林清親	花模様 寛永正保頃	大判 3枚続	前・後期
131	小林清親	花模様 寛文元禄頃	大判 3枚続	前・後期
132	小林清親	四季の遊び 冬のなかめ うたあわせ	大判 3枚続	前・後期
133	楊洲周延	時代かゝみ 寛政之頃	大判	前・後期
134	楊洲周延	時代かゝみ 明治	大判	前・後期
135	楊洲周延	真美人 手鞠	大判	前・後期
136	楊洲周延	真美人 香を聞く美人	大判	前・後期
137	尾形月耕	花美人名所合 滝の川の紅葉	大判 3枚続	前・後期
138	尾形月耕	花美人名所合 亀戸龍眼寺の萩	大判 3枚続	前・後期
139	水野年方	三井好 都のにしき 夏―虫干し	大判	前・後期
140	水野年方	三井 都のにしき 夏―夜会草の咲く夕辺	大判	前・後期

版本

No.	作家名	作品名	版型	展示期間
141	菱川師宣	絵本 浮世続（天和4年刊）	1冊	前・後期
142	西川祐信	絵本常盤草（享保16年刊）	3冊	前・後期
143	鈴木春信	春の綿	2冊	前・後期
144	勝川春章、北尾重政	青楼美人合姿鏡（安永5年刊）	3冊	前・後期
145	鳥居清長	絵本物見岡	合本 1冊	前・後期
146	喜多川歌麿	絵本江戸暦 天明6年刊	合本 1冊	前・後期
147	葛飾北斎	絵本潮来廻囃子	1冊	前・後期
148	歌川豊国	絵本勾扇子	3冊	前・後期
149	葛飾応為	女重宝記（弘化4年刊）	1冊	前・後期
150	歌川国芳	江都日千両 廊中之部	1冊	前・後期

* 作品はすべて太田記念美術館蔵。

* 展示期間のうち、前期は9月15日～9月28日、後期は9月30日～10月16日。



月岡芳年
「風俗三十二相しなやかさう」



勝川春章、北尾重政「青楼美人合姿鏡」

愛と幻想のイマジネーション マルク・シャガール展

会期＝平成9年10月25日(土)－12月7日(日)
主催＝北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社

後援＝フランス大使館
企画協力＝株式会社アートプランニングレイ

関連事業

美術講演会

「愛と幻想の画家・シャガール」

講師＝中山公男氏（群馬県立近代美術館長）

日時＝10月25日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

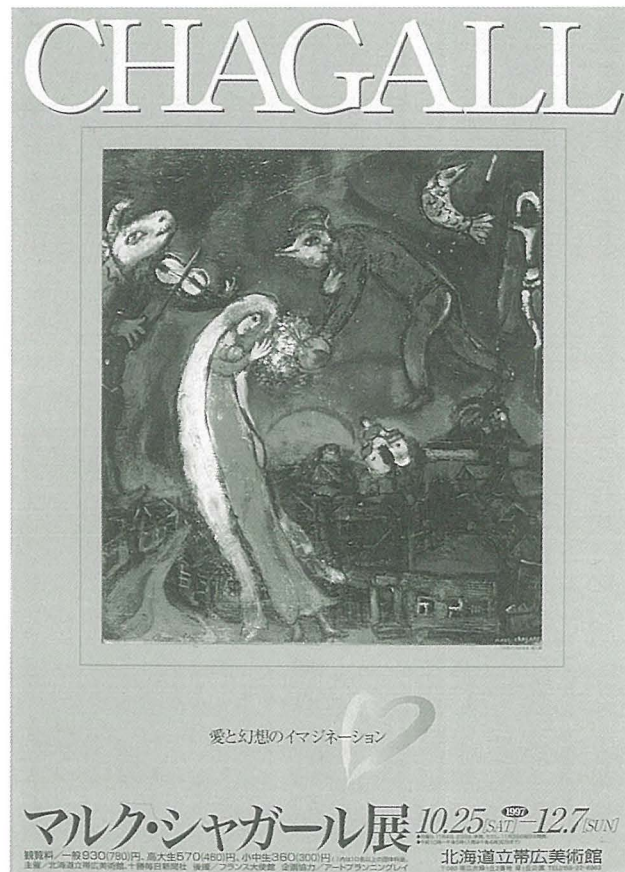
特別展セミナー

「シャガールと聖書の物語」

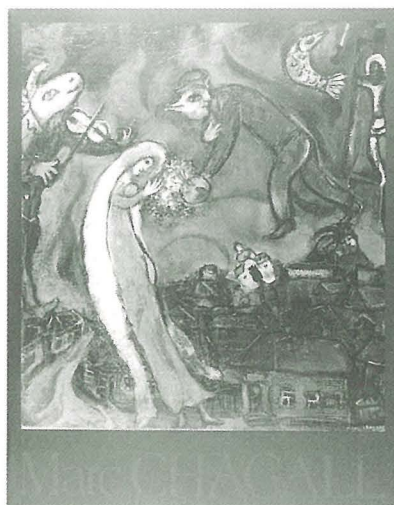
講師＝平 利弘（当館学芸員）

日時＝11月8日(土)、11月22日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂



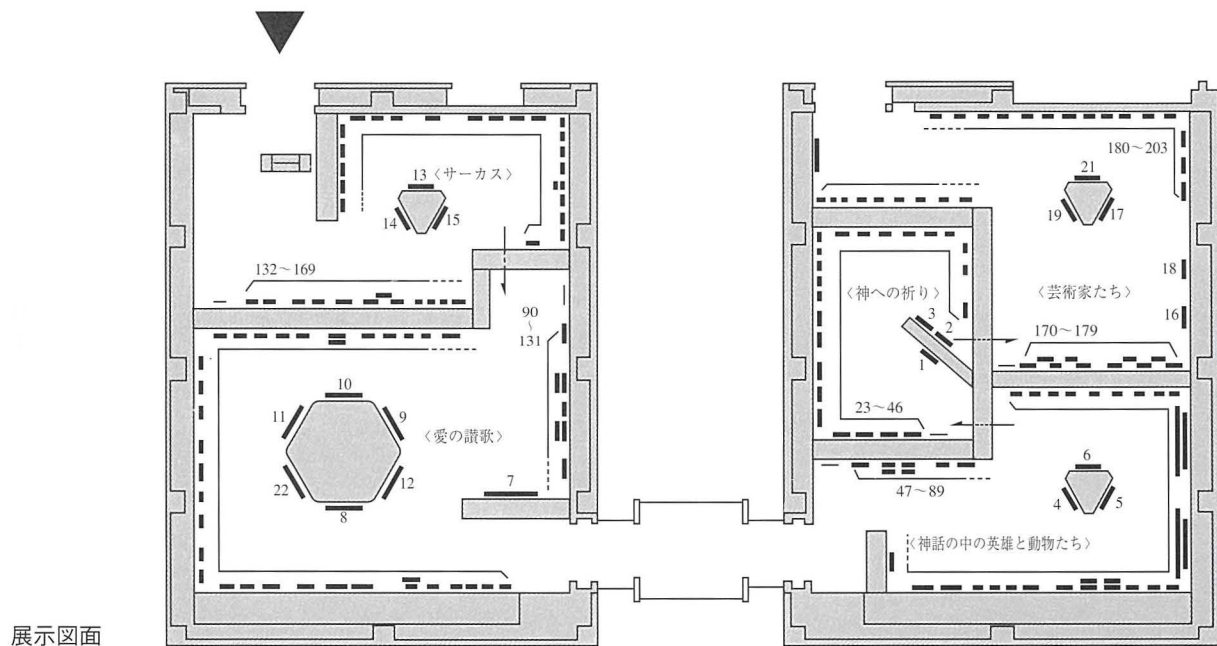
ポスター



図録

1887年ロシア（現・ベラルーシ共和国）に生まれ今世紀最大の巨匠としてピカソと並び称されるシャガールは、1985年に97歳で生涯を閉じるまでの間数多くの作品を残し、今なお世界中の人々を魅了し続けている。シャガールの作品には宗教的な関心と深く関わって描かれた天使をはじめ鶏や山羊などの動物たち、幸福感に満たされた恋人たちなどが数多く描かれているが、それらはどれも現実の空間から解き放たれ、豊かな空想と愛に彩られている。

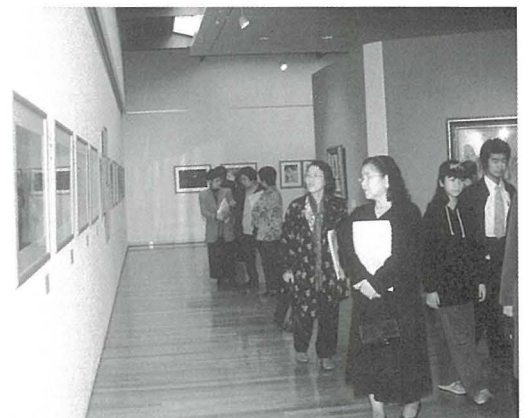
この展覧会では、油彩画ばかりでなく挿絵やステンド・グラス、天井画など、幅広い領域で才能を発揮したシャガールの画業のうち、「オデュッセイア」や「ダフニスとクロエ」など代表的な連作版画をはじめ油彩画や水彩画などを、＜神への祈り＞＜神話の中の英雄と動物たち＞＜愛の讃歌＞＜サーカス＞＜芸術家たち＞の5つのコーナーで構成し、生涯にわたり主要テーマとして追及した愛や宗教に焦点を絞りシャガール芸術の一端を紹介した。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
1	お告げ	1930頃	油彩、キャンバス	52.0×46.3	個人
2	恋人たちと黄色い天使	1981	アクリル、油彩、キャンバス	41.0×33.0	個人
3	捧げもの	不詳	グアッシュ、紙	58.5×41.7	個人
4	鶏と恋人たち	1947-50	油彩、キャンバス	71.0×87.0	個人
5	恋人たちと山羊と鶏と花	不詳	水彩、パステル、紙	85.0×62.0	個人
6	森のなかの狼と雌羊	不詳	グアッシュ、紙	52.0×42.0	個人
7	天使と恋人たち	1956	油彩、キャンバス	150.0×119.5	吉野石膏株式会社
8	水浴する人々と花束	1960	油彩、合成板	46.0×33.0	個人
9	光の中の花	1973	油彩、キャンバス	115.0×89.0	個人
10	村の上のカップル	1967-68	油彩、キャンバス	38.0×46.0	個人
11	バリの空の恋人たち	1974	油彩、キャンバス	50.0×63.0	個人
12	赤と黄を背景にした群像	不詳	油彩、キャンバス	81.0×65.0	個人
13	大サーカス	1956	油彩、キャンバス、紙	36.0×61.0	個人
14	赤と青のサーカス	1969-73	油彩、キャンバス	63.5×82.9	個人
15	サーカスの情景	1977	グアッシュ、紙	67.0×52.0	個人
16	夢	1939-44	油彩、キャンバス	79.0×78.0	吉野石膏株式会社
17	ヴァイオリン弾き	1975	油彩、キャンバス	81.5×60.0	個人
18	想い出	1978	油彩、キャンバス	81.0×65.0	個人
19	バリの画家	不詳	テンペラ、合成板	50.0×61.0	個人
20	生命	1989	タピスリー	360.0×478.0	株式会社フジカワ画廊
21	黄色い家と屋根の上のロバ	1938頃	油彩、キャンバス	30.8×27.1	個人
22	花束を手にする娘	1978	テンペラ、紙	55.0×46.0	個人
23-46	出エジプト記の物語	1966	リトグラフ、紙	各50.0×37.0	個人
23	「出エジプト記の物語」口絵				
24	それからファラオの娘はゆりかごを開き、ひとりの男の子がいるのを見た。				
25	月日を経て成長したとき、モーゼは同胞のところに戻り、かれらの負担を見た。				
26	それから主の使いは芝のなかに炎となって彼に現れた。彼は見た。芝は焼きつくされなかった。				
27	彼が大地に杖を投げると、杖は蛇と化し、モーゼは逃げた。				
28	それから主はアロンに言われたー「言って荒野にいるモーゼに会いなさい。」彼は行って神の山でモーゼに会い、彼に口づけした。				
29	かくしてモーゼとアロンはいき、イスラエルの支族のすべての長老たちを集めた。				
30	それからモーゼとアロンはともにファラオに会いにいった。「主はこのように私に語られたのです。私の民を出発させて下さい。」				
31	それからモーゼは彼の手を海の上にさし伸べた。すると深い暗闇がエジプト全土をおそった。				
32	それからモーゼは彼の手を海の上にさし伸べた……すると海の水は逆流し、戦車や騎兵、ファラオのすべての軍隊を沈めた。				
33	そしてアロンの姉、女預言者のミリアムはタンバリンを手に取り、打ち鳴らした。全ての女たちは踊りながら彼女についていった。				
34	そしてあなたは岩に触れなさい。そうすれば私の民がのむことのできる水が湧き出るだろう。				
35	それからアマレクが来て、イスラエルとレビデムで戦った。そしてモーゼはヨシュアに言った「男たちを選び、行ってアマレクと戦いなさい。」				
36	それからモーゼは長老たちを呼び、主が彼に命ぜられたことにかれらを従わせた。				
37	あなたはアロンと彼の息子たちに聖油を注ぎ、かれらが聖殿において私に仕えることができるようにかれらを聖別しなさい。				
38	神は彼に2枚の律法の板、神の指で刻まれた石の板を与えた。				
39	それから人々は金の耳飾りをアロンに持って行き、彼はこれをかれらの手から受け取った。アロンはこれを溶かし金の子牛を作った。				
40	モーゼは怒りは激しく、彼は2枚の板を山のふもとでくいだいた。				
41	モーゼは2枚の板の上に契約の言葉と同じ十戒を書いた。				
42	それからモーゼはイスラエルの子供たちを集めてかれらに言った。「ここに主の御言葉がある。あなた方はこれに従わなければならない。」				
43	ベザレルは2つの金のケルビムを作った。このケルビムは翼を広げ、互いに向かい合っていた。同様に純金の燭台を作った。				
44	かれらはまた、主が命ぜられたようにかれらの司祭の聖所で祭司のつとめをするための聖なる服を作った。				
45	そしてモーゼはかれらの仕事を見た。彼はかれらが主の命令のとおり仕事をしているのを見て、かれらを祝福した。				
46	イスラエルの支族の眼前には、昼間は幕屋の上に主の雲があり、夜は雲のなかに火があった。かれらの旅の間はいつもそうだった。				



「お告げ」



「鶏と恋人たち」

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
47-89	オデュッセイア	1974-75	リトグラフ、紙	各42.0×33.0	個人
47	第1巻口絵				
48	神々の集い				
49	テレマコスの船を導く女神アテネ				
50	女神アテネへの捧げ物				
51	メネラオス王の館での饗宴				
52	プロテウス				
53	悲嘆にくれるユリシーズ				
54	ナウシカの前のユリシーズ				
55	アルシノースの王の館				
56	アレスとアフロディーテ				
57	女神アテナと馬				
58	私がユリシーズだ				
59	ポリュフェモス				
60	エオレ				
61	キルケー				
62	エルペーノール				
63	ティティオス				
64	ジジフォス				
65	波にのまれたユリシーズ				
66	セイレーン				
67	第2巻口絵				
68	アルシノースの館のユリシーズ				
69	乞食に変装したユリシーズ				
70	ユリシーズとエウマイオス				
71	ユリシーズと仲間たち				
72	アテナとテレマコス				
73	前兆 大鷲と鶏				
74	ユリシーズの正体が現れる				
75	ポセイドン				
76	求婚者達の饗宴の準備				
77	ユリシーズとイロスの戦い				
78	ユリシーズとエウクレイア				
79	ユリシーズを眠らせるアテナ				
80	予言者テオクリメノス				
81	ベネローベとユリシーズの弓				
82	ユリシーズの弓				
83	求婚者達の虐殺				
84	ユリシーズとベネローベ				
85	祝宴				
86	ユリシーズの寝台				
87	地獄へ				
88	エウピテス				
89	回復した平和				
90-131	ダフニスとクロエ	1957-60(1961年刊)	リトグラフ、紙		個人
90	「ダフニス クロエ」扉絵			42.0×32.0	
91	ラモオンによるダフニスの発見			42.0×32.0	
92	ダフニスによるクロエの発見			42.0×32.0	
93	ラモオンとドリュアスの夢			42.0×32.0	



「オデュッセイア」



「天使と恋人たち」

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
94	狼を捕らえる罠			42.0×32.0	
95	泉のほとりのダフニスとクロエ			42.0×32.0	
96	小牧場の春			42.0×64.0	
97	クロエの判断			42.0×64.0	
98	クロエの接吻			42.0×32.0	
99	ドルコオンの策略			42.0×32.0	
100	真昼、夏			42.0×32.0	
101	つばめ			42.0×32.0	
102	ドルコオンの死			42.0×64.0	
103	ニンフたちの洞穴			42.0×64.0	
104	ブドウの収穫			42.0×32.0	
105	フィレータースの教え			42.0×32.0	
106	メテュムナの若者たち			42.0×32.0	
107	ダフニスの夢とニンフたち			42.0×32.0	
108	フィレータースの果樹園			42.0×64.0	
109	クロエの誘拐			42.0×64.0	
110	ブリュアクシス將軍の夢			42.0×64.0	
111	小鳥狩り			42.0×64.0	
112	ニンフたちへの捧げ物			42.0×32.0	
113	牧神パンの饗宴			42.0×32.0	
114	シュリンクスの伝説			42.0×32.0	
115	冬			42.0×32.0	
116	ドリマス家での食事			42.0×64.0	
117	春			42.0×64.0	
118	ダフニスとリュカイニオン			42.0×32.0	
119	夏の季節			42.0×32.0	
120	死せるイルカと三百エキュ			42.0×32.0	
121	クロエ			42.0×32.0	
122	木精			42.0×64.0	
123	果樹園			42.0×64.0	
124	荒らされた花々			42.0×32.0	
125	ダフニスとグナトオン			42.0×32.0	
126	ディオニソファネスの到来			42.0×32.0	
127	クリアリスティエに着物を着せられ髪を結ってもらうクロエ			42.0×32.0	
128	バッカス神の物語と神殿			42.0×64.0	
129	祭りの間に娘を見出すメガクレエス			42.0×64.0	
130	ニンフたちの洞穴での婚礼の祝宴			42.0×64.0	
131	結婚			42.0×64.0	
132-169	サーカス	1967	リトグラフ、紙	各42.0×32.0 (38点組)	個人
170-179	悪童たち	1958	エッチング、紙	各43.0×33.0 (10点組)	個人
180-203	ポエム	1968		各37.3×29.3 (24点組)	山形美術館
180	「ポエム」より		木版、紙		
181	「ポエム」より		木版、紙		
182	「ポエム」より		木版、コラージュ、紙		
183	「ポエム」より		木版、紙		
184	「ポエム」より		木版、紙		
185	「ポエム」より		木版、紙		
186	「ポエム」より		木版、紙		
187	「ポエム」より		木版、紙		
188	「ポエム」より		木版、紙		
189	「ポエム」より		木版、紙		
190	「ポエム」より		木版、紙		
191	「ポエム」より		木版、紙		
192	「ポエム」より		木版、紙		
193	「ポエム」より		木版、紙		
194	「ポエム」より		木版、コラージュ、紙		
195	「ポエム」より		木版、コラージュ、布		
196	「ポエム」より		木版、コラージュ、布		
197	「ポエム」より		木版、コラージュ、紙		
198	「ポエム」より		木版、紙		
199	「ポエム」より		木版、紙		
200	「ポエム」より		木版、紙		
201	「ポエム」より		木版、紙		
202	「ポエム」より		木版、紙		
203	「ポエム」より		木版、紙		

* 寸法は縦×横。

知られざるインド更紗展 南海の島々インドネシアにおける発見

会期＝平成9年12月13日(土)ー平成10年1月25日(日)

主催＝北海道立帯広美術館、朝日新聞社

協力＝岡田コレクション、今昔西村コレクション、織田有コレクション、国立民族学博物館

関連事業

土曜映写室

「ジャワ更紗の隠れ里」

日時＝12月13日(土)、1月17日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

「ジャワ更紗 伝統と現代」

日時＝12月20日(土)、1月24日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂



ポスター



図録

室町時代以降、南蛮貿易などを通じてわが国にもたらされた模様染めの布は更紗と呼ばれる。なかでもインド更紗は江戸時代以降数多く渡来して珍重され、茶の湯の世界や祭礼の装飾用の布として時の権力者や文化人などの間でもてはやされてきた。ところが、それらの多くは細かく裁断され縫合されているために、現在では本来のインド更紗がいかなるものであったのかということについてはほとんど知られていない。

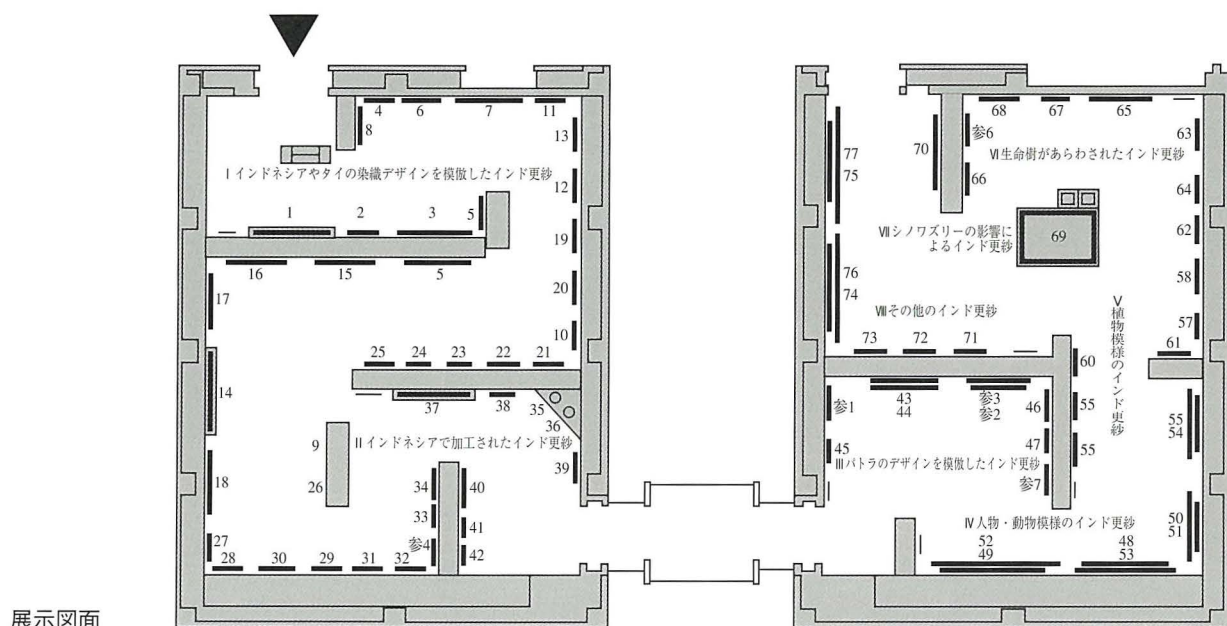
しかし、近年、インドネシアの島々において、大航海時代以降に送り込まれたとみられるインド更紗が相次いで発見され、大きな注目を集めている。それらは主にインドネシア染織のデザインを模倣してつくられたものだが、日本やヨーロッパ、エジプトなどにもたらされたインド更紗と共通するデザインや、これまでにほとんど知られていないデザインも少なからず見いだせる。しかもそれらはほとんど損なうことなく今日まで用いられてきた。

本展では、こうしたインドネシア発見のインド更紗77点と参考

資料7点の合計84点が次の8セクションにより展示され、その豊かな染織の美の世界が紹介された。

- I インドネシアやタイの染織デザインを模倣したインド更紗
- II インドネシアで加工されたインド更紗
- III パトラのデザインを模倣したインド更紗
- IV 人物・動物模様のインド更紗
- V 植物模様のインド更紗
- VI 生命樹があらわされたインド更紗
- VII シノワズリーの影響によるインド更紗
- VIII その他のインド更紗

出品資料中32点は木型を用いたブロック捺染によるもので、当館がテーマとしているプリントアートの一分野といえる。年末年始をはさんでの会期中、動物模様の珍しい図柄やオランダ東インド会社のマークの入った貴重なインド更紗に多くの関心が集まり、染織文化への理解を深める好機となった。



展示図面



会場風景



会場風景

出品目録

No.	用途	素材・染織技法	製作年代	寸法 (cm)	所蔵
I インドネシアやタイの染織デザインを模倣したインド更紗					
1	儀礼用布	木綿・両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	325.5×234.0	国立民族学博物館
2	儀礼用布	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	265.0×119.0	岡田コレクション
3	儀礼用壁飾り	木綿・一部両面染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	313.0×221.0	岡田コレクション
4	儀礼用布	木綿・両面染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	266.5×88.5	岡田コレクション
5	儀礼用布	木綿・両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	175.0×114.0	岡田コレクション
6	儀礼用布	木綿・両面染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	260.0×165.5	岡田コレクション
7	儀礼用布	木綿・両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	318.0×225.0	岡田コレクション
8	儀礼用布	木綿・一部両面染め・ブロック捺染	18世紀	390.0×110.0	今昔西村コレクション
9	儀礼用布	木綿・両面染め・ブロック捺染	17世紀-18世紀	269.0×104.0	岡田コレクション
10	儀礼用布	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	424.0×130.0	岡田コレクション
11	儀礼用布	木綿・一部両面染め・ブロック捺染	18世紀-19世紀	391.0×102.0	今昔西村コレクション
12	儀礼用布	木綿・両面染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	414.0×102.0	今昔西村コレクション
13	儀礼用布	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	246.0×112.0	今昔西村コレクション
14	儀礼用布	木綿・両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	314.0×221.5	国立民族学博物館
15	儀礼用布	木綿・両面染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	280.0×190.0	岡田コレクション
16	儀礼用布	木綿・両面染め・ロウ防染	18世紀	280.0×196.0	岡田コレクション
17	儀礼用布	木綿・両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	184.0×226.5	岡田コレクション
18	儀礼用布	木綿・両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	290.0×208.0	岡田コレクション
19	儀礼用衣装	木綿・両面染め・ロウ防染・ブロック捺染・経緯併用緋	18世紀-19世紀	264.0×100.0	今昔西村コレクション
20	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	210.0×100.0	今昔西村コレクション
21	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	260.0×119.0	今昔西村コレクション
22	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・ロウ防染・ブロック捺染	18世紀-19世紀	260.0×115.0	今昔西村コレクション
23	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・ロウ防染・ブロック捺染	19世紀	264.0×111.0	岡田コレクション
24	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・ブロック捺染	19世紀	233.0×112.5	岡田コレクション
25	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	220.5×102.0	織田有コレクション
26	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・ロウ防染・ブロック捺染	18世紀-19世紀	252.0×115.0	今昔西村コレクション
27	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	296.0×119.0	織田有コレクション
28	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	274.0×114.0	今昔西村コレクション
29	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	368.0×117.0	織田有コレクション
30	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	385.0×117.5	岡田コレクション
31	儀礼用衣装	木綿・一部両面染め・描き染め	18世紀-19世紀	260.0×114.5	岡田コレクション
32	儀礼用布	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀-19世紀	258.0×120.5	岡田コレクション
33	儀礼用布	木綿・一部両面染め・描き染め・ブロック捺染	17世紀-18世紀	224.0×82.0	岡田コレクション
34	儀礼用布	木綿・片面染め・ブロック捺染	17世紀-18世紀	216.0×92.0	今昔西村コレクション
II インドネシアで加工されたインド更紗					
35	儀礼用腰布	木綿・両面染め・ブロック捺染・刺繍	17世紀-18世紀	125.0×125.0	岡田コレクション
36	儀礼用腰衣	木綿・両面染め・ブロック捺染	17世紀-18世紀	135.0×151.0	岡田コレクション
37	儀礼用天蓋	木綿・片面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	266.0×206.0	岡田コレクション
38	儀礼用腰巻	木綿・一部両面染め・ブロック捺染・印金	19世紀	264.0×110.0	岡田コレクション
39	儀礼用腰巻	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染・印金	18世紀-19世紀	257.0×115.0	岡田コレクション
40	儀礼用上衣	木綿・片面染め・ブロック捺染・印金	19世紀	114.0	岡田コレクション
41	儀礼用布	木綿・片面染め・ブロック捺染・描き染め	18世紀-19世紀	128.0×61.0	岡田コレクション
42	儀礼用布	木綿・片面染め・ブロック捺染・描き染め	18世紀-19世紀	150.0×65.0	岡田コレクション
III パトラのデザインを模倣したインド更紗					
43	儀礼用壁飾り	木綿・片面染め・ブロック捺染	18世紀-19世紀	371.0×91.0	岡田コレクション
44	儀礼用布	木綿・両面染め・ブロック捺染	17世紀-18世紀	401.0×106.0	岡田コレクション
45	儀礼用布	木綿・両面染め・ブロック捺染	18世紀-19世紀	236.0×82.0	今昔西村コレクション
46	儀礼用布	木綿・両面染め・ブロック捺染	17世紀-18世紀	278.0×105.0	岡田コレクション
47	儀礼用布	木綿・一部両面染め・ブロック捺染	18世紀-19世紀	208.0×78.0	今昔西村コレクション

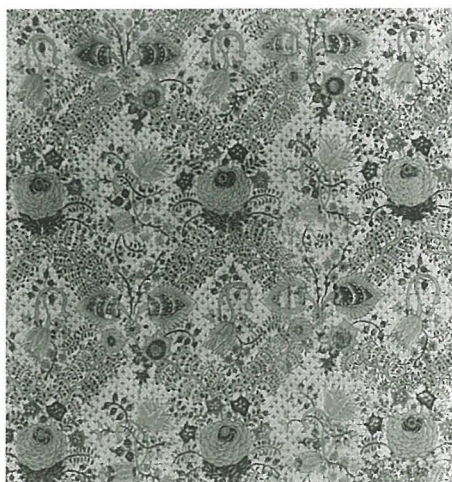


儀礼用カーテン

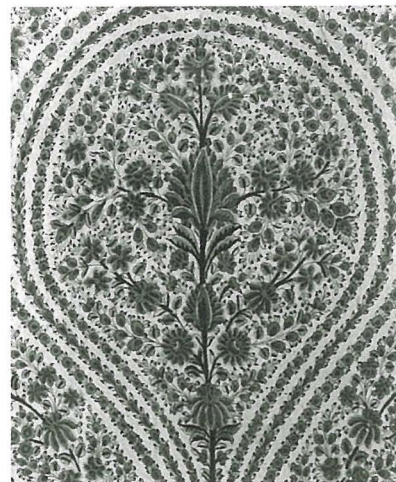


儀礼用壁飾り (?)

No.	用途	素材・染織技法	製作年代	寸法 (cm)	所蔵
IV 人物・動物模様のインド更紗					
48	儀礼用カーテン	木綿・片面染め・描き染め	18世紀	420.0×93.0	岡田コレクション
49	儀礼用壁飾り (?)	木綿・一部両面染め・ロウ防染	18世紀	500.0×106.0	今昔西村コレクション
50	儀礼用壁飾り (?)	木綿・一部両面染め・ロウ防染・ブロック捺染	18世紀-19世紀	203.0×91.5	岡田コレクション
51	儀礼用壁飾り (?)	木綿・一部両面染め・ロウ防染・ブロック捺染	18世紀-19世紀	480.5×94.5	岡田コレクション
52	儀礼用壁飾り	木綿・片面染め・ブロック捺染	19世紀	453.0×83.0	岡田コレクション
53	儀礼用布	木綿・片面染め・ロウ防染	18世紀	545.5×97.5	岡田コレクション
54	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め	18世紀-19世紀	505.0×99.5	岡田コレクション
55	儀礼用布	木綿・片面染め・ロウ防染・ブロック捺染	18世紀-19世紀	450.0×94.0	岡田コレクション
V 植物模様のインド更紗					
56	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め	18世紀	372.0×109.0	織田有コレクション
57	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め	18世紀	291.0×94.0	岡田コレクション
58	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	299.0×102.0	岡田コレクション
59	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	366.0×108.0	今昔西村コレクション
60	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	366.0×108.0	今昔西村コレクション
61	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	345.0×107.0	今昔西村コレクション
62	儀礼用布	木綿・一部両面染め・描き染め・ロウ防染・ブロック捺染	18世紀	343.0×106.0	岡田コレクション
63	儀礼用壁飾り (?)	木綿・片面染め・ブロック捺染	18世紀-19世紀	194.0×139.0	今昔西村コレクション
64	儀礼用壁飾り (?)	木綿・片面染め・ブロック捺染	18世紀-19世紀	181.0×138.0	今昔西村コレクション
VI 生命樹があらわされたインド更紗					
65	儀礼用壁飾り	木綿・片面染め・ブロック捺染	18世紀-19世紀	263.0×221.0	岡田コレクション
66	儀礼用壁飾り	木綿・片面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	188.0×112.0	岡田コレクション
67	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め	18世紀	168.0×104.0	岡田コレクション
68	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め	18世紀	245.0×175.0	岡田コレクション
VII シノワズリーの影響によるインド更紗					
69	儀礼用壁飾り	木綿・片面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	312.0×224.0	今昔西村コレクション
VIII その他のインド更紗					
70	儀礼用壁飾り (?)	木綿・両面染め・描き染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	312.5×236.0	岡田コレクション
71	儀礼用布	木綿・両面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	232.0×124.0	国立民族学博物館
72	儀礼用布	木綿・片面染め・描き染め・ロウ防染	18世紀	352.0×106.0	岡田コレクション
73	儀礼用布	木綿・両面染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	322.5×97.0	今昔西村コレクション
74	儀礼用布	木綿・片面染め・ロウ防染・ブロック捺染	19世紀	456.0×80.0	岡田コレクション
75	儀礼用布	木綿・一部両面染め・ロウ防染・ブロック捺染	18世紀-19世紀	465.0×80.0	今昔西村コレクション
76	儀礼用布	木綿・一部両面染め・ロウ防染・ブロック捺染	18世紀-19世紀	424.0×84.0	岡田コレクション
77	儀礼用布	木綿・片面染め・ロウ防染	17世紀-18世紀	264.0×80.0	今昔西村コレクション
参考資料					
(パトラ)					
1	儀礼用布	絹・経緯緋	18世紀-19世紀	523.0×119.0	岡田コレクション
2	儀礼用布	絹・経緯緋	18世紀-19世紀	229.0×85.0	岡田コレクション
3	儀礼用布	絹・経緯緋	18世紀-19世紀	186.0×82.0	岡田コレクション
(ジャワ更紗)					
4	肩掛け/腰布	木綿・ロウ防染	19世紀末-20世紀初頭	258.0×106.0	岡田コレクション
5	腰布	木綿・ロウ防染	20世紀前半	326.0×261.0	岡田コレクション
(ヨーロッパ産のプリント更紗)					
6	儀礼用壁飾り	木綿・ブロック捺染	19世紀	189.5×122.5	岡田コレクション
7	儀礼用壁飾り	木綿・ブロック捺染	19世紀	252.0×78.0	岡田コレクション



儀礼用布



儀礼用壁飾り

自然の中の画家たち [バルビゾン派／十勝] の美術

会期＝平成10年1月31日(土)－3月29日(日)
主催＝北海道立帯広美術館

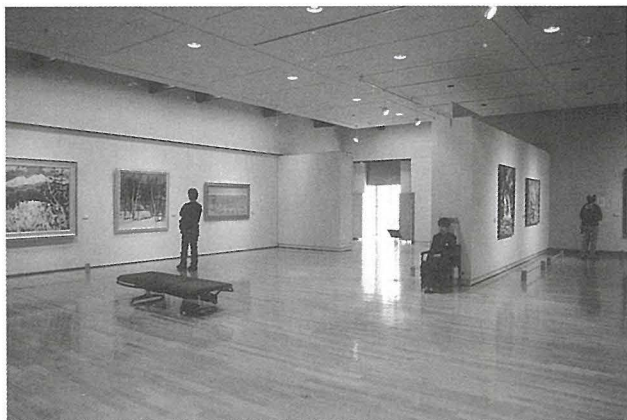
古くより自然の景観や風物は、美術家たちにさまざまな着想を与え、多彩な美術作品を生み出す源となってきた。この展覧会では、バルビゾン派の作品および十勝ゆかりの画家たちの風景画、計75作品を展示し、自然と美術の関わりを紹介した。

主展示室1にはバルビゾン派の作品を展示。19世紀中頃、パリ東南のフォンテーヌブローの森で制作活動を展開したバルビゾン派の画家たちは、森林や平原といった近郊の自然風景、そしてそこに暮らす人々の生活情景を清新な筆致で描き、近代風景画の確立に大きな役割を果たした。今回出品された作品はいずれも当館に所蔵されているものである。ミレーやルソーらバルビゾン派を代表する画家たちの作品から、アルピニーやアロンジェなどその後継者ともいえる作家たちの作品まで、油彩や水彩・素描、版画あわせて計52作品を紹介した。

一方、主展示室2では地元ゆかりの画家たちの作品を紹介。海や山河に囲まれ多彩な自然の相貌を見せる十勝地方にあって、多くの画家たちがその風景や人々の生活の姿を描いてきた。その主題や描法は多岐にわたるが、十勝の厳しくも美しい風土が彼らの制作活動の起点となっていることは疑うべくもない。今回は当館が所蔵する伊藤隆二、能勢真美、竹山義雄らの風景画に、地元諸機関や作者自身から借用した作品を加え、油彩画23作品によって、十勝の風景画の変遷と現況の一端を振り返った。



会場風景



会場風景

出品目録

バルビゾン派の美術

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
1	A.アピアン	リックスの周辺	1864	エッチング、紙	7.0× 15.1	北海道立帯広美術館
2	A.アピアン	ロメ谷	1868	エッチング、紙	10.1× 19.1	北海道立帯広美術館
3	A.アピアン	リヨン周辺	1879	エッチング、紙	14.1× 23.3	北海道立帯広美術館
4	A.アピアン	マントン近郊	1879	エッチング、紙	12.2× 20.1	北海道立帯広美術館
5	H.J.アルピニー	川辺の道	不詳	水彩、紙	23.9× 33.7	北海道立帯広美術館
6	H.J.アルピニー	川辺	不詳	水彩、紙	22.5× 33.8	北海道立帯広美術館
7	A.アロンジェ	池の水門	1879	リトグラフ、木炭、紙	55.7× 41.6	北海道立帯広美術館
8	A.アロンジェ	森の中	不詳	水彩、紙	53.5× 75.7	北海道立帯広美術館
9	J.B.C.コロ	ひざまずくマグダラのマリア	1858	クリシェ＝ヴェール、紙	16.5× 11.4	北海道立帯広美術館
10	J.B.C.コロ	イタリアの思い出	1863	エッチング、紙	29.5× 22.0	北海道立帯広美術館
11	J.B.C.コロ	植林された平野	1866	エッチング、紙	10.0× 13.0	北海道立帯広美術館
12	Ch.E.ジャック	蹄鉄場	1865	エッチング、紙	12.8× 19.3	北海道立帯広美術館
13	Ch.E.ジャック	森の中の羊飼いと羊の群れ	不詳	油彩、キャンバス	81.2× 65.0	北海道立帯広美術館
14	Ch.E.ジャック	オランダ牛	不詳	エッチング、紙	11.0× 17.9	北海道立帯広美術館
15	Ch.E.ジャック	雄鳥と雌鳥	不詳	エッチング、紙	12.1× 17.0	北海道立帯広美術館
16	Ch.E.ジャック	夏	不詳	エッチング、紙	12.8× 9.7	北海道立帯広美術館
17	Ch.E.ジャック	水飲み場	不詳	エッチング、紙	14.5× 21.0	北海道立帯広美術館
18	Ch.E.ジャック	豚飼いの少年	不詳	エッチング、紙	11.5× 17.7	北海道立帯広美術館
19	L.シャブリ	牧場と木々	不詳	油彩、キャンバス	32.0× 47.5	北海道立帯広美術館
20	L.シャブリ	アレスの道 (ジロンド)	不詳	エッチング、紙	14.3× 20.8	北海道立帯広美術館
21	J.F.シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	油彩、キャンバス	65.4× 100.4	北海道立帯広美術館
22	J.F.シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	エッチング、紙	19.8× 30.7	北海道立帯広美術館
23	J.デュプレ	水飲み場	19世紀後半	パステル、紙	80.0× 98.8	北海道立帯広美術館

24	J.デュブレ	ソローニュの風車	1835	リトグラフ、紙	19.6× 14.0	北海道立帯広美術館
25	J.デュブレ	ノルマンディー地方の風景	1835	リトグラフ、紙	13.7× 20.7	北海道立帯広美術館
26	J.デュブレ	イギリス風景	1836	リトグラフ、紙	12.9× 20.7	北海道立帯広美術館
27	J.デュブレ	アランソン風景	1839	リトグラフ、紙	13.3× 19.0	北海道立帯広美術館
28	A.ドゥフォー	農家の中庭	19世紀後半	油彩、キャンバス	40.0× 68.0	北海道立帯広美術館
29	Ch.F.ドービニー	レバノンの西洋杉	1842	エッチング、紙	17.5× 11.3	北海道立帯広美術館
30	Ch.F.ドービニー	羊の柵囲い	1860	エッチング、紙	18.4× 34.3	北海道立帯広美術館
31	Ch.F.ドービニー	オーヴェールのりんごの木	1877	エッチング、紙	14.0× 23.9	北海道立帯広美術館
32	Ch.F.ドービニー	ヴィラーヴィル海岸	不詳	エッチング、紙	9.2× 19.8	北海道立帯広美術館
33	C.トロワイヨン	牛のいる風景	不詳	油彩、キャンバス	80.6× 99.7	北海道立帯広美術館
34	J.R.ブラカサ	海辺の羊	不詳	油彩、キャンバス	49.0× 65.0	北海道立帯広美術館
35	F.L.フランセ	風景一丘陵の牛	1859	パステル、紙	54.7× 82.6	北海道立帯広美術館
36	F.L.フランセ	沼辺の犬	不詳	リトグラフ、紙	15.6× 24.7	北海道立帯広美術館
37	K.ボドメール	鹿の呼び声	不詳	油彩、キャンバス	101.0× 81.0	北海道立帯広美術館
38	K.ボドメール	鹿	不詳	エッチング、手彩色、紙	8.7× 13.5	北海道立帯広美術館
39	K.ボドメール	鳥の水場	不詳	リトグラフ、紙	48.8× 34.4	北海道立帯広美術館
40	J.F.ミレー	裁縫する女	1855 - 56	エッチング、紙	10.5× 7.4	北海道立帯広美術館
41	J.F.ミレー	耕す人	1855頃	エッチング、紙	24.0× 34.0	北海道立帯広美術館
42	J.F.ミレー	落穂ひろい	1855 - 56	エッチング、紙	19.2× 25.0	北海道立帯広美術館
43	P.ユエ	フォンテーヌブロー付近	1866	エッチング、紙	19.3× 28.0	北海道立帯広美術館
44	P.ユエ	オージュ谷のノルマンディー人の家の庭	1866	エッチング、紙	9.5× 14.0	北海道立帯広美術館
45	E.A.ラヴィエイユ	村の眺め	不詳	油彩、板	32.8× 56.0	北海道立帯広美術館
46	L.リッシェ	農婦のいる風景	不詳	油彩、キャンバス	43.8× 59.7	北海道立帯広美術館
47	T.h.ルソー	ピオーのサクラノボの木	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	22.1× 27.7	北海道立帯広美術館
48	T.h.ルソー	ピオーの平原	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	21.8× 27.7	北海道立帯広美術館
49	T.h.ルソー	檜の木と岩	1861	エッチング、紙	12.7× 17.2	北海道立帯広美術館
50	不詳	コロアの肖像	不詳	エッチング、紙	11.9× 10.9	北海道立帯広美術館
51	不詳	ユエの肖像	不詳	エッチング、紙	15.1× 11.2	北海道立帯広美術館
52	不詳	ドービニーの肖像	不詳	エッチング、紙	21.4× 15.3	北海道立帯広美術館

十勝の美術

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	所蔵
53	伊藤隆二	池のほとり	1931 (昭和6)	油彩、キャンバス	72.8× 91.0	北海道立帯広美術館
54	伊藤隆二	曇り日	1932 (昭和7)	油彩、キャンバス	53.1× 72.9	北海道立帯広美術館
55	伊藤隆二	神社境内	1934 (昭和9)	油彩、キャンバス	72.7× 90.9	百年記念館
56	伊藤隆二	雪景	1936 (昭和11)	油彩、キャンバス	72.8× 91.0	北海道立帯広美術館
57	伊藤隆二	冬の材木置場	1936 (昭和11)	油彩、キャンバス	72.7× 90.9	百年記念館
58	熊代弘法	原野への道	1970 (昭和45) 頃	油彩、キャンバス	112.1×145.5	とちちプラザ
59	熊代弘法	原野への道	1970 (昭和45) 頃	油彩、キャンバス	111.1×145.5	芽室町図書館
60	坂本直行	十勝大平原と日高連峰	1960 (昭和35)	油彩、キャンバス	78.0×154.2	百年記念館
61	竹山義雄	[冬]	1967 (昭和42) 頃	油彩、キャンバス	130.3×130.3	とちちプラザ
62	竹山義雄	早春山野	1978 (昭和53)	油彩、キャンバス	130.6×162.0	北海道立帯広美術館
63	竹山義雄	川畔秋草	1979 (昭和54)	油彩、キャンバス	145.5×112.2	北海道立帯広美術館
64	長尾栄三	樹苑の秋	1966 (昭和41)	油彩、キャンバス	130.3×162.1	長尾フミ子氏
65	長尾栄三	山脈の見える風景	1977 (昭和52)	油彩、キャンバス	145.5×112.1	長尾フミ子氏
66	長尾栄三	晩秋の高原	1979 (昭和54)	油彩、キャンバス	130.3×162.1	長尾フミ子氏
67	中西克昭	北の山道	1990 (平成2)	油彩、キャンバス	130.3×193.9	音更町文化センター
68	中西克昭	秋趣	1996 (平成8)	油彩、キャンバス	112.1×145.5	作者蔵
69	中西克昭	緑の諧調	1997 (平成9)	油彩、キャンバス	130.3×162.1	作者蔵
70	能勢眞美	木々	1958 (昭和33)	油彩、キャンバス	162.1×130.3	北海道立帯広美術館
71	能勢眞美	樹列	1966 (昭和41)	油彩、キャンバス	145.5× 89.5	北海道立帯広美術館
72	能勢眞美	疎林初秋	1967 (昭和42)	油彩、キャンバス	97.0×162.0	北海道立帯広美術館
73	能勢眞美	樹草	1973 (昭和48)	油彩、キャンバス	97.0×145.5	北海道立帯広美術館
74	由良真一	巨巖の滝	1995 (平成7)	油彩、キャンバス	145.5×112.1	作者蔵
75	由良真一	ラワンの流れ	1995 (平成7)	油彩、キャンバス	112.1×145.5	作者蔵

* No.61の作品名は本展のために便宜的につけたものである。

* 寸法は縦×横。



E.A.ラヴィエイユ「村の眺め」



竹山義雄「早春山野」

夢の記憶と出会うとき イギリス絵本の世界展

会期＝平成10年4月10日(金)－5月13日(水)
 主催＝北海道立帯広美術館、読売新聞社、
 美術館連絡協議会

後援＝プリティッシュ・カウンシル、日本国際児童図書評議会
 協賛＝花王株式会社
 協力＝ヴァージンアトランティック航空
 企画＝株式会社エム・エム・エム

関連事業

土曜映写室

「ファーザー・クリスマス」「スノーマン」

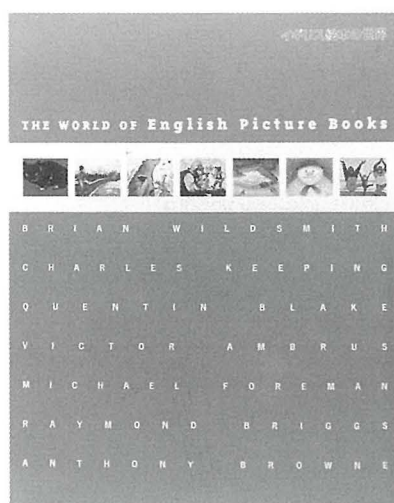
日時＝4月11日(土)、4月18日(土)、4月25日(土)、5月2日(土)

午後2時～3時

会場＝当館講堂



ポスター

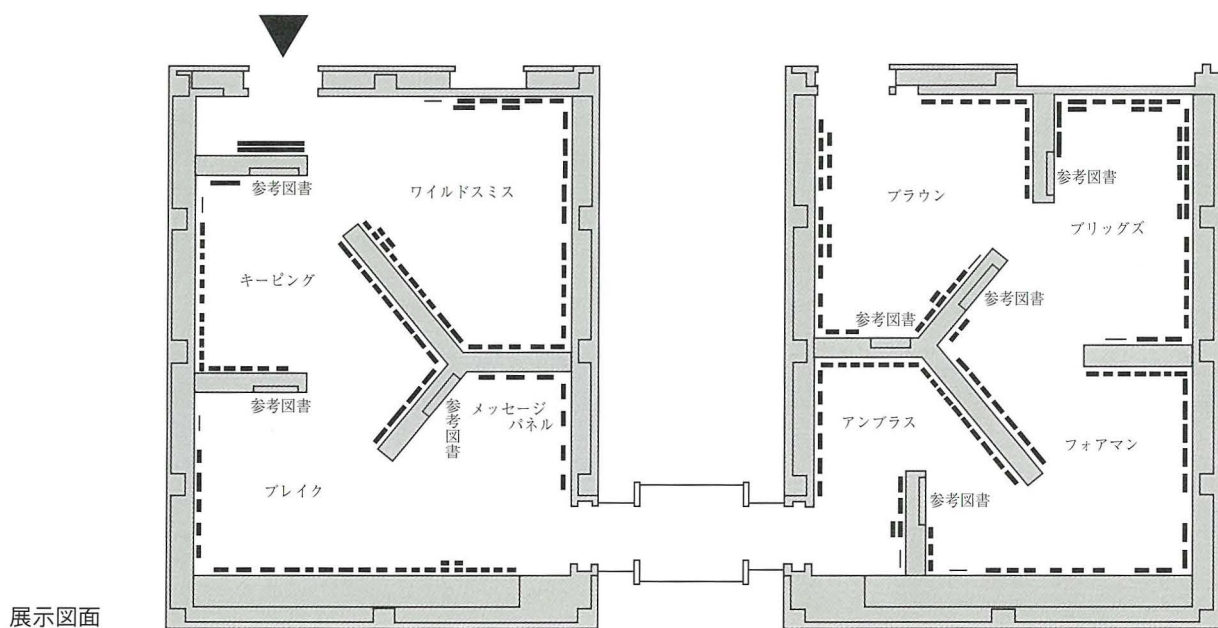


図録

絵本は、子どもにとって美術の世界への最初の入り口である。言葉とイメージが一体となった独自の表現は、芸術的示唆に富み、多様で豊かな創造力と親しみやすさによって、子どもたちの心を自由な空想世界へと導いていく。そこに描かれた不思議な幻想や伝説、身の回りで繰り広げられる小さな物語には、生きる希望や困難に立ち向かう勇気、人知を超えるものへの畏怖や尊敬など、様々なメッセージが込められ、子どもばかりでなく、多くの人々を魅了し続けてきた。

本展では、現代の多様な絵本文化の基礎を築いたイギリスに焦

点を当て、その黄金時代を飾った代表的な作家、ビクター・アンブラス、クウェンティン・ブレイク、レイモンド・ブリッグズ、アンソニー・ブラウン、マイケル・フォアマン、チャールズ・キーピング、ブライアン・ワイルドスミスら7人の作家の絵本原画229点によって豊かなメッセージにあふれる絵本の魅力を紹介した。展示作品のほかホールでは、7人の作家を紹介するビデオの上映、またロビーでは絵本の閲覧コーナーを設けるなど、来館者の興味と関心を引く催しが好評を得て、29日間の期間中 8,067人の入館者を集めた。



展示図面



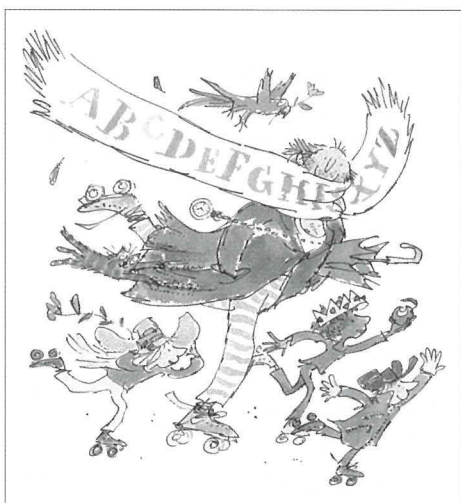
会場風景



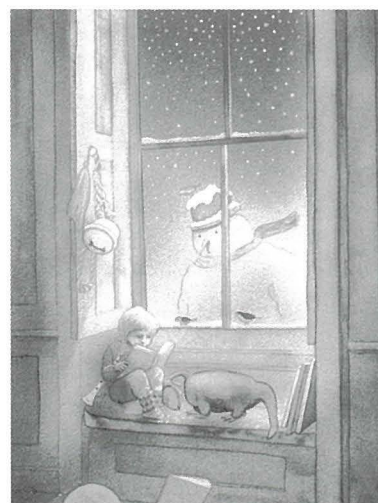
会場風景

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	寸法(cm)	所蔵
1	ブライアン・ワイルドスミス	ワイルドスミスのABC りんご	1962	37.2×68.2	ブライアン・ワイルドスミス美術館
2	ブライアン・ワイルドスミス	ワイルドスミスのABC ちょう	1962	37.2×68.2	ブライアン・ワイルドスミス美術館
3	ブライアン・ワイルドスミス	ワイルドスミスのABC ねこ	1962	37.2×68.2	ブライアン・ワイルドスミス美術館
4	ブライアン・ワイルドスミス	ワイルドスミスのABC おおとかげ	1962	37.2×68.2	ブライアン・ワイルドスミス美術館
5	ブライアン・ワイルドスミス	ワイルドスミスのABC アメリカひょう	1962	37.2×68.2	ブライアン・ワイルドスミス美術館
6	ブライアン・ワイルドスミス	ワイルドスミスのABC やかん	1962	37.2×68.2	ブライアン・ワイルドスミス美術館
7	ブライアン・ワイルドスミス	ワイルドスミスのABC もっきん	1962	37.2×68.2	ブライアン・ワイルドスミス美術館
8	ブライアン・ワイルドスミス	1 2 3 2	1965	45.5×32.5	ブライアン・ワイルドスミス美術館
9	ブライアン・ワイルドスミス	1 2 3 4	1965	50×38	ブライアン・ワイルドスミス美術館
10	ブライアン・ワイルドスミス	1 2 3 6	1965	52×37	ブライアン・ワイルドスミス美術館
11	ブライアン・ワイルドスミス	1 2 3 9	1965	47×36	ブライアン・ワイルドスミス美術館
12	ブライアン・ワイルドスミス	1 2 3 いくつあるかな	1965	51×41.5	ブライアン・ワイルドスミス美術館
13	ブライアン・ワイルドスミス	パズル 扉絵	1971	53.5×39.5	ブライアン・ワイルドスミス美術館
14	ブライアン・ワイルドスミス	パズル ひよこはなんぼ?	1971	54×39.5	ブライアン・ワイルドスミス美術館
15	ブライアン・ワイルドスミス	パズル こねこくんはどうして	1971	52×36	ブライアン・ワイルドスミス美術館
16	ブライアン・ワイルドスミス	パズル ひとつだけのすはどーれだ	1971	48.5×38	ブライアン・ワイルドスミス美術館
17	ブライアン・ワイルドスミス	パズル おうちはどこ?	1971	54×39	ブライアン・ワイルドスミス美術館
18	ブライアン・ワイルドスミス	とり ちどりのあつまり	1967	47×80	ブライアン・ワイルドスミス美術館
19	ブライアン・ワイルドスミス	とり からすのいじわる	1967	47×80	ブライアン・ワイルドスミス美術館
20	ブライアン・ワイルドスミス	さかな エンゼルフィッシュ	1968	43×55	ブライアン・ワイルドスミス美術館
21	ブライアン・ワイルドスミス	さかな さばのむれ	1968	55×73	ブライアン・ワイルドスミス美術館
22	ブライアン・ワイルドスミス	さかな すずきのかんたい	1968	55×73	ブライアン・ワイルドスミス美術館
23	ブライアン・ワイルドスミス	どうぶつ りこうなさる	1967	57×73	ブライアン・ワイルドスミス美術館
24	ブライアン・ワイルドスミス	どうぶつ カンガルーのだいいどう	1967	57×73	ブライアン・ワイルドスミス美術館
25	ブライアン・ワイルドスミス	石坂浩二のマザーグース がちょうおばさん	1964	43×55	ブライアン・ワイルドスミス美術館
26	ブライアン・ワイルドスミス	石坂浩二のマザーグース 24人の仕立屋さん	1964	55×43	ブライアン・ワイルドスミス美術館
27	ブライアン・ワイルドスミス	石坂浩二のマザーグース 笛吹きの息子のトム	1964	55×43	ブライアン・ワイルドスミス美術館
28	ブライアン・ワイルドスミス	石坂浩二のマザーグース ジャックとジル	1964	43×35	ブライアン・ワイルドスミス美術館
29	ブライアン・ワイルドスミス	石坂浩二のマザーグース クリクリ巻き毛のおじょうさま	1964	55×43	ブライアン・ワイルドスミス美術館
30	ブライアン・ワイルドスミス	クリスマスの12にち いちわのうずらはなしの木に	1972	51×40	ブライアン・ワイルドスミス美術館
31	ブライアン・ワイルドスミス	クリスマスの12にち よんわのことりおがながい	1972	51×40	ブライアン・ワイルドスミス美術館
32	ブライアン・ワイルドスミス	クリスマスの12にち ななわのはくちょうおやこでおよぐ	1972	51×40	ブライアン・ワイルドスミス美術館
33	ブライアン・ワイルドスミス	クリスマスの12にち 10にんそろってふえをふく	1972	51×40	ブライアン・ワイルドスミス美術館
34	ブライアン・ワイルドスミス	クリスマスの12にち 12にんのおとうさん	1972	51×40	ブライアン・ワイルドスミス美術館
35	ブライアン・ワイルドスミス	夢の国のちびっこバク 表紙絵	1996	55×73	ブライアン・ワイルドスミス美術館
36	チャールズ・キーピング	しあわせどおりのカナリヤ きょうかいにこしかけて	1967	29×26	キーピング・ギャラリー
37	チャールズ・キーピング	しあわせどおりのカナリヤ シャーロットのうちはこわされて	1967	34×26	キーピング・ギャラリー
38	チャールズ・キーピング	しあわせどおりのカナリヤ チャーリーにいたいくて	1967	25×26	キーピング・ギャラリー
39	チャールズ・キーピング	しあわせどおりのカナリヤ さびしくてたまらないチャーリーは	1967	34×26	キーピング・ギャラリー
40	チャールズ・キーピング	しあわせどおりのカナリヤ このきんいろのカナリヤいくら?	1967	34×26	キーピング・ギャラリー
41	チャールズ・キーピング	しあわせどおりのカナリヤ チャーリーのゆびにあんしんして	1967	32×23	キーピング・ギャラリー
42	チャールズ・キーピング	しあわせどおりのカナリヤ ビルをじっとみすえました	1967	34×26	キーピング・ギャラリー
43	チャールズ・キーピング	アルフィーとフェリーボート 表紙絵	1968	31×67	キーピング・ギャラリー
44	チャールズ・キーピング	アルフィーとフェリーボート バンティをみなかったかときいてみました	1968	26×33	キーピング・ギャラリー
45	チャールズ・キーピング	アルフィーとフェリーボート きみどりのあかるいがいとうのしたにたったとき	1968	27×33	キーピング・ギャラリー
46	チャールズ・キーピング	アルフィーとフェリーボート ふねにのりこんだアルフィーは	1968	27×35	キーピング・ギャラリー
47	チャールズ・キーピング	アルフィーとフェリーボート みわたすかぎりひかりのうみ	1968	27×34	キーピング・ギャラリー
48	チャールズ・キーピング	荒地地のサーカス その荒地地は街の中心に	1975	38×52	キーピング・ギャラリー
49	チャールズ・キーピング	荒地地のサーカス ふたりは荒地地で荷馬車を見つけました	1975	37×52	キーピング・ギャラリー
50	チャールズ・キーピング	荒地地のサーカス サーカスがやってきた	1975	38×31	キーピング・ギャラリー
51	チャールズ・キーピング	荒地地のサーカス ライオンはねむって	1975	37×24	キーピング・ギャラリー
52	チャールズ・キーピング	荒地地のサーカス まわるまわる観覧車、まわるまわる回転木馬	1975	34×23	キーピング・ギャラリー



「クウェンティン・ブレイクのABC」



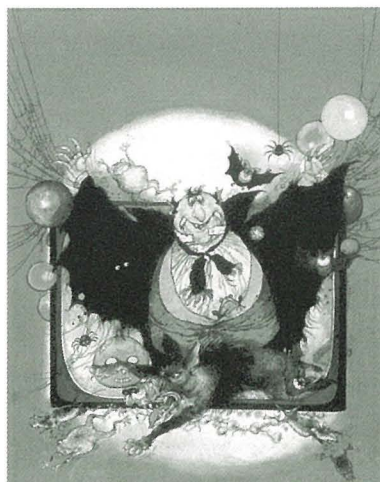
マイケル・フォアマン「こどもの詩の園」

No	作者名	作品名	制作年	寸法(cm)	所蔵	
53	チャールズ・キーピング	荒地地のサーカス	サーカスがはじまりました	1975	36×25	キーピング・ギャラリー
54	チャールズ・キーピング	荒地地のサーカス	ライオンは火をくぐって	1975	39×52	キーピング・ギャラリー
55	チャールズ・キーピング	荒地地のサーカス	荒地地はまたもとにもどりました	1975	38×52	キーピング・ギャラリー
56	チャールズ・キーピング	エミリーさんとまぼろしの鳥	じつにめずらしい鳥ですぜ	1978	38×31	キーピング・ギャラリー
57	チャールズ・キーピング	エミリーさんとまぼろしの鳥	エミリーさんはいちにちじゅう鳥かごのそばに	1978	38×31	キーピング・ギャラリー
58	チャールズ・キーピング	エミリーさんとまぼろしの鳥	えのぐばこをとりだしました	1978	38×31	キーピング・ギャラリー
59	チャールズ・キーピング	エミリーさんとまぼろしの鳥	このおいぼれのうそつきめ！	1978	38×31	キーピング・ギャラリー
60	チャールズ・キーピング	エミリーさんとまぼろしの鳥	手おし車はひっくりかえりました	1978	38×31	キーピング・ギャラリー
61	チャールズ・キーピング	アダムとパラダイス・アイランド	表紙絵	1989	37×28	キーピング・ギャラリー
62	チャールズ・キーピング	アダムとパラダイス・アイランド	パラダイス・アイランドはアダムのお気に入り	1989	38×61	キーピング・ギャラリー
63	チャールズ・キーピング	アダムとパラダイス・アイランド	本屋の窓からはパレード通りの全景がみえました	1989	38×30	キーピング・ギャラリー
64	チャールズ・キーピング	アダムとパラダイス・アイランド	捨てられた木やれんがを集めて運びました	1989	38×61	キーピング・ギャラリー
65	チャールズ・キーピング	アダムとパラダイス・アイランド	遊び場の監視員となって料理をふるまいました	1989	27×30	キーピング・ギャラリー
66	チャールズ・キーピング	アダムとパラダイス・アイランド	パラダイス・アイランドは今までは違った形で	1989	37×29	キーピング・ギャラリー
67	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	表紙絵	1989	39×28	作者
68	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	ぼたんいんこ	1989	44×30	作者
69	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	花火	1989	44×36	作者
70	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	おばあちゃま・髪の毛	1989	45×57	作者
71	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	やまい・がらくた	1989	45×61	作者
72	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	こねこ・足	1989	37×57	作者
73	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	泥沼・鼻	1989	44×60	作者
74	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	だちよう	1989	45×33	作者
75	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	女王さま・ローラースケート	1989	45×61	作者
76	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	小包み	1989	43×34	作者
77	クウエンティン・ブレイク	クウエンティン・ブレイクのABC	裏表紙絵	1989	39×28	作者
78	クウエンティン・ブレイク	クマと仙人	表紙絵	1984	33×28	作者
79	クウエンティン・ブレイク	クマと仙人	さおさしはかっこうよく	1984	12×30	作者
80	クウエンティン・ブレイク	クマと仙人	卵をほうりなげました	1984	21×30	作者
81	クウエンティン・ブレイク	クマと仙人	壁紙にのりを	1984	12×20	作者
82	クウエンティン・ブレイク	クマと仙人	仙人は水に落ちました	1984	16×16	作者
83	クウエンティン・ブレイク	クマと仙人	クマの卒業証書を	1984	18×30	作者
84	クウエンティン・ブレイク	すてきなミスター・フォックス	表紙絵	1996	38×29	作者
85	クウエンティン・ブレイク	すてきなミスター・フォックス	ミスター・フォックスは、奥さんと4人の子どもと	1996	27×37	作者
86	クウエンティン・ブレイク	すてきなミスター・フォックス	ねえ あなた 今日の夕食は	1996	27×25	作者
87	クウエンティン・ブレイク	すてきなミスター・フォックス	いい考えがひらめきました	1996	27×37	作者
88	クウエンティン・ブレイク	すてきなミスター・フォックス	強いお酒とは知らずにおチビさんは	1996	27×37	作者
89	クウエンティン・ブレイク	すてきなミスター・フォックス	今度はミスター・フォックスが	1996	27×37	作者
90	クウエンティン・ブレイク	すてきなミスター・フォックス	さあ、祝宴だ	1996	27×37	作者
91	クウエンティン・ブレイク	すてきなミスター・フォックス	豪華な晩餐会	1996	27×37	作者
92	クウエンティン・ブレイク	冬の夢遊病者		1994	27×37	作者
93	クウエンティン・ブレイク	冬の夢遊病者		1994	27×37	作者
94	クウエンティン・ブレイク	冬の夢遊病者		1994	27×37	作者
95	クウエンティン・ブレイク	冬の夢遊病者		1994	27×37	作者
96	クウエンティン・ブレイク	冬の夢遊病者		1994	27×37	作者
97	クウエンティン・ブレイク	冬の夢遊病者		1994	27×37	作者
98	クウエンティン・ブレイク	クリスマスキャロル		1995	27×37	作者
99	クウエンティン・ブレイク	クリスマスキャロル		1995	27×37	作者
100	クウエンティン・ブレイク	クリスマスキャロル		1995	27×37	作者
101	クウエンティン・ブレイク	クリスマスキャロル		1995	27×37	作者
102	クウエンティン・ブレイク	クリスマスキャロル		1995	27×37	作者
103	ビクター・アンブラス	ボリスのお湯		1972	40×55	作者
104	ビクター・アンブラス	いなかの結婚式		1973	40×55	作者
105	ビクター・アンブラス	ピーターとおおかみ	ピーターは気にしませんでした	1986	33×25	作者
106	ビクター・アンブラス	ピーターとおおかみ	行列の先頭にピーターが	1986	27×42	作者



レイモンド・ブリッグ

ス「ゆきだるま」

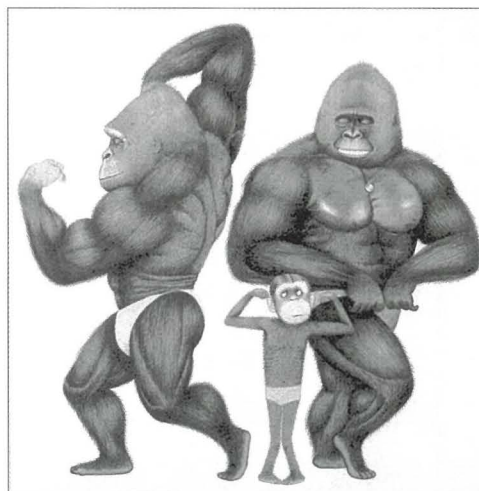


ビクター・アンブラス「ドラキュラ」

No.	作者名	作品名	制作年	寸法(cm)	所蔵
107	ビクター・アンブラス	ドラキュラ	1980	36×26	作者
108	ビクター・アンブラス	海賊、黒あごひげ	1982	41×28	作者
109	ビクター・アンブラス	いっばつで七ごろし	1980	39×52	作者
110	ビクター・アンブラス	バイオリンひきのミーシカ ライオンたちはすっかりおとなしくて	1975	38×54	作者
111	ビクター・アンブラス	バイオリンひきのミーシカ ミーシカはうまからおちて	1975	38×54	作者
112	ビクター・アンブラス	バイオリンひきのミーシカ バケツのみずをあたまから	1975	38×54	作者
113	ビクター・アンブラス	ビノキオ 表紙絵	1988	36×26	作者
114	ビクター・アンブラス	ビノキオ ビノキオは村へと走っていきました	1988	36×26	作者
115	ビクター・アンブラス	ビノキオ たすけて！死にたくないよ！	1988	36×26	作者
116	ビクター・アンブラス	ビノキオ どうしてぼくの名前がわかったの？	1988	36×26	作者
117	ビクター・アンブラス	ビノキオ 食事をして休んでいこう	1988	36×25	作者
118	ビクター・アンブラス	ビノキオ もし約束をまもるなら、きっと人間に	1988	36×26	作者
119	ビクター・アンブラス	ビノキオ おや？これはなんという魚かな？	1988	36×26	作者
120	ビクター・アンブラス	ビノキオ ロバはうしろ足で蹴りあげました	1988	36×25	作者
121	ビクター・アンブラス	ビノキオ 裏表紙絵	1988	36×26	作者
122	ビクター・アンブラス	エル・シッド 表紙絵	1989	34×58	作者
123	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×26	作者
124	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	36×26	作者
125	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
126	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
127	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
128	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
129	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
130	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
131	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
132	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
133	ビクター・アンブラス	エル・シッド	1989	37×25	作者
134	マイケル・フォアマン	マイケル・フォアマンの昔話集 マウイが釣った大きな魚（ニュージーランド）	1990	42×59	作者
135	マイケル・フォアマン	マイケル・フォアマンの昔話集 太陽が隠れた日（シッキム）	1990	41×50	作者
136	マイケル・フォアマン	マイケル・フォアマンの昔話集 巨人を倒したジャックの話（コンウォール）	1990	36×50	作者
137	マイケル・フォアマン	アイルランドの民話集	1986	41×30	作者
138	マイケル・フォアマン	眠りの森の美女とその他の昔話集 美女と野獣（フランス）	1982	38×29	作者
139	マイケル・フォアマン	眠りの森の美女とその他の昔話集 眠れる森の美女（ドイツ）	1982	38×29	作者
140	マイケル・フォアマン	かがやきの季節—インドの物語・神話・伝説—	1986	39×30	作者
141	マイケル・フォアマン	かがやきとその他の日本の伝説 桃太郎	1989	11×38	作者
142	マイケル・フォアマン	かがやきとその他の日本の伝説 因幡の白うさぎ	1989	10×34	作者
143	マイケル・フォアマン	かがやきとその他の日本の伝説 羅生門の鬼	1989	40×51	作者
144	マイケル・フォアマン	かがやきとその他の日本の伝説 俵 藤太	1989	41×54	作者
145	マイケル・フォアマン	かがやきとその他の日本の伝説 花さかじいさん	1989	40×51	作者
146	マイケル・フォアマン	かがかなでうた—アメリカン・インディアンの伝説— 表紙絵	1996	41×50	作者
147	マイケル・フォアマン	かがかなでうた—アメリカン・インディアンの伝説— その声は座っている岩から	1996	45×35	作者
148	マイケル・フォアマン	かがかなでうた—アメリカン・インディアンの伝説— なんと美しい	1996	44×35	作者
149	マイケル・フォアマン	かがかなでうた—アメリカン・インディアンの伝説— 男は熊に助けられて	1996	45×35	作者
150	マイケル・フォアマン	かがかなでうた—アメリカン・インディアンの伝説— 小さな子どもの泣き声でした	1996	41×50	作者
151	マイケル・フォアマン	ニョロロンとガラゴロン 蝶を追いかけて	1982	37×60	作者
152	マイケル・フォアマン	ニョロロンとガラゴロン しっぽでリズムをとりながら	1982	37×60	作者
153	マイケル・フォアマン	ちいさなトナカイ 窓からは煌々と灯りが	1996	40×50	作者
154	マイケル・フォアマン	ちいさなトナカイ ちびっこトナカイは一番大きな小屋に	1996	40×50	作者
155	マイケル・フォアマン	ピーターのおうち 表紙絵	1995	40×50	作者
156	マイケル・フォアマン	ピーターのおうち そこもピーターの	1995	40×50	作者
157	マイケル・フォアマン	おじいちゃんはいたる所に絵を	1992	38×51	作者
158	マイケル・フォアマン	アザラシは北極ぐまに追いかけられて	1992	40×49	作者
159	マイケル・フォアマン	ウォーボーイ クリスマスの夜	1989	38×54	作者
160	マイケル・フォアマン	ウォーボーイ ぼくのためにユニフォームのミニチュアを	1989	25×34	作者



チャールズ・キーピング
「パラダイス・アイランドはアダムのお気に入り」



アンソニー・ブラウン「よわむしウィリー」

No.	作者名	作品名	制作年	寸法(cm)	所蔵
161	マイケル・フォアマン	ウォーボーイ 戦争のおわり	1989	54×76	作者
162	マイケル・フォアマン	ピーターパンとウェンディー	1989	35×25	作者
163	マイケル・フォアマン	子どもの詩の園	1985	36×30	作者
164	マイケル・フォアマン	ポローニャ国際児童図書見本市ポスター	1996	50×41	作者
165	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ はやくなつにならんかねえ	1973	39×55	作者
166	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ じゃあねクロ	1973	39×55	作者
167	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ ひでえゆきだ！	1973	39×55	作者
168	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ えんとつなんてなけりやいいのに	1973	39×55	作者
169	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ ビービー	1973	40×55	作者
170	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ	1973	40×55	作者
171	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ ちえっ まったく	1973	40×55	作者
172	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ よーしよしははたがあがつとる	1973	40×55	作者
173	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ	1973	40×55	作者
174	レイモンド・ブリッグズ	さむがりのサンタ さっぱりしたくつした	1973	37×54	作者
175	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	39×30	ペンギン・ブックス
176	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
177	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
178	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
179	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
180	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
181	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
182	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×54	作者
183	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
184	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
185	レイモンド・ブリッグズ	雪だるま	1978	41×57	作者
186	レイモンド・ブリッグズ	くまさん	1994	36×52	作者
187	レイモンド・ブリッグズ	くまさん	1994	36×52	作者
188	レイモンド・ブリッグズ	くまさん うーん…ママ…。	1994	36×52	作者
189	レイモンド・ブリッグズ	くまさん しょうがないわね。	1994	36×52	作者
190	レイモンド・ブリッグズ	くまさん やったあ！	1994	36×52	作者
191	レイモンド・ブリッグズ	くまさん おきにいのりのシャンブーよ！	1994	36×52	作者
192	レイモンド・ブリッグズ	くまさん しょうがないくまさん	1994	36×52	作者
193	レイモンド・ブリッグズ	くまさん いいこと、くまさん	1994	36×52	作者
194	レイモンド・ブリッグズ	くまさん もう、でてきていいわよ	1994	36×52	作者
195	レイモンド・ブリッグズ	くまさん いちゃったの、いちゃったの！	1994	36×52	作者
196	アンソニー・ブラウン	よわむしウィリー ウィリーははえも殺さない	1984	31×30	作者
197	アンソニー・ブラウン	よわむしウィリー そしてジョギング	1984	30×30	作者
198	アンソニー・ブラウン	よわむしウィリー ちよっとはずかしいけどエアロビクスも	1984	31×31	作者
199	アンソニー・ブラウン	よわむしウィリー ボディビルにも通いました	1984	30×30	作者
200	アンソニー・ブラウン	よわむしウィリー もうよわむしじゃない！	1984	28×61	作者
201	アンソニー・ブラウン	よわむしウィリー 「ごめんなさい」ウィリーは言いました	1984	30×30	作者
202	アンソニー・ブラウン	ヘンゼルとグレーテル 食べるものは何もありませんでした	1981	42×34	作者
203	アンソニー・ブラウン	ヘンゼルとグレーテル 二人は継母の話を聞いてしまいました	1981	42×34	作者
204	アンソニー・ブラウン	ヘンゼルとグレーテル 小石を落としながら	1981	42×34	ジュリア・マクレア
205	アンソニー・ブラウン	ヘンゼルとグレーテル ヘンゼルは檻に閉じこめられました	1981	42×34	作者
206	アンソニー・ブラウン	トンネル 時々お兄ちゃんは妹を驚かせようと	1989	30×35	作者
207	アンソニー・ブラウン	トンネル こんな怖いところ来たくなかったわ	1989	30×35	作者
208	アンソニー・ブラウン	トンネル トンネルだ！出口はどうなっているんだろう	1989	31×36	作者
209	アンソニー・ブラウン	トンネル 怖くなって走りだしました	1989	31×60	作者
210	アンソニー・ブラウン	トンネル お兄ちゃんはおどろくと	1989	30×72	作者
211	アンソニー・ブラウン	かわるかわる	1990	40×35	作者
212	アンソニー・ブラウン	かわるかわる	1990	39×35	作者
213	アンソニー・ブラウン	かわるかわる	1990	40×35	作者
214	アンソニー・ブラウン	かわるかわる	1990	40×59	作者
215	アンソニー・ブラウン	かわるかわる	1990	40×35	作者
216	アンソニー・ブラウン	かわるかわる	1990	39×35	作者
217	アンソニー・ブラウン	どうぶつえん おとうさんはわつとしたようだった	1992	50×40	作者
218	アンソニー・ブラウン	どうぶつえん	1992	41×36	作者
219	アンソニー・ブラウン	どうぶつえん 北極ぐまはうろうろするだけ	1992	40×36	作者
220	アンソニー・ブラウン	どうぶつえん 声をかけてもガラスをたたいても	1992	40×34	作者
221	アンソニー・ブラウン	どうぶつえん オラウータンはうずくまって動かない	1992	41×35	作者
222	アンソニー・ブラウン	どうぶつえん 最後にゴリラを	1992	42×36	作者
223	アンソニー・ブラウン	すてきでゴリラ おとうさんったら、なにをするひまもないんだ	1983	31×37	作者
224	アンソニー・ブラウン	すてきでゴリラ ふたりしてなにかしてあそんだことなんて	1983	33×39	作者
225	アンソニー・ブラウン	すてきでゴリラ まよなかって、ふしぎなことが	1983	29×39	作者
226	アンソニー・ブラウン	すてきでゴリラ ゴリラは、おとうさんのぼうしをかぶり	1983	31×37	作者
227	アンソニー・ブラウン	すてきでゴリラ だけどなんだかなしそう	1983	26×33	作者
228	アンソニー・ブラウン	すてきでゴリラ いっしょにえいがをみた	1983	26×32	作者
229	アンソニー・ブラウン	すてきでゴリラ おなかがいっぱいだった	1983	26×33	作者

* 寸法は縦×横。

北海道美術の20世紀 I 北海道はどう描かれてきたか

会期＝5月22日(金)ー6月17日(水)

主催＝北海道立帯広美術館、十勝毎日新聞社

関連事業

特別展セミナー

「北海道美術とシンボリズム」

講師＝平 利弘（当館学芸員）

日時＝5月30日(土)、6月6日(土) 午後2時～3時

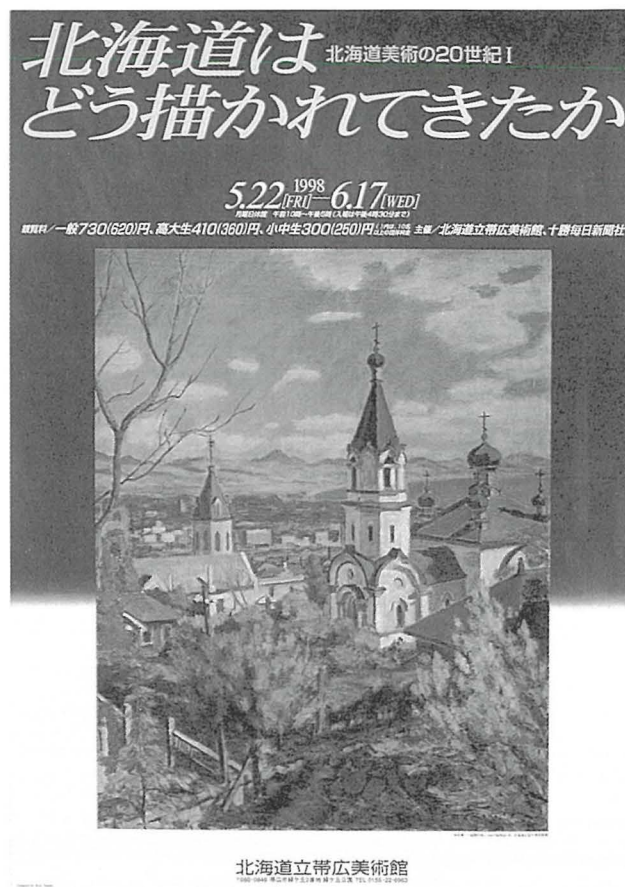
会場＝当館講堂

ミュージアム・ミステリー

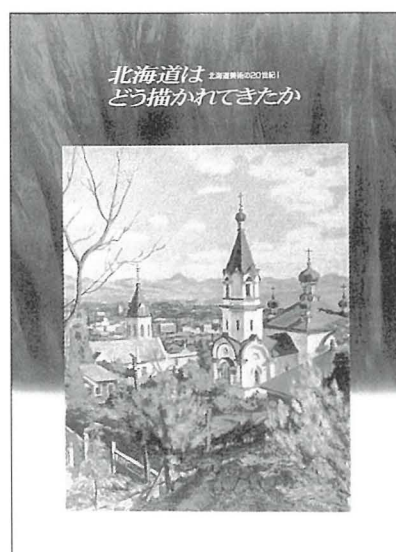
「発見！パノラマ・アート北海道」

日時＝6月13日(土) 午前10時～午後4時30分

会場＝当館講堂、ホール等



ポスター



図録

「北海道美術の20世紀」は、平成10年度より当館が新たに企画・開催したシリーズ展である。20世紀の歴史とともに豊かな歩みを続けてきた北海道美術のこれまでを、さまざまな切り口で検証し、展望しようとするものである。

シリーズ第1回となる今回は、歴史の積み重ねやメディアによって浸透してきた北海道のシンボルに注目し、北海道がどのように描かれてきたかを検証した。実際の展示は、田辺三重松や岩橋英遠をはじめ油彩、日本画、版画、彫刻の各分野から37作家73点で構成し、セクション「I 北海道のシンボル」では、栗谷川健一の観光ポスターを展示することで、シンボルが形成されるにあたって広告の分野が果たした役割に光を当て、一般に流布した

北海道のシンボルがどのようなものであったかを振り返った。その上で、セクション「II 北海道をシンボライズする情感」では、北海道を連想させる情感がシンボルの形成にどのように関わってきたかを「広大な空間」「爽風」「自然の豊かさ」「凜とした寒気」「冬を凌ぐ」「遅く生きる」「荒寥」「寂寥」「辺境の地」「自然の生命感」「精霊の地」といった、抽出される幾つかのキーワードによって括り、20世紀における北海道美術が示すシンボリズムのありようについて探究する内容となった。マスコミをはじめ識者の高い関心を集め、地域美術についてあらためてとらえなおす好機となった。



会場風景

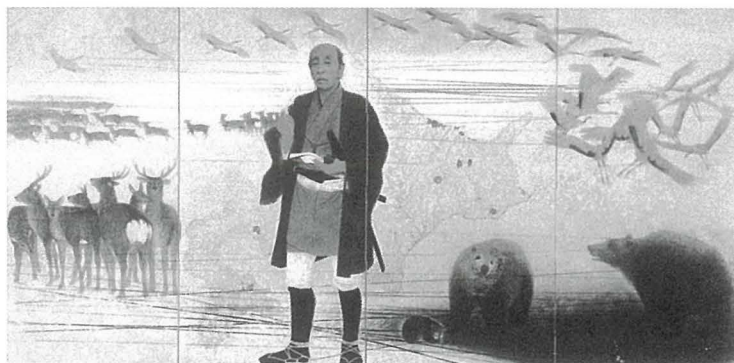


会場風景

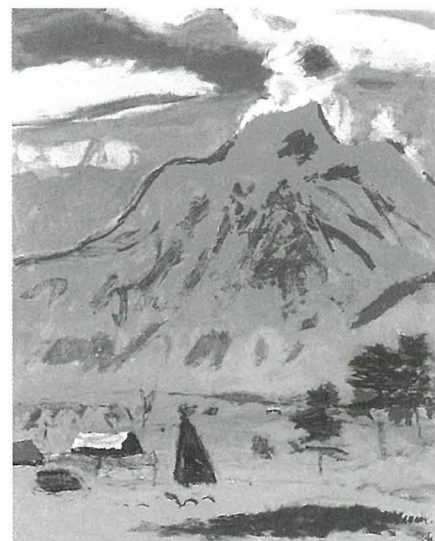
出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
I 北海道のシンボル						
1	栗谷川健一	牧場の鐘	1952 (昭和27)	オフセット・紙	103.2×73.0	北海道立帯広美術館
2	栗谷川健一	ムックリを鳴らすアイヌの娘	1953 (昭和28)	オフセット・紙	103.0×73.0	北海道立帯広美術館
3	栗谷川健一	湖水の葦	1955 (昭和30)	オフセット・紙	102.3×71.9	北海道立帯広美術館
4	栗谷川健一	サイロの夏	1956 (昭和31)	オフセット・紙	105.5×74.4	北海道立帯広美術館
5	栗谷川健一	タンネの斜面	1956 (昭和31)	オフセット・紙	102.0×74.0	北海道立帯広美術館
6	栗谷川健一	伝説の湖	1956 (昭和31)	オフセット・紙	101.3×71.3	北海道立帯広美術館
7	栗谷川健一	真夏の夢	1958 (昭和33)	オフセット・紙	104.1×73.2	北海道立帯広美術館
8	栗谷川健一	緑に歌う	1960 (昭和35)	オフセット・紙	103.3×73.2	北海道立帯広美術館
9	栗谷川健一	赤いエイレーキ	1961 (昭和36)	オフセット・紙	102.7×73.0	北海道立帯広美術館
10	栗谷川健一	家路	1962 (昭和37)	オフセット・紙	103.0×73.0	北海道立帯広美術館
11	栗谷川健一	スキーの源流	1965 (昭和40)	オフセット・紙	103.0×72.6	北海道立帯広美術館
12	栗谷川健一	麦わら帽子	1968 (昭和43)	オフセット・紙	103.1×73.1	北海道立帯広美術館
II 北海道をシンボライズする情感						
13	岩橋英遠	憂北の人	1970~79年 (昭和45~54)	紙本彩色・屏風 (4曲1隻)	180.5×368.0	北海道立近代美術館
<広大な空間>						
14	坂本直行	十勝大平原と日高連峰	1960 (昭和35)	油彩・キャンバス	78.0×154.2	帯広百年記念館
15	竹山義雄	川畔秋草	1979 (昭和54)	油彩・キャンバス	145.5×112.2	北海道立帯広美術館
16	田辺三重松	雪の狩勝峠	1939 (昭和14)	油彩・キャンバス	130.3×162.1	北海道立近代美術館
17	長尾栄三	晩秋の高原	1979 (昭和54)	油彩・キャンバス	130.3×162.1	長尾フミ子氏
18	羽生 輝	北の岬 (知床)	1989 (平成元)	彩色・板・額	181.7×227.5	北海道立近代美術館
19	林竹治郎	積丹風景	1925 (大正14)	油彩・キャンバス	61.0×151.5	北海道立近代美術館
<爽風>						
20	阿部貞夫	羊群	1967 (昭和42)	木版・紙	25.9× 22.0	北海道立近代美術館
21	池谷寅一	函館の秋	1947 (昭和22)	油彩・キャンバス	116.7× 90.0	北海道立近代美術館
22	上野春香	札幌郊外の初秋	1968 (昭和43)	油彩・キャンバス	60.6× 72.7	北海道立近代美術館
23	岡部文之助	緑牧舎	1954 (昭和29)	油彩・キャンバス	72.6× 90.7	北海道立近代美術館
24	小林満枝	湖畔のはまなす	1967 (昭和42)	紙本彩色・額	90.0×115.3	帯広市図書館

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
25	田辺三重松	大沼公園の秋	1934 (昭和9)	油彩・キャンバス	112.1×162.1	北海道立近代美術館
<自然の豊かさ>						
26	阿部貞夫	樹海	1966 (昭和41)	木版・紙	52.0× 72.7	北海道立近代美術館
27	阿部貞夫	中山峠の羊蹄	1967 (昭和42)	木版・紙	31.4× 40.3	北海道立近代美術館
28	伊藤一雄	春の昭和山	1970 (昭和45)	木版・紙	28.3× 39.0	北海道立近代美術館
29	佐藤道雄	夏の丘	1995 (平成7)	油彩・キャンバス	162.1×162.1	北海道立旭川美術館
30	竹山義雄	早春山野	1978 (昭和53)	油彩・キャンバス	130.6×162.0	北海道立帯広美術館
31	能勢真美	疎林初秋	1967 (昭和42)	油彩・キャンバス	97.0×162.0	北海道立帯広美術館
<凜とした寒気>						
32	阿部貞夫	霧水の街	1964 (昭和39)	木版・紙	40.7× 53.0	北海道立近代美術館
33	伊藤一雄	冬樹	1977 (昭和52)	木版・紙	34.5× 43.5	北海道立近代美術館
34	伊藤一雄	流水	1982 (昭和57)	木版・紙	35.5× 43.0	北海道立近代美術館
35	北岡文雄	冬の支笏湖	1971 (昭和46)	木版・紙	47.8× 63.6	北海道立近代美術館
36	本間莞彩	夕陽の北海	1957 (昭和32)	紙本彩色・額	182.5×156.4	北海道立近代美術館
<冬を凌ぐ>						
37	岩橋英遠	陸軍記念日の村の小学校	1928 (昭和3)	紙本彩色・額	136.4×151.5	北海道立近代美術館
38	金子誠治	ひるさがり	1941 (昭和16)	木版・紙	47.6× 61.0	北海道立近代美術館
39	金子誠治	雪の岡	1943 (昭和18)	木版・紙	62.5× 43.5	北海道立近代美術館
40	兼平英示	スキーの少女	1938 (昭和13)	油彩・キャンバス	145.5×112.1	北海道立近代美術館
41	福井正治	北方村落A	1983 (昭和58)	油彩・キャンバス	162.5×162.5	北海道立近代美術館
42	本間莞彩	陸橋	1948 (昭和23)	紙本彩色・額	87.5×118.5	北海道立近代美術館
<遅く生きる>						
43	阿部貞夫	下曳	1967 (昭和42)	木版・紙	18.9× 25.3	北海道立近代美術館
44	一木万寿三	客土	1960 (昭和35)	油彩・キャンバス	130.3× 97.3	北海道立近代美術館
45	北岡文雄	昆布を運ぶ女	1959 (昭和34)	木版・彩色・紙	13.5× 9.0	北海道立近代美術館
46	北岡文雄	鮭網	1960 (昭和35)	木版・紙	18.5× 26.5	北海道立近代美術館
47	山田義夫	畑の構図	1941 (昭和16)	油彩・キャンバス	91.0×117.0	北海道立旭川美術館
<荒寥>						
48	伊藤 正	牧場早春	1953 (昭和28)	油彩・キャンバス	90.9×116.5	北海道立近代美術館
49	尾崎志郎	赤い工場B	1974 (昭和49)	木版・紙	44.5× 89.5	北海道立近代美術館
50	尾崎志郎	秋陽漁家	1976 (昭和51)	木版・紙	45.0× 89.5	北海道立近代美術館
51	北岡文雄	厚田海岸	1975 (昭和50)	木版・紙	39.8× 55.0	北海道立近代美術館
<寂寥>						
52	北岡文雄	凍る河	1971 (昭和46)	木版・紙	47.8× 63.6	北海道立近代美術館
53	北岡文雄	北辺の風景	1978 (昭和53)	木版・紙	23.0× 30.5	北海道立近代美術館
54	西條正一	石狩 (夕陽)	1979 (昭和54)	紙本彩色・額	72.2× 89.8	北海道立近代美術館
55	田中 良	厳冬の浜辺	1982 (昭和57)	油彩・キャンバス	129.0×193.0	北海道立近代美術館
56	堀井象頭	望北	1971 (昭和46)	紙本彩色・額	155.0×217.7	北海道立近代美術館
57	宮川 魏	冬の道	1983 (昭和58)	油彩・キャンバス	130.3×193.0	北海道立近代美術館
<辺境の地>						
58	居串佳一	朝霧 (北方)	1944 (昭和19)	油彩・キャンバス	72.7×116.7	北海道立近代美術館
59	鶴川五郎	沼の畔	1977 (昭和52)	油彩・キャンバス	162.0×130.0	北海道立近代美術館
60	米坂ヒデノリ	呼ぶ	1961 (昭和36)	木	高さ127.0	北海道立近代美術館
61	米坂ヒデノリ	国境	1970 (昭和45)	木	高さ107.0	北海道立近代美術館



岩橋英遠「憂北の人」



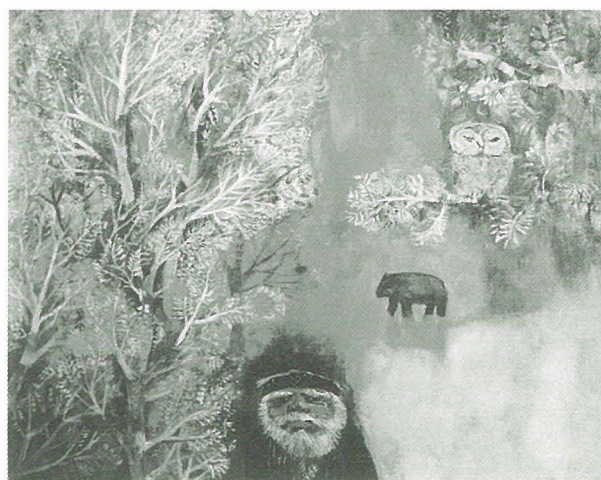
田辺三重松「昭和山」

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
<自然の生命感>						
62	岩橋英遠	誌 (一)、(二)	1982 (昭和57)	紙本彩色・額	各182.0×121.0	北海道立近代美術館
63	北岡文雄	風土連作・流木	1985 (昭和60)	木版・紙	198.0× 49.0	北海道立近代美術館
64	北岡文雄	風土連作・氷雪	1985 (昭和60)	木版・紙	198.0× 49.0	北海道立近代美術館
65	小林満枝	鎮魂	1978 (昭和53)	紙本彩色・額	112.0×161.8	とかちプラザ
66	田辺三重松	昭和新山	1971 (昭和46)	油彩・キャンバス	91.0× 72.8	北海道立近代美術館
67	艾沢詳子	Woods I	1991 (平成3)	銅版・紙	98.0× 36.0	北海道立近代美術館
<精霊の地>						
68	阿部貞夫	セトナの祈り	1957 (昭和32)	木版・紙	29.8× 35.8	北海道立近代美術館
69	岩船修三	アイヌ・カムイユーカーラ (神話)	1971 (昭和46)	油彩・キャンバス	72.7× 90.7	北海道立近代美術館
70	川井 坦	雪ふる頃 (ユーカーラ)	1972 (昭和47)	麻布彩色・額	130.8×161.7	北海道立近代美術館
71	国松 登	鳥の道	1983 (昭和58)	油彩・キャンバス	227.3×181.8	北海道立近代美術館
72	手島圭三郎	しまふくろうの夢・古木	1982 (昭和57)	木版・紙	53.0× 75.0	北海道立帯広美術館
73	手島圭三郎	ふくろうの木	1982 (昭和57)	木版・紙	53.0× 75.0	北海道立近代美術館

* 寸法は立体作品以外は縦×横。



北岡文雄「冬の支笏湖」



岩船修三「アイヌ・カムイユーカーラ (神話)」

明治の浮世絵版画

会期＝平成10年6月26日(金)～7月22日(水)
主催＝北海道立帯広美術館、北海道新聞社

関連事業

美術講演会

「明治版画の諸相」

講師＝河野 実氏（町田市立国際版画美術館学芸係長）

日時＝7月11日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

特別展セミナー

「明治浮世絵の変遷——小林清親を中心に」

講師＝鎌田 享（当館学芸員）

日時＝7月4日(土)、7月18日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂

横浜開港、明治維新、文明開化など、幕末から明治にかけては日本の歴史上屈指の変動の時代といえる。徳川幕府の支配は終わりを告げ、明治新政府がたてられた。以後、政治・経済・社会のあらゆる面で変革がなされ、日本は近代国家として歩み始める。

こうした中、江戸以来の伝統を持つ浮世絵も新時代への対応を迫られた。江戸時代、浮世絵は時代の風俗や風景を描きそれを人々に伝える印刷メディアとして発展した。幕末明治の激動の中にあって、浮世絵は時代の風潮を映しながら新たな画題を描き伝えていく。しかし、その役割は次第に銅版画や石版画、といった西洋の技術に取って替わられていった。一方、開国により本格的に紹介されるようになった西洋絵画は、日本の美術に変革をもたらした。浮世絵もまた、西洋美術の影響を受けながら新たな表現を模索し、やがてその表現は版画や日本画といった「近代の美術」に引き継がれていく。明治時代、浮世絵版画は印刷と美術との狭間で変遷を繰り返しながら、やがて姿を消していったといえる。

本展では、激動の世にあるいは伝統を保持し、あるいは新たな展開を求めてさまざまな変遷を遂げた浮世絵版画の世界を検証した。国内の7つの美術館・博物館より借用した浮世絵版画127点を、その性格および制作年代に基づいて4つのコーナーに分けて紹介。「Ⅰ文明開化—主題の拡大」では、幕末明治初頭という激動の時代に起こった諸事件をいち早く伝えた横浜絵や開化絵、時事報道画などを中心に構成し、この時期に制作された浮世絵版画の多様性を示した。続く「Ⅱ清親と芳年—新たな表現の試行」では、明治期の浮世絵版画界にあって西洋絵画の表現要素を摂取すべく積極的な制作活動を行った小林清親や月岡芳年らの作品を、「Ⅲ江戸の余風—引き継がれた様式美」では、江戸時代の浮世絵の表現を踏襲しながら新時代の浮世絵の在り方を模索し続けた豊原国周や楊洲周延らの作品を紹介。そして「Ⅳ明治後期の諸相—浮世絵の残像と継承」では、明治後期に制作された清新な美人風俗画や雑誌口絵、外国人絵師の作品などによって、浮世絵版画の表現がいかに近代の日本画や版画に受継がれていったかを示唆した。



ポスター



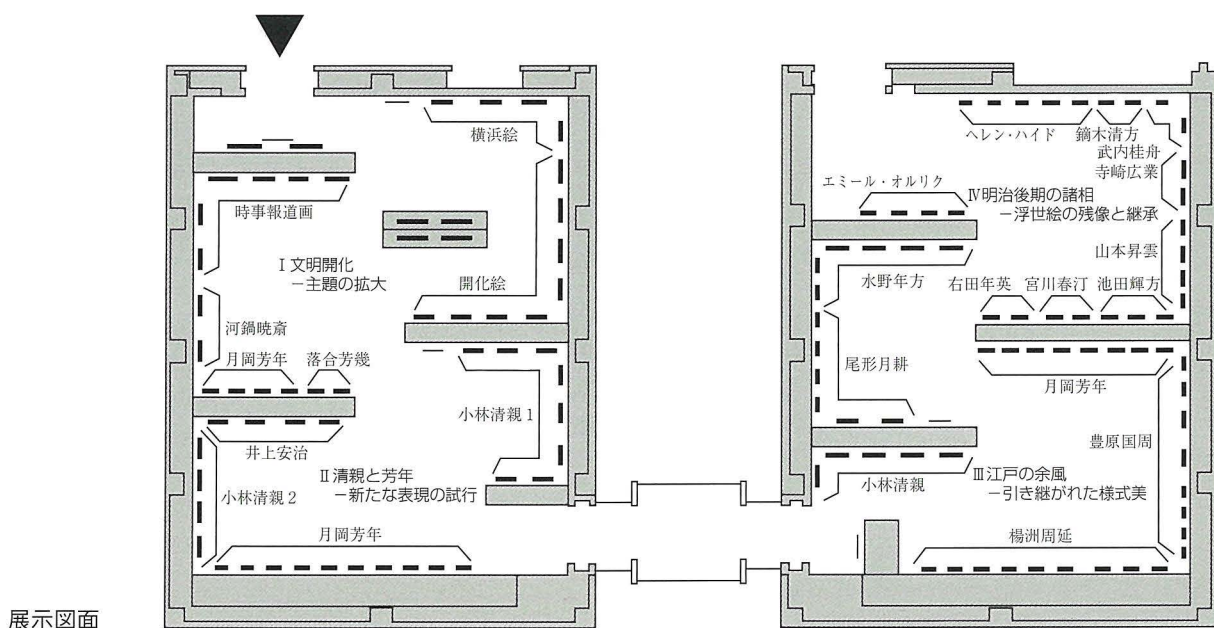
図録



会場風景



会場風景



展示図面

出品目録

I 文明開化 - 主題の拡大

No.	作者名	作品名	年代	版型	所蔵
1	歌川貞秀	神名川横浜新開港図	万延元 (1860)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
2	歌川貞秀	横浜本町景港崎街新廓	万延元 (1860)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
3	歌川貞秀	横浜交易西洋人荷物運送之図	文久元 (1861)	縦大判錦絵横 5 枚続	神奈川県立歴史博物館
4	歌川貞秀	再改横浜風景	文久元 (1861)	縦大判錦絵横 6 枚続	神奈川県立歴史博物館
5	二代歌川広重	神奈川野毛横浜 横浜風景一覽	文久元 (1861)	縦大判錦絵横 6 枚続	神奈川県立歴史博物館
6	歌川貞秀	横浜鉄橋之図	明治 3 (1870)	縦大判錦絵横 6 枚続	神奈川県立歴史博物館
7	三代歌川広重	横浜海岸各国商館図	明治 4 (1871)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
8	二代歌川国輝	横浜仏国役館之全図	明治 5 (1872)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
9	歌川芳虎	新吉原金瓶楼図	明治 2 (1869)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
10	二代歌川国輝	東京名所 海運橋五階造真図	明治 6 (1873)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
11	三代歌川広重	東京名所之内 新橋ステーション蒸気車鉄道図	明治 6 (1873)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
12	三代歌川広重	東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図	明治 7 (1874)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
13	三代歌川広重	東京第一名所 永代橋之真景	明治 8 (1875)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
14	三代歌川広重	築地海軍省於練練場ニ風船御試之図	明治 10 (1877)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
15	三代歌川広重	東京名所第一之勝景墨水堤花盛之図	明治 14 (1881)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
16	三代歌川広重	東京名所浅草釣橋鉄道馬車往復之図	明治 17 (1884)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
17	月岡芳年	薩州鹿児島嶋記之内 賊徒之女隊勇戦之図	明治 10 (1877)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
18	月岡芳年	西郷隆盛切腹図	明治 10 (1877)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
19	豊原国周	皇后の宮御歩行ノ図	明治 10 (1877)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館

20	楊洲周延	隅田川花の遊覧	明治20 (1887)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
21	歌川国利	憲法御発布式祝祭之景況并ニ式重橋御成行行列之図	明治22 (1889)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
22	楊洲周延	勧業博覧会館内一覽之図	明治23 (1889)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
23	月岡芳年	和漢百物語 渡辺源治綱	慶応元 (1865)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
24	月岡芳年	和漢百物語 頓欲ノ婆々	慶応元 (1865)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
25	落合芳幾	俳優写真鏡 仁木弾正 尾上菊五郎	慶応3 (1867)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
26	落合芳幾	俳優写真鏡 白拍子花子 中村芝翫	慶応3 (1867)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
27	月岡芳年	魁題百撰相 駒木根八兵衛	慶応4 (1868)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
28	月岡芳年	魁題百撰相 鳥居彦右エ門元忠		縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
29	河鍋曉斎	曉斎楽画 第一号 地獄の文明開化	明治7 (1874)	縦大判錦絵	町河鍋曉斎記念美術館
30	河鍋曉斎	曉斎楽画 第三号 化々学校	明治7 (1874)	縦大判錦絵	個人蔵
31	河鍋曉斎	曉斎楽画 第五号 不動明王開化	明治7 (1874)	縦大判錦絵	町河鍋曉斎記念美術館
32	河鍋曉斎	名鏡倭魂 新板	明治7 (1874)	縦大判錦絵横 3 枚続	町河鍋曉斎記念美術館

II 清親と芳年一新たな表現の試行

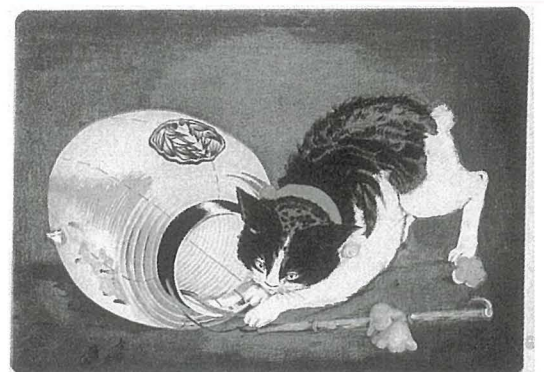
No.	作者名	作品名	年代	版型	所蔵
33	小林清親	東京小梅曳船夜図	明治9 (1876)	横大判錦絵	町田市立国際版画美術館
34	小林清親	東京新大橋雨中図	明治9 (1876)	横大判錦絵	町田市立国際版画美術館
35	小林清親	梅若神社	明治10 (1877)	横大判錦絵	町田市立国際版画美術館
36	小林清親	千はんくいの両国橋	明治13 (1880)	横大判錦絵	町田市立国際版画美術館
37	小林清親	天王寺下夜川	明治13 (1880)	横大判錦絵	町田市立国際版画美術館
38	小林清親	隅田川夜	明治14 (1881)	横大判錦絵	町田市立国際版画美術館
39	小林清親	池の端花火	明治14 (1881)	横大判錦絵	町田市立国際版画美術館
40	小林清親	明治十四年二月十一日夜大火久松町二面見る出火	明治14 (1881)	横大判錦絵	町田市立国際版画美術館
41	井上安治	浅草橋夕景	明治13 (1880)	横大判錦絵	横浜美術館
42	井上安治	蠅殻町川岸の図	明治14 (1881)	横大判錦絵	横浜美術館
43	井上安治	浅草橋雨中之景	明治14 (1881)	横大判錦絵	横浜美術館
44	井上安治	銀座商店夜景	明治15 (1882)	横大判錦絵	横浜美術館
45	小林清親	猫と提燈	明治10 (1877)	横特大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
46	小林清親	鴨に枯蓮	明治12 (1879)	横大判錦絵	横浜美術館
47	小林清親	狐に三日月	明治13 (1880)	横大判錦絵	横浜美術館
48	小林清親	鶏にトンボ	明治13 (1880)	横大判錦絵	横浜美術館
49	月岡芳年	東名所隅田川梅若之古事	明治16 (1883)	縦大判錦絵横 3 枚続	横浜美術館
50	月岡芳年	藤原保昌月下弄笛図	明治16 (1883)	縦大判錦絵横 3 枚続	横浜美術館
51	月岡芳年	奥州安達ヶ原ひとつ家の図	明治18 (1885)	縦大判錦絵横 2 枚続	横浜美術館
52	月岡芳年	田舎原氏	明治18 (1885)	縦大判錦絵横 2 枚続	横浜美術館
53	月岡芳年	つきの百姿 大物海上月弁慶	明治19 (1886)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
54	月岡芳年	月百姿 玉兎 孫悟空	明治22 (1889)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
55	月岡芳年	月百姿 孤家月	明治23 (1890)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
56	月岡芳年	月百姿 むさしの月	明治24 (1891)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
57	月岡芳年	新形三十六怪撰 老婆鬼腕を持去る図	明治22 (1889)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
58	月岡芳年	新形三十六怪撰 皿やしき於菊の霊	明治23 (1890)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館

III 江戸の余風—引き継がれた様式美

No.	作者名	作品名	年代	版型	所蔵
59	月岡芳年	美人七陽華 正五位西洞院成子	明治11 (1878)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
60	月岡芳年	美人七陽華 従四位高倉壽子	明治11 (1878)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
61	豊原国周	開花人情鏡 写真	明治11 (1878)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
62	豊原国周	開花人情鏡 勉強	明治11 (1878)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
63	月岡芳年	新柳二十四時 午前三時	明治13 (1880)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
64	月岡芳年	新柳二十四時 午前十時	明治13 (1880)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
65	月岡芳年	東京自慢十二ヶ月 六月 入谷の朝兒 新ばし 福助	明治13 (1880)	縦大判錦絵	平木浮世絵美術館
66	月岡芳年	東京自慢十二ヶ月 七月 廊の燈籠 仲の街 小とみ	明治13 (1880)	縦大判錦絵	平木浮世絵美術館
67	小林清親	武蔵百景之内 水道橋 茶の水	明治17 (1884)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
68	小林清親	武蔵百景之内 両国花火	明治17 (1884)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
69	小林清親	武蔵百景之内 亀井戸天満宮	明治17 (1884)	縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館
70	小林清親	武蔵百景之内 赤坂きり畑山王うら山		縦大判錦絵	神奈川県立歴史博物館



歌川貞秀「神名川横浜新開港図」



小林清親「猫と提燈」

71	月岡芳年	風俗三十二相 けむさう 享和年間宝之風俗	明治21 (1888)	縦大判錦絵	横浜美術館
72	月岡芳年	風俗三十二相 めがさめさう 弘化年間むすめの風俗	明治21 (1888)	縦大判錦絵	横浜美術館
73	楊洲周延	江戸風俗十二ヶ月之内 八月 月見之宴	明治22 (1889)	縦大判錦絵横 3 枚続	平木浮世絵美術館
74	楊洲周延	江戸風俗十二ヶ月之内 十一月 猿若町顔見世積物の図	明治22 (1889)	縦大判錦絵横 3 枚続	平木浮世絵美術館
75	豊原国周	見立昼夜廿四時之内 午后一時	明治23 (1890)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
76	豊原国周	見立昼夜廿四時之内 午后八時	明治24 (1891)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
77	豊原国周	梅幸百種之内 六十六 明智光秀	明治26 (1893)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
78	豊原国周	梅幸百種之内 七十一 英人スペンサー	明治27 (1894)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
79	豊原国周	市川団十郎演芸百番 二 矢の根五郎	明治26 (1893)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
80	豊原国周	市川団十郎演芸百番 平知盛	明治31 (1888)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
81	小林清親	花模様 延宝頃		縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
82	小林清親	花模様 安永頃	明治29 (1896)	縦大判錦絵横 3 枚続	神奈川県立歴史博物館
83	楊洲周延	時代かがみ 慶長の頃	明治29 (1896)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
84	楊洲周延	時代かがみ 明治 憲法発布	明治30 (1897)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
85	楊洲周延	真美人 二 (琴)	明治30 (1897)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
86	楊洲周延	真美人 十四 (パラソル)	明治30 (1897)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
87	楊洲周延	雪月花 はな	明治31 (1898)	縦大判錦絵	平木浮世絵美術館
88	楊洲周延	雪月花 雪 別荘	明治32 (1899)	縦大判錦絵	平木浮世絵美術館
89	楊洲周延	雪月花 水面の月	明治34 (1901)	縦大判錦絵	平木浮世絵美術館

IV 明治後期の諸相—浮世絵の残像と継承

No.	作者名	作品名	年代	版型／寸法 (cm)	所蔵
90	尾形月耕	婦人風俗尽 つぼね下り	明治24 (1891)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
91	尾形月耕	婦人風俗尽 亀井戸 藤	明治24 (1891)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
92	水野年方	三井好 都のにしき 二 春一若草摘		横大判錦絵	太田記念美術館
93	水野年方	三井好 都のにしき 六 秋一外出		横大判錦絵	太田記念美術館
94	水野年方	三十六佳撰 遊君 元和の婦人	明治26 (1893)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
95	水野年方	三十六佳撰 花見 文政の婦人	明治26 (1893)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
96	右田年英	英雄三十六歌撰 加藤清正	明治26 (1893)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
97	右田年英	英雄三十六歌撰 上杉謙信	明治26 (1893)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
98	尾形月耕	花美人名所合 亀戸龍眼寺の萩	明治28 (1895)	縦大判錦絵横 3 枚続	太田記念美術館
99	尾形月耕	花美人名所合 滝の川の紅葉	明治29 (1896)	縦大判錦絵横 3 枚続	太田記念美術館
100	尾形月耕	美人花鏡 藤娘		縦大判錦絵	平木浮世絵美術館
101	尾形月耕	美人花鏡 蘭	明治31 (1898)	縦大判錦絵	平木浮世絵美術館
102	宮川春汀	風俗通 さくら	明治30 (1897)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
103	宮川春汀	風俗通 銀世界	明治30 (1897)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
104	水野年方	今様美人 四 藤なみ	明治32 (1899)	横大判錦絵	平木浮世絵美術館
105	水野年方	今様美人 十二 雪見	明治32 (1899)	横大判錦絵	平木浮世絵美術館
106	池田輝方	江戸の錦 散さくら	明治36 (1903)	横大判錦絵	平木浮世絵美術館
107	池田輝方	江戸の錦 はなの日	明治36 (1903)	横大判錦絵	平木浮世絵美術館
108	池田輝方	江戸の錦 紅葉狩	明治36 (1903)	横大判錦絵	平木浮世絵美術館
109	山本昇雲	四季のなかめ 御ひな様	明治39 (1906)	横大判錦絵	平木浮世絵美術館
110	山本昇雲	四季のなかめ 虫の聲	明治39 (1906)	横大判錦絵	平木浮世絵美術館
111	山本昇雲	いますगत 花のさと		縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
112	山本昇雲	今すがた すずしの顔	明治42 (1909)	縦大判錦絵	町田市立国際版画美術館
113	武内桂舟	金屏風の前	明治30年代	木版画 (雑誌口絵) / 30.9×22.0	山種美術館
114	武内桂舟	初秋	明治30年代	木版画 (雑誌口絵) / 29.4×22.4	山種美術館
115	寺崎広業	秋草	明治30年代	木版画 (雑誌口絵) / 28.5×21.7	山種美術館
116	寺崎広業	桜花姉妹	明治30年代	木版画 (雑誌口絵) / 21.9×28.1	山種美術館
117	鏑木清方	想い	明治30年代	木版画 (雑誌口絵) / 29.6×21.9	山種美術館
118	鏑木清方	池畔	明治40 (1907)	木版画 (雑誌口絵) / 29.2×22.0	山種美術館
119	エミール・オルリク	日本の手品師	明治33 (1900)	木版画 / 18.5×15.3	横浜美術館
120	エミール・オルリク	日本の絵師	明治34 (1901)	木版画 / 19.6×15.9	横浜美術館
121	エミール・オルリク	日本の摺師	明治34 (1901)	木版画 / 19.6×15.9	横浜美術館
122	エミール・オルリク	京都の寺の庭	明治34 (1901)	木版画 / 12.5×18.6	横浜美術館
123	ヘレン・ハイド	冬	明治34 (1901)	木版画 / 18.6×37.8	横浜美術館
124	ヘレン・ハイド	竹垣	明治37 (1904)	木版画 / 13.1×28.7	横浜美術館
125	ヘレン・ハイド	達磨をからかう	明治38 (1905)	木版画 / 13.9×23.8	横浜美術館
126	ヘレン・ハイド	かたこと	明治41 (1908)	木版画 / 28.8×46.4	横浜美術館
127	ヘレン・ハイド	お祭りへ	明治43 (1910)	木版画 / 19.7×48.4	横浜美術館

* 出品作品のうち、No.29、31は前期（6月26日～7月12日）、No.30、32は後期（7月14日～7月26日）のみ展示。



池田輝方「江戸の錦 はなの日」



ヘレン・ハイド「かたこと」

箱根・芦ノ湖 成川美術館所蔵 現代日本画名品展

会期＝平成10年7月31日(金)～8月26日(水)

主催＝北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、十勝毎日新聞社、現代日本画名品展実行委員会

後援＝十勝町村会、十勝教育局、十勝管内各町村教育委員会、帯広商工会議所、十勝文化団体協議会、十勝文化会議、北海道高等学校長協会十勝支部、十勝小中校長会、帯広市校長会、十勝教育研究所、帯広市PTA連合会、帯広市町内会連絡協議会、財団法人帯広市文化スポーツ振興財団、とかちカルチャーネット、帯広市民劇場運営委員会、帯広シティーケーブル、FA-JAGA

協力＝箱根・芦ノ湖 成川美術館

関連事業

美術講演会

「現代日本画の歩みと特色」

講師＝村木明氏（美術評論家）

日時＝8月1日(土) 午後2時～3時30分

会場＝当館講堂

美術講演会

「我が道を行く」

講師＝関口雄揮氏（画家）

日時＝8月8日(土) 午後2時～3時30分

会場＝当館講堂

土曜映写室

「日本画の伝統と変革」「日本の美－日本人の原風景」

日時＝8月15日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂



ポスター



図録

1988年に開館した成川美術館は、霊峰富士を眺望する景勝地、箱根の芦ノ湖畔に位置する白壁の美術館である。現代の日本画を幅広く収集、四季を通じてそのコレクションを公開し、また多彩な企画展を開催している。この展覧会では、1,500点にのぼる同館の所蔵品の中から最も代表な作品が北海道で初めて紹介された。

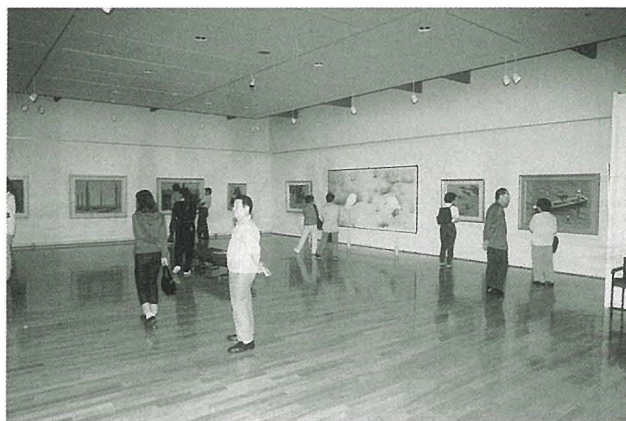
戦前から今日に至る日本画はかつてない変貌を遂げてきた。テーマやモチーフの多様化、技法や表現様式の変容、あるいは時代の潮流や画壇の動向の反映など、伝統と革新のはざまで大きな振幅を見せながら、多彩な絵画作品を生み出してきた軌跡をたど

ることができる。

本展では、杉山寧、高山辰雄、平山郁夫など時代をリードした巨匠から第一線で活躍する注目の作家まで、32作家72点の作品により、個性が饗宴する現代日本画の世界を一望した。石本正の8点、山本丘人の12点などまとまった展示となった作家のコーナーや帯広とも縁の深い関口雄揮の大作の前などで熱心に鑑賞する数多くの市民の姿が会期末まで見受けられ、7,692人の来場者でにぎわった。



会場風景



会場風景

出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)
1	麻田鷹司	横尾	1967 (昭和42)	145.0×112.0
2	麻田辨白	花菖蒲	1970 (昭和45)	73.5× 91.5
3	石本 正	舞妓	1974 (昭和49)	96.5× 65.0
4	石本 正	脱衣の人	1976 (昭和51)	96.0× 67.0
5	石本 正	朱唇	1979 (昭和54)	59.7× 96.0
6	石本 正	雨音	1979 (昭和54)	80.5× 97.5
7	石本 正	ひるさがり	1979 (昭和54)	60.0× 95.5
8	石本 正	女心	1979 (昭和54)	97.0× 67.0
9	石本 正	装	1979 (昭和54)	96.5× 73.5
10	石本 正	祇園の姉妹	1979 (昭和54)	143.5× 95.7
11	牛尾 武	深響	1995 (平成 7)	116.7× 90.9
12	牛尾 武	遅日	1995 (平成 7)	116.7× 90.9
13	大森運夫	阿波人形・お染	1990 (平成 2)	116.5× 72.7
14	大森運夫	阿波人形・伊達娘	1990 (平成 2)	116.5× 91.0
15	岡崎忠雄	菖蒲	1996 (平成 8)	116.7× 90.9
16	岡崎忠雄	罌粟	1996 (平成 8)	116.7× 90.9
17	小笠原元	峠の春	1993 (平成 5)	162.1×120.5
18	加倉井和夫	禽	1971 (昭和46)	98.5×146.7
19	加藤栄三	鵜飼	1970 (昭和45)	91.3× 65.1
20	加山又造	白い嶺	1985 (昭和60)	41.0× 55.0
21	倉島重友	霧野	1987 (昭和62)	170.5×215.0
22	小泉淳作	佐渡の海	1990 (平成 2)	122.0×400.0
23	小林 済	山頂涼風	1988 (昭和63)	122.2×171.3
24	小林 済	桃の花咲く	1993 (平成 5)	90.9×116.7
25	近藤弘明	幻秋 (秋の七草)	1989 (平成元)	147.5×272.0
26	杉山 寧	羊	1964 (昭和39)	42.0× 60.5
27	杉山 寧	和	1971 (昭和46)	97.2× 50.5
28	関口雄揮	凍	1989 (平成元)	176.0×480.0
29	関口雄揮	防風林	1994 (平成 6)	164.0×222.0
30	関口雄揮	北の道	1995 (平成 7)	224.0×170.0
31	高山辰雄	月湖	1974 (昭和49)	80.3×116.7
32	高山辰雄	緑の季	1976 (昭和51)	90.9×116.7
33	高山辰雄	花と	1978 (昭和53)	80.0×100.0

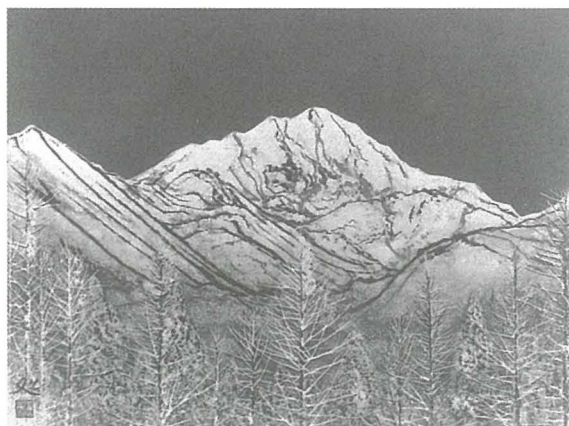
No.	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)
34	滝沢具幸	野の人・Ⅰ	1990 (平成2)	129.5×161.8
35	滝沢具幸	野の人・Ⅱ	1990 (平成2)	129.5×161.8
36	竹内浩一	野の鈴	1987 (昭和62)	184.0×217.0
37	田淵俊夫	深閑	1984 (昭和59)	116.5× 91.0
38	田淵俊夫	天山	1992 (平成4)	145.5×112.0
39	田淵俊夫	刻	1993 (平成5)	165.0×338.0
40	内藤五郎	雪気	1994 (平成6)	89.3×130.3
41	中野嘉之	桜島	1997 (平成9)	97.0×162.1
42	稗田一穂	月光	1986 (昭和61)	151.0×218.0
43	稗田一穂	富士の見える駅	1994 (平成6)	92.2×116.6
44	平松礼二	路—西湖にて	1989 (平成元)	210.0×480.0
45	平山郁夫	バーミアンの大石仏	1968 (昭和43)	91.2× 60.5
46	平山郁夫	アラブの母子	1971 (昭和46)	65.0× 50.0
47	平山郁夫	オリエントの曙	1971 (昭和46)	89.4×130.3
48	平山郁夫	ベルセボリスの遺跡	1974 (昭和49)	96.5×130.0
49	福井爽人	樹下	1987 (昭和62)	172.0×215.0
50	堀 泰明	夏の宵・Ⅰ	1989 (平成元)	168.0×184.5
51	堀 泰明	夏の宵・Ⅱ	1989 (平成元)	168.0×184.5
52	牧 進	啼錦秋	1994 (平成6)	72.7× 90.9
53	牧 進	枯寒野	1996 (平成8)	180.0×360.0
54	牧 進	料峭	1996 (平成8)	80.5×117.0
55	毛利武彦	公園の冬	1978 (昭和53)	91.5×117.1
56	山本丘人	高麗山夕影	1973 (昭和48)	53.3× 91.7
57	山本丘人	日本の四季・祈月 (春)	1974 (昭和49)	62.5× 65.5
58	山本丘人	日本の四季・展雲 (夏)	1974 (昭和49)	62.5× 65.5
59	山本丘人	日本の四季・散風 (秋)	1974 (昭和49)	62.5× 65.5
60	山本丘人	日本の四季・気雪 (冬)	1974 (昭和49)	62.5× 65.5
61	山本丘人	往く路	1975 (昭和50)	91.5× 64.0
62	山本丘人	木蔭の路	1975 (昭和50)	61.0× 50.5
63	山本丘人	白い梅	1977 (昭和52)	127.6× 45.9
64	山本丘人	走る秋	1977 (昭和52)	65.7× 53.6
65	山本丘人	夕風吹く日	1978 (昭和53)	50.6× 73.6
66	山本丘人	燈影	1983 (昭和58)	91.8× 45.9
67	山本丘人	山河望郷	1983 (昭和58)	45.0× 92.2
68	吉岡堅二	黒鳥屏風	1978 (昭和53)	175.0×256.0
69	吉田善彦	室生新緑	1970 (昭和45)	65.2× 53.0
70	吉田善彦	山湖	1973 (昭和48)	65.2× 90.9
71	吉田善彦	コリントの壺と熱国の花	1974 (昭和49)	73.3× 53.5
72	吉田善彦	伊吹深秋	1988 (昭和63)	72.7× 90.9

* 寸法は縦×横。

* 作品はすべて成川美術館蔵。



石本 正「舞妓」



加山又造「白い嶺」

モネ、ルノワールと印象派の画家たち

会期＝平成10年9月4日(金)－10月2日(水)
主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会

後援＝ドイツ連邦共和国大使館
協賛＝大成建設株式会社
協力＝ルフトハンザ・ドイツ航空

関連事業

美術講演会

「印象派の誕生－社会の中の芸術運動」

講師＝浅野春男氏（沖縄県立芸術大学助教授）

日時＝9月19日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

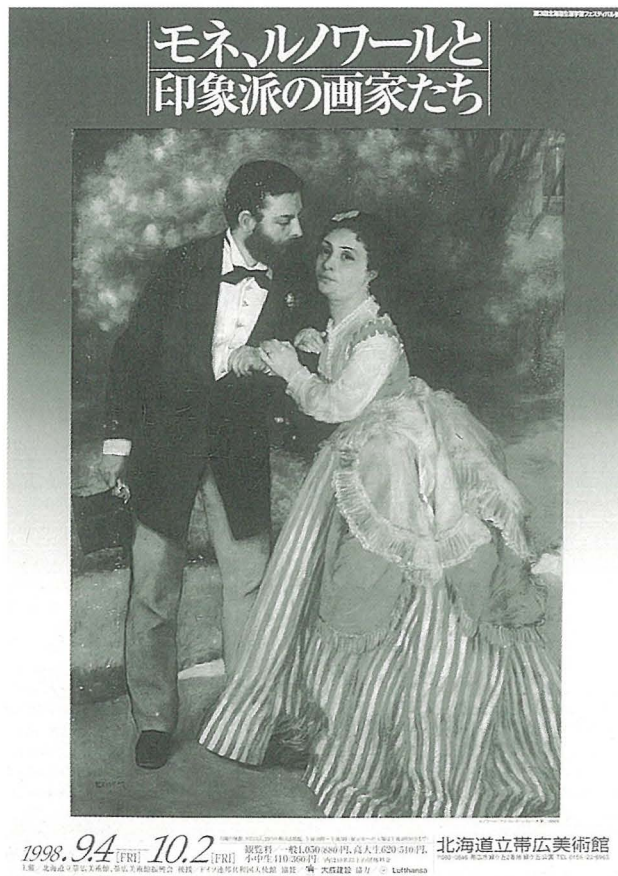
土曜映写室

「印象派の誕生－モネ」

「光と色彩の讃歌－ルノワール、ピサロ、シスレー」

日時＝9月12日(土)、9月26日(土) 午後2時～3時

会場＝当館講堂



ポスター



図録

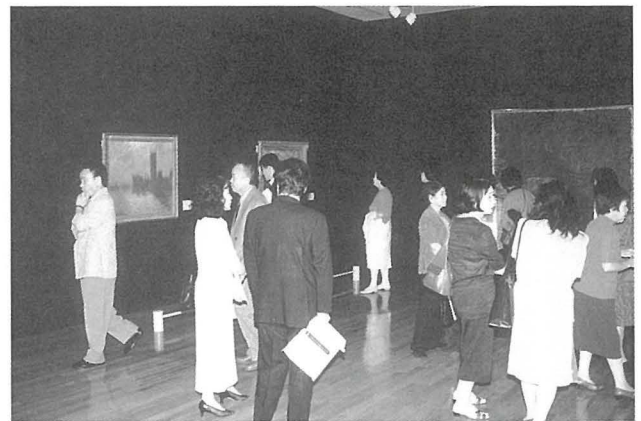
19世紀後半にフランスに起った印象派の芸術思潮は、自然から受ける清新な感動を率直に表現する芸術運動として欧米や日本にも大きな影響を及ぼした。自然の光や大気の揺れ動きをとらえる革新的な手法は、最も重要な絵画運動として注目される一方、光学理論に触発され、理論的裏付けを先鋭化させた新印象派と呼ばれるグループも生み出した。さらに、その色彩の開放や理論性の追究は、フォーヴィスムやキュビズムをはじめ20世紀の画家たちへと受け継がれた。

本展では、風景画と人物画を中心として、モネ、ルノワール、セザンヌなどの印象派からスーラ、シニャックなどの新印象派にいたる画家たちの作品に併せて、ゴッホ、ゴーギャン、ヴラマンク、ヴァン・ドンゲン、キリコなど、印象派に大きな影響を受けた画家たちの作品などを集め、近代絵画の出発点に位置した印象

派の広がりを展望した。出品作品は、ケルン市立ヴァルラフ＝リヒャルト美術館（ドイツ）、リール市美術館（フランス）、プティ・パレ美術館（スイス）、そしてスイスとポーランドの個人コレクションなどから油彩画、水彩画61点で構成した。明確なコーナー分けは行わなかったが、「印象主義」「新印象主義」「ドイツ印象主義」など幾つか核になる作品群の中で、リーバーマン、コリントなど1890年前後以降になって印象主義を取り入れていったドイツ画壇のまとまりは、とりわけ近代ヨーロッパにおける印象主義の広がりと影響を示すものとなった。モネの「睡蓮」や日本初公開となったルノワールの「アルフレッド・シスレー夫妻」をはじめとする秀作が話題を集め、25日間の会期中10,699人の入館者があった。



会場風景



会場風景

出品目録

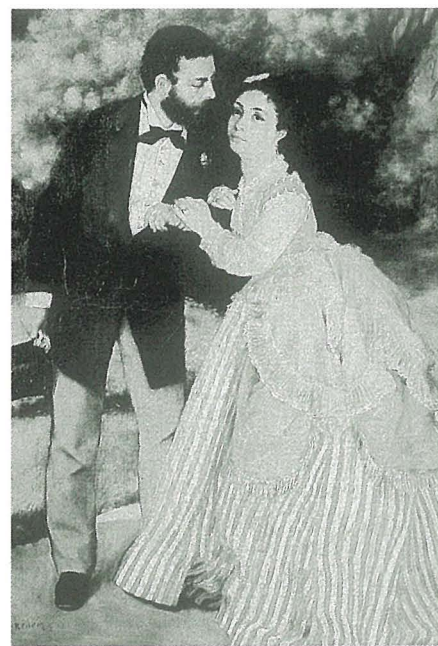
No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
1	クロード・モネ	解氷	1880	油彩、キャンバス	72.3× 99.3	リール市美術館
2	クロード・モネ	エトルタの海岸の漁船	1884	油彩、キャンバス	74.0×101.0	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
3	クロード・モネ	セヌ川風景	1885頃	油彩、キャンバス	67.0× 82.5	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
4	クロード・モネ	ロンドン国会議事堂	1904	油彩、キャンバス	81.5× 92.0	リール市美術館
5	クロード・モネ	睡蓮	1914 - 17	油彩、キャンバス	180.0×205.0	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
6	ビエール＝オギュスト・ルノワール	アルフレッド・シスレー夫妻	1868	油彩、キャンバス	105.0× 75.0	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
7	ビエール＝オギュスト・ルノワール	セヌ川沿いの風景、リュエイユ	1879	油彩、キャンバス	37.0× 66.0	コルブー・コレクション
8	ビエール＝オギュスト・ルノワール	カリフラワーと柘榴	1890頃	油彩、キャンバス	35.0× 46.5	ボルチェンスキー・コレクション
9	ビエール＝オギュスト・ルノワール	休息する裸婦	1890 - 95	油彩、キャンバス	46.0× 63.0	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
10	ビエール＝オギュスト・ルノワール	ルーヴシエンヌのヴェルサイユ街道	1895	油彩、キャンバス	32.6× 41.5	リール市美術館
11	ビエール＝オギュスト・ルノワール	ジャン・ルノワール	1898	油彩、キャンバス	55.0× 46.0	コルブー・コレクション
12	ビエール＝オギュスト・ルノワール	ビエール・ルノワール	1910	油彩、キャンバス	44.0× 37.2	ボルチェンスキー・コレクション
13	ビエール＝オギュスト・ルノワール	姉	1876	油彩、キャンバス	104.0× 58.5	プティ・パレ美術館、ジュネーブ
14	カミーユ・ピサロ	ポントワーズのエルミタージュ	1867	油彩、キャンバス	91.0×150.5	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
15	カミーユ・ピサロ	ヴァランジュヴィルの畑	1899	油彩、キャンバス	46.5× 55.5	コルブー・コレクション
16	アンリ＝テオドール・ファンタシオ＝ラトゥール	ガラスの花瓶に活けた花	1864	油彩、キャンバス	53.5× 43.9	ボルチェンスキー・コレクション
17	アルフレッド・シスレー	ハンプトン・コート	1874	油彩、キャンバス	45.5× 61.0	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
18	アルフレッド・シスレー	冬雪の効果	1876	油彩、キャンバス	46.0× 55.0	リール市美術館
19	アルフレッド・シスレー	サブロン	1884 - 85頃	油彩、キャンバス	54.5× 66.0	コルブー・コレクション
20	アルフレッド・シスレー	ラングラン湾	1897	油彩、キャンバス	54.0× 65.0	コルブー・コレクション
21	ポール・セザンヌ	ベルヴェユ平野	1885 - 87頃	油彩、キャンバス	65.0× 81.0	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
22	ポール・セザンヌ	洋梨のある静物	1895 - 1900	油彩、キャンバス	38.0× 46.0	ケルン市ヴァルラフ＝リヒャルト美術館
23	ベルト・モリゾ	セヌ川の船	1779 - 80頃	油彩、キャンバス	25.5× 50.0	コルブー・コレクション
24	ベルト・モリゾ	タチアオイのなかの子ども	1881	油彩、キャンバス	50.0× 42.0	コルブー・コレクション
25	アルマン・ギョーマン	朝のオステルリッツ埠頭	1886頃	油彩、キャンバス	54.0× 65.0	プティ・パレ美術館、ジュネーブ
26	アルマン・ギョーマン	マドレーヌ嬢	1901	油彩、キャンバス	73.0× 60.0	プティ・パレ美術館、ジュネーブ

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	所蔵
27	マックス・リーパーマン	市場の風景	1874	油彩、キャンバス	84.0× 59.0	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
28	マックス・リーパーマン	洗濯物を干す風景	1882	油彩、キャンバス	109.0×173.0	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
29	ギュスターヴ・カイユボット	トルーヴィルの庭園	1882頃	油彩、キャンバス	27.5× 35.5	コルブー・コレクション
30	ギュスターヴ・カイユボット	ジュヌヴィリエの平原、黄色い野原	1884	油彩、キャンバス	54.0× 65.0	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
31	ギュスターヴ・カイユボット	セーヌ河畔の洗濯物	1888	油彩、キャンバス	106.0×150.0	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
32	ギュスターヴ・カイユボット	セーヌ川の小さな流れ、秋の効果	1890	油彩、キャンバス	65.2× 54.0	コルブー・コレクション
33	ギュスターヴ・カイユボット	セーヌ河畔のボートと小屋	1891	油彩、キャンバス	45.7× 55.0	コルブー・コレクション
34	ポール・ゴーギャン	ゲルネル橋付近のセーヌ川	1878	油彩、キャンバス	30.0× 44.0	コルブー・コレクション
35	フリッツ・フォン・ウーデ	庭にいる画家の3人の娘	1908-10頃	油彩、キャンバス	55.0× 67.0	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
36	クリスティアン・ロールフス	冬の森の小道 (ティエルトに向かう道、ワイマル近郊ヴェヒト)	1889	油彩、キャンバス	59.5× 74.5	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
37	クリスティアン・ロールフス	ゾーストを見下ろす塔	1906	油彩、紙	67.5× 97.5	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
38	ヴィルヘルム・トリュブナー	フラウエンキームゼーにて	1891頃	油彩、キャンバス	62.0× 76.0	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
39	フィンセント・ファン・ゴッホ	ホーヘフェーンの農場	1883	油彩、キャンバス	28.5× 39.5	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
40	フィンセント・ファン・ゴッホ	ヌエネンの農民の家	1885	油彩、キャンバス	35.0× 47.2	コルブー・コレクション
41	ローヴィス・コリント	ハンブルクの皇帝記念日	1911	油彩、キャンバス	70.5× 90.5	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
42	ローヴィス・コリント	ヴァルヒェン湖の眺望	1924	油彩、キャンバス	101.0×200.0	ケルン市ヴァルラフ=リヒャルト美術館
43	ジョルジュ・スーラ	バルビゾンの景色のなかの人物	1882頃	油彩、板	15.5× 24.8	コルブー・コレクション
44	アシル・ロージェ	花咲く木のある風景	1898	油彩、キャンバス	54.0× 75.0	コルブー・コレクション
45	アシル・ロージェ	エニシダのある道	1900頃	油彩、キャンバス	54.0× 72.0	コルブー・コレクション
46	ジャック=エミール・ブランシュ	静物	1935	油彩、キャンバス	61.0× 50.0	ボルチェンスキー・コレクション
47	アンリ・ル・シダネル	薔薇の館、ジェルプロワ	1902以降	油彩、キャンバス	73.0× 60.0	コルブー・コレクション
48	アンリ・ル・シダネル	薔薇の家-ヴェルサイユ	1918	油彩、キャンバス	108.0× 90.0	コルブー・コレクション
49	ポール・シニャック	川の風景	1883	油彩、キャンバス	45.0× 80.0	コルブー・コレクション
50	ポール・シニャック	ジェノヴァ近郊のカポ・ディ・ノリ	1898	油彩、キャンバス	91.5× 73.0	コルブー・コレクション
51	アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	アトリエにて、モデルのポーズ	1885頃	油彩、キャンバス	137.5× 61.5	リール市美術館
52	ギュスターヴ・ロワゾー	雪の景色、ブルターニュの村の入口	1897-98	油彩、キャンバス	74.0× 93.0	コルブー・コレクション
53	ピエール・ボナール	牛のいる風景、セーヌ河畔	1913頃	油彩、キャンバス	40.0× 59.0	コルブー・コレクション
54	アンリ・マティス	コルシカの製粉所	1898	油彩、キャンバス	38.5× 46.0	コルブー・コレクション
55	モーリス・ド・ヴラマンク	果実のある静物	不詳	油彩、キャンバス	54.5× 65.0	ボルチェンスキー・コレクション
56	モーリス・ド・ヴラマンク	魚のある静物	1923	油彩、キャンバス	38.0× 55.0	ボルチェンスキー・コレクション
57	ラウル・デュフィ	サン=マルタン大通り	1903	油彩、キャンバス	53.0× 64.0	コルブー・コレクション
58	キース・ヴァン・ドンゲン	父の肖像	1909	油彩、キャンバス	100.5× 82.0	ボルチェンスキー・コレクション
59	シャルル・カモワン	静物	1908	油彩、キャンバス	50.0× 60.0	ボルチェンスキー・コレクション
60	オスカー・シュレンマー	花瓶	不詳	油彩、キャンバス	65.4× 48.8	ボルチェンスキー・コレクション
61	ジョルジオ・デ・キリコ	風景のなかの静物	1948頃	油彩、キャンバス	29.7× 39.6	ボルチェンスキー・コレクション

* 寸法は縦×横。



アルフレッド・シスレー「ハンプトン・コートの橋」



ピエール=オギュスト・ルノワール
「アルフレッド・シスレー夫妻」

アドリアン・デュブーシェ国立美術館所蔵 ヨーロッパの名窯 リモージュの輝き—磁器名品展—

会期＝平成10年10月9日(金)－12月2日(水)
主催＝北海道立帯広美術館、北海道新聞社、
リモージュの輝き展実行委員会

後援＝フランス大使館
協力＝エール・フランス国営航空会社

1998-1999日本におけるフランス年 公式プログラム

関連事業

美術講演会

「フランス陶磁の旅」

講師＝浅岡敬史氏（写真家）

日時＝11月7日(土) 午後2時～4時

会場＝当館講堂

特別展セミナー

「リモージュ窯とセーブル窯—宮殿を彩る卓上の美—」

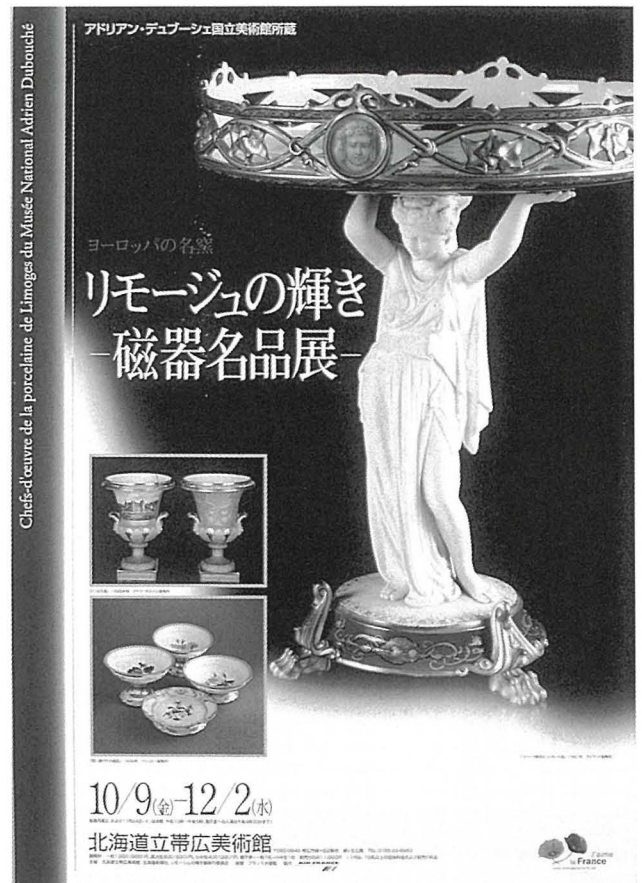
講師＝寺嶋弘道（当館学芸課長）

日時＝10月31日(土)、11月28日(土) 午後2時～3時

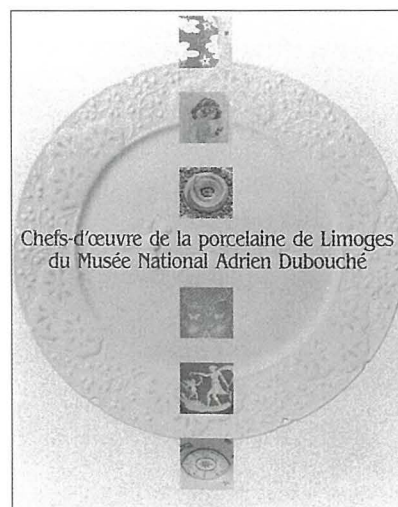
会場＝当館講堂

フランス中西部の古都リモージュは、ヨーロッパを代表する磁器生産地の一つである。1768年、この地で磁器の原料となる白色の陶土・カオリンが発見された。当時ヨーロッパでは、厳選された材料と高度な生産技術を要する磁器は金や銀を上回る貴重なものとされ、王侯貴族は競ってこれを求めた。リモージュでもいち早く磁器の生産が開始され、以後、王政時代、フランス革命期を経て現代にいたるまで幾多の製陶所によって数多くの作品が生み出されてきた。白くきめ細かな地肌と繊細で華麗な模様を備えたリモージュ磁器は、美食の国フランスの食卓を彩り、その卓越したデザインと品質は国際的にも高く評価されている。

この展覧会では、リモージュのアドリアン・デュブーシェ国立美術館が所蔵する11,000点を超える陶磁器コレクションより、リモージュ磁器の歴史と美を伝える99作品を精選。18世紀後半のリモージュ窯開設直後に作られた食器類から現代の美術家がデザインを手掛けた作品まで、伝統と技術に支えられ時代の嗜好に応えてさまざまなスタイルを生み出してきたリモージュ磁器の華麗な世界を紹介した。



ポスター



図録



会場風景



会場風景

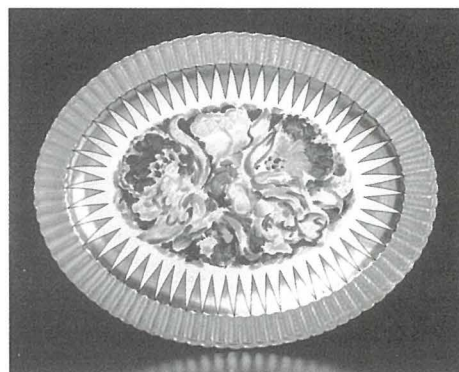
出品目録

No.	製陶所等	作品名	制作年	寸法(cm)
1	アルトワ伯爵製陶所	トゥルゴの紋章文メダル	1771	高1×径8.8
2	アルトワ伯爵製陶所	楕円形テリース鉢／受け皿	1774 - 84	テリース鉢：高26.5×幅33.5 受け皿：高6.6×幅40.5
3	アルトワ伯爵製陶所	丸型スープ鉢／受け皿	1784以降	スープ鉢：高30×幅23 受け皿：高3.9×幅31
4	アルトワ伯爵製陶所	シュガーポット	1774 - 84	高8×幅22
5	アルトワ伯爵製陶所	氷入れ	1784以降	高15.3×幅24.5
6	アルトワ伯爵製陶所	皿	1784以前	高3×径23.8
7	アルトワ伯爵製陶所	皿	1774 - 93	高2.7×径24
8	アルトワ伯爵製陶所	丸型皿	1784 - 86頃	高4×径33
9	アルトワ伯爵製陶所	2つの丸型コンポート皿	1784以降	高7.5×径23、高4.7×径21
10	アルトワ伯爵製陶所	鉢／受け皿	1784以前	鉢：高12×幅19 受け皿：高2.7×径23.5
11	アルトワ伯爵製陶所	マスタード入れ	1774 - 93	マスタード入れ：高8.5×幅15.2 受け皿：径16
12	アルトワ伯爵製陶所	コーヒーセット	1774 - 93	カップ：各高5.5×幅8 (2点) ソーサー：各 高2.3×径11.5 (2点) コーヒーポット：高16×幅13 シュガーポット：高9.5×径9.5
13	アルトワ伯爵製陶所	花束柄の女王風カップ／ソーサー	1784以前	カップ：高11×幅15 ソーサー：高3×径14
14	アルトワ伯爵製陶所	鉢／受け皿	1787	鉢：高12.3×幅14.2 受け皿：高2.7×径23
15	アルトワ伯爵製陶所	水差し／盆	1787	水差し：高22.5×幅16 盆：高7.8×幅30.2
16	アルトワ伯爵製陶所	3つのクリーム入れ／受け皿	1784以降	クリーム入れ：各 高9×幅7.8 (3点) 受け皿：高2.4×幅24.5
17	アルトワ伯爵製陶所	中国風鉢	1784以降	高12×幅20
18	アルトワ伯爵製陶所	花飾りを持った羊飼いの	1774-92	高20×径18
19	アルトワ伯爵製陶所	バッカスの2人の子供	1786頃	高15.4×幅6.9、高14.4×幅5.7
20	ベニョル製陶所	水差し／大皿	18世紀末 - 20世紀初頭	水差し：高26.5×幅16.5 大皿：高9×幅33
21	ベニョル製陶所	神話風花瓶	1806	各 高22.5×幅16.5 (2点)
22	ベニョル製陶所	インクスタンド《女神フローラ》	19世紀初頭	高19.8×幅17.2
23	ベニョル製陶所	スープ鉢／受け皿	19世紀初頭	スープ鉢：高16.8×幅21.5 受け皿：高4.5×径21.5
24	アリュオー製陶所	ティーセット	1827	ティーポット：高12.2×幅24.8 シュガーポット：高9×幅19 ミルク入れ：高10.7×幅13.5
25	アリュオー製陶所	腹部のふくらんだ2つの花瓶	1830頃	各 高30.6×幅21 (2点)
26	アリュオー製陶所	『旅百科辞典』	1791	縦24.5×横19
27	アリュオー製陶所	『旅百科辞典』模様の5枚組皿	19世紀初頭	各 高3×径22.5 (5点)
28	アリュオー製陶所	デザート皿	1834	各 高3×径21.3 (2点)
29	アリュオー製陶所	短い脚付きの組皿	1834	高13×径22、高8×径22
30	アリュオー製陶所	脚付きの組皿	1834	各 高23.8×径29 (2点)
31	ビエール・タロー製陶所	白鳥の首の取っ手付き花瓶	1819	高49×幅22

No.	製陶所等	作品名	制作年	寸法(cm)
32	ピエール・タロー製陶所	模様が印刷されたコーヒーセット	1824頃	コーヒーポット：高25.5×幅19 シュガーポット：高18×幅13.5 カップ：各高6.3×幅8（2点） ソーサー：各高2.7×径11.5（2点） 縦23.5×横30.5
33	クサク=ボネバル製陶所	製陶カタログ	1825頃	各高37.5×径28（2点）
34	クサク=ボネバル製陶所	2つの花瓶	1830頃	高29×幅19（2点）
35	クサク=ボネバル製陶所	花瓶	1829頃	高39×幅40
36	クサク=ボネバル製陶所	美の女神に支えられた籠	1828	高44.8×幅29.2
37	マニャク=ブール製陶所	ボルドー公爵の胸像	1839	高62×幅37
38	ミシェル&バラン製陶所	トルコ人の置時計	1850頃	高2.5×径13.9
39	アトリエ・レズム	蛇の小鉢	1850頃	ミルク入れ：高11.2×幅13 カップ：各5.5×幅11.2（2点） ソーサー：各高2×径14（2点）
40	アトリエ・レズム	ラッパ型カップのセット		高31.5×幅14
41	アトリエ・レズム	ゴシック様式のランプ	19世紀中頃	高2.5×径21.5
42	リュオー製陶所	皿	1835	高24.5×幅12
43	リュオー製陶所	青と白の花瓶	1850頃	各高2.2×径21.5（2点）
44	ブイヤ製陶所	セレス・リッシュの皿	1855	トレイ：高3.5×幅48.5
45	ブイヤ製陶所	モスリンのセット	1862	ティーポット：高13.5×幅20.5 シュガーポット：高11.5×幅14 ミルク入れ：高10.6×幅11.3 カップ：各高5.3×幅12（2点） ソーサー：各高2.4×径13.5（2点）
46	ブイヤ製陶所	米粒のセット	1878	各高2.5×径21.5（2点） スープ皿：高37×幅39.5、受け皿：高6.5×径47 マスタード入れ：高11.8×幅11.5、受け皿：高1×幅15 ソース入れ：高14×幅25.5、受け皿：高1.6×幅28.4 丸型皿：高9×径52 飾り皿：高44.5×径51
47	ブイヤ製陶所	日本風ティーセット	1878	トレイ：高6.8×幅54.6 ティーポット：高12×幅17 ミルク入れ：高6.7×幅11 シュガーポット：高11×幅11 カップ：各高6×幅7.5（2点） ソーサー：各高2.3×径11.9（2点）
48	ブイヤ製陶所	扇子柄の皿	1878—79	高2.9×径24
49	ブイヤ製陶所	風景柄の皿	1879	高2.7×径24.8
50	ブイヤ製陶所	網目模様のスープ／受け皿	1878	スープ皿：高38×幅39.5 受け皿：高4.2×径36.5
51	ブイヤ製陶所	網目模様のティーセット	1878	トレイ：高7.5×幅55.5 ティーポット：高18.5×幅17.5 シュガーポット：高19×幅21.5 ミルク入れ：高11.5×幅12 カップ：各高7.5×幅12.5（2点） ソーサー：各高2.2×径14（2点）
52	ブイヤ製陶所	聖杯型小鉢	1902	高6×径5.8
53	ブイヤ製陶所	カップ／ソーサー	1903頃	カップ：高6×幅6 ソーサー：高2.5×径12
54	アルダン製陶所	うろこ模様のカップ／ソーサー	1869	カップ：各高6.3×幅8.6（2点） ソーサー：各高2.4×径13（2点）
55	アルダン製陶所	うろこ模様の筒型カップ	1869	各高13.3×径7（2点）
56	アルダン製陶所	狩人の花瓶	1867	高87×幅50
57	アルダン製陶所	水差し《ベンベヌート・チェルリーニ》	1866	高37.8×幅18.5



アルトワ伯爵製陶所「シュガーポット」



ベルナルドー製陶所
「キース・ヴァン・ドンゲンによる花模様の楕円皿」

No	製陶所等	作品名	制作年	寸法(cm)
58	アルダン製陶所	伯爵夫人の胸像	1872以前	高55×幅30
59	ラポルト製陶所	小立像《美しき時》	1883-96	高47.5×幅21
60	ジュアノー&デュボワ製陶所	大きな水差し	1855	高100×幅49
61	ジビュス、マルゲンヌ&ルドン製陶所	亀の花瓶	1863	高35.5×幅14
62	ジビュス、マルゲンヌ&ルドン製陶所	聖杯型脚付き皿	1861	高35.5×径16
63	ジビュス、マルゲンヌ&ルドン製陶所	ボンパドールの脚付き皿	1861	高20.5×径22
64	ジビュス、マルゲンヌ&ルドン製陶所	濃紺緑の皿	1867	高2.1×径23.7
65	ジビュス、マルゲンヌ&ルドン製陶所	淡緑緑の皿	1867	高2.4×径23.6
66	ジビュス、マルゲンヌ&ルドン製陶所	カップ／ソーサー	1872以前	カップ：高6.5×幅9.1 ソーサー：高1.9×径12.3
67	ジビュス、マルゲンヌ&ルドン製陶所	水差し／受け皿	1870頃	水差し：高38.9×幅17.3 受け皿：高4.7×径32.5
68	バロー製陶所	脚付き皿	19世紀後半	高10.2×径15.7
69	バロー製陶所	丸い籠	19世紀後半	高21×径21
70	ゲラン製陶所	花瓶	1889	高66×径31
71	アビランド製陶所	クラブのジャックとハートのクイーン	1850頃	ジャック：高44.5×幅13.5 クイーン：高45.5×幅13.5
72	アビランド製陶所	インディアン皿ーハーグ王のセットより	1880	径23
73	アビランド製陶所	コーヒーカップ／ソーサーーハーグのセットより	1879	カップ：高6.4×幅7 ソーサー：高1×径12
74	アビランド製陶所	ゴシック様式のシュガーポット	1867	高19.5×幅14.5
75	アビランド製陶所	ゴシック様式のコンポート皿	1867	高29.4×径22
76	アビランド製陶所	ゴシック様式の組皿	1867	各 高2.2×幅22.2 (2点)
77	アビランド製陶所	バリ様式の6枚組皿セット	1876	各 高2.5×幅25.5 (6点)
78	オーギュスト・リファテール	小瓶	19世紀末	高10.4×幅7.3
79	オーギュスト・リファテール	装飾小箱	1900頃	高6×幅14
80	オーギュスト・リファテール	カップ／ソーサー	1893頃	カップ：高6×幅8.2 ソーサー：高2.6×径12
81	トレスマン&ボグ製陶所	小円卓	19世紀末	高71×径44
82	テオドル・アビランド製陶所	ウジェニー皇后の蓋付きスープ入れ	1900頃	スープ入れ：高23×幅32 皿：高2.8×径24.6
83	テオドル・アビランド製陶所	中国風の魚のランブ	1918	高36×幅30
84	G D A 製陶所	飾り皿	1893	高38.5×幅59
85	G D A 製陶所	花瓶《ノルマンディ》	1893	高60.5
86	G D A 製陶所	カントンのセット	1900	四角いスープ皿：高13.6×幅20.3 皿：高2.9×径24.6 カップ：高4.8×幅11.3 ソーサー：高2×径14.7
87	G D A 製陶所	小立像《パリジェンヌ》	1900頃	高26×幅13.5
88	G D A 製陶所	花瓶	1900頃	高23.5×幅23.5
89	G D A 製陶所	置き時計	1900頃	高23
90	G D A 製陶所	花瓶《雪》	1902	高21×径13
91	1925年パリ現代装飾産業美術世界博覧会	アーケードの皿	1925	高2.4×径24.5
92	1925年パリ現代装飾産業美術世界博覧会	灰色と金色の食器セット	1925	皿：高2.8×径14.8 シュガーポット：高16.2×幅16.9 カップ：高6.6×幅8.5 ソーサー：高1.8×径12.9
93	1925年パリ現代装飾産業美術世界博覧会	灯り	1925頃	高27.5×幅8
94	ベルナルド・製陶所	キース・ヴァン・ドンゲンによる花模様の丸皿	1937-47	高3.9×幅31
95	ベルナルド・製陶所	キース・ヴァン・ドンゲンによる花模様の皿	1937-47	高2.5×幅25
96	ベルナルド・製陶所	キース・ヴァン・ドンゲンによる花模様の楕円皿	1937-47	高3.6×幅38
97		リバリとイタックのセット	1993	カップ：各 高6.7×幅11 (2点) ソーサー：各 高3×径13.5 (2点) 小鉢：高2.2×幅10 一輪差し：高12×径6
98		星と目の皿	1993	高6.5×径41.5
99		デミタスセット	1990	カップ：各 高6×幅11 (3点) ソーサー：各 高2.5×径15.5 (3点) 2枚組皿：高3×幅27、高3×幅22 ティーポット：高16.5×幅21.5 ミルク入れ：高11.5×幅11.5 シュガーポット：高10.6×幅13.5

* 作品はすべてアドリアン・デュブーシェ国立美術館蔵。

帯広美術館コレクション選集 現代の版画／道東の美術

会期＝平成10年12月18日(金)ー平成11年3月24日(水)
主催＝北海道立帯広美術館

美術館の役割は、優れた美術作品を収集し、研究し、公開し、そしてそれらの作品を後世の人々に伝えていくことにある。その意味で一定の方針に基づき体系的に収集されたコレクションは、美術館活動の方向性全体に関わる極めて重要な要素である。

当館では平成3年9月の開館以来、「道東の美術」「プリントアート」という二つの方針を立て作品の収集に努めてきた。第一の柱である「道東の美術」とは当館が立地する十勝をはじめ道東地域ゆかりの作家たちの作品を取り上げようというものである。一方、第二の柱「プリントアート」は、版画や写真などプリント(印刷・転写・複製)の技法を用いて制作された作品に焦点をあてたものである。具体的には当館では、19世紀後半から20世紀初頭にかけて制作されたフランスのポスター、版や写真の技法を利用した現代美術作品などを収集してきた。さらに平成11年度以降はこれら二つに、第三の柱「西洋の美術」を追加。これまで「プリントアート」の一貫として収集を進めてきたバルビゾン派の版画や絵画を軸に、農業を基幹産業とする十勝地域との関連性に鑑み、農村や田園を描いた西洋の風景画・風俗画の収集を行うこととした。これらの方針に基づき収集された作品は平成11年3月末現在で491点におよんでいる。

当館所蔵作品を一堂に紹介するべく企画された本展覧会では、主展示室1においてプリント技術を用いて制作された「現代の版画」25点を、主展示室2では油絵画や日本画、彫刻、工芸など「道東の美術」31点を紹介。次第に充実しつつある当館コレクションの現況を展望した。



会場風景



会場風景

出品目録

現代の版画

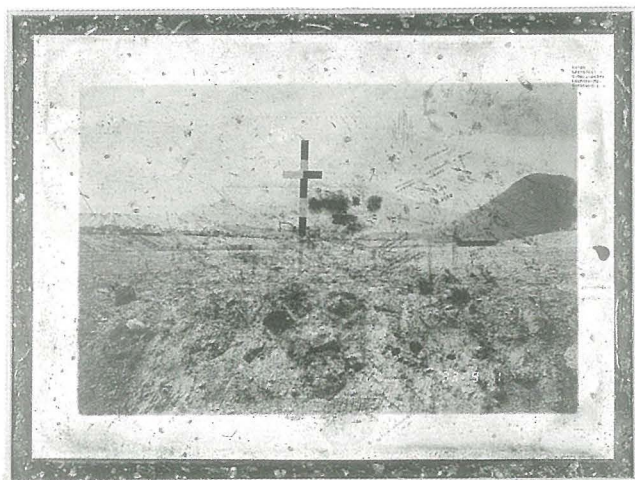
No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
1	緩 嘯	オープニング或いは再び田園	1992 (平成4)	シルクスクリーン、紙	各105.0× 157.0 (2点組)
2	秋岡美帆	ゆれるかけ	1992 (平成4)	スクリーン、紙	153.5× 212.5
3	池田良二	Time of frozen ground (凍土の時)	1990 (平成2)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント	114.0× 180.0
4	磯辺行久	江戸障壁	1965 (昭和40)	ドライポイント、メゾチント、手漉	200.2× 299.0
5	一原有徳	SON4(b)	1983 (昭和58)	シルクスクリーン、レリーフプリント、紙、紐、アクリル板、木	径 50.1× 高240.0
6	大浦一志	杉並区阿佐ヶ谷南3丁目23-13 〜普賢岳(川は水を必要としていた)	1994 (平成6)	モノタイプ、紙	169.0× 225.0
7	太田三郎	Stamp map of Hokkaido "December 29, 1993"	1993 (平成5)	土、石、灰、木、合成樹脂、印画紙	290.0× 360.0
8	岡部昌生	Stroke - on the road at Hiroshimacho in Sapporo, September 7 - November 15, 1987	1987 (昭和62)	切手、消印	290.0× 360.0
9	國安孝昌	Wind Field Project	1994 (平成6)	フロッタージュ、紙	各300.0× 152.0 (3点組)
10	島 州一	指紋と木目	1976 (昭和51)	コピー、鉛筆、紙	各 35.2× 52.2 (15点組)
11	島 州一	FINGER PRINT	1981 (昭和56)	シルクスクリーン、角材 11.0× 11.0× 26.0他	(24点組)
12	島 州一	FINGER PRINT	1981 (昭和56)	和紙、フロッタージュ、粘土、段ボール	99.0× 69.0
13	長はるこ	B - cushion	1998 (平成10)	和紙、フロッタージュ、粘土	73.0× 63.5
14	中谷有逸	碑(海・蠕動)	1995 (平成7)	スクリーン、紙	153.1× 211.2
15	長谷川哲	HOME 1997-2	1997 (平成9)	スクリーン、紙	270.0× 540.0
				写真、印画紙	86.3× 148.5

16	百瀬 寿	Square - Vertical Blue to Magenta	1981 (昭和56)	スキナグラフィ (NECO)、キャンバス	180.0× 180.2
17	森村泰昌	野菜涅槃 (若沖)	1990 (平成2)	カラー写真プリント、印画紙	185.3× 100.1
18	森村泰昌	寒雀寒鳩 (御舟)	1990 (平成2)	カラー写真プリント、印画紙	132.9× 97.8
19	横尾忠則	ブルー・ワンダーランド	1973 (昭和48)	シルクスクリーン、紙	各103.2× 72.6 (8点組)
20	D.ホックニー	グラン・キャニオンの北側を見る 1982年9月 アリゾナ	1982	フォト・コラージュ	114.0× 252.7
21	R.リクテンスタイン	睡蓮と雲	1992	シルクスクリーン、ステンレス	167.6× 114.3
22	R.ラウシェンバーク	スリングショット・リット No. 8	1985	シルクスクリーン、透明フィルム、蛍光灯、木	214.3× 141.8× d32.2
23	G.シーガル	前向きの二人の人物	1975	エッチング、アクアチント、紙	85.0× 126.5
24	M.スターン、D.スターン	若い娘たち	1990-93	印画紙、透明フィルム、釘、木	57.5× 46.0× d 5.5他 (9点組)
25	F.ステラ	スワン・エングレイヴィング、ブルー、グリーン、グレー	1985	エッチング、レリーフプリント、紙	169.0× 133.0

道東の美術

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
26	市成太煌	鴉の詩 1	1978 (昭和53)	紙本彩色	160.0× 95.0
27	市成太煌	鴉の詩 2	1978 (昭和53)	紙本彩色	160.0× 95.0
28	市成太煌	鴉の詩 3	1978 (昭和53)	紙本彩色	160.0× 95.0
29	伊藤隆二	池のほとり	1931 (昭和6)	油彩、キャンバス	72.8× 91.0
30	伊藤隆二	初秋	1935 (昭和10)	油彩、キャンバス	80.7× 116.8
31	岡沼淳一	MONSOON	1988 (昭和63)	木	44.3× 185.0× 190.0
32	伽井丹彌	人形譚	1996 (平成6)	桐塑、アクリリック	高さ 110.5
33	神田日勝	瘦馬	1956 (昭和31)	油彩、板	52.3× 61.0
34	神田日勝	画室 D	1967 (昭和42)	油彩、板	163.3× 183.0
35	神田日勝	画室 E	1967 (昭和42)	油彩、板	163.0× 183.0
36	小林満枝	叢原	1985 (昭和60)	紙本彩色	112.0× 145.4
37	武田伸一	凍土	1966 (昭和41)	油彩、キャンバス	182.0× 229.0
38	竹山義雄	早春山野	1978 (昭和53)	油彩、キャンバス	130.6× 162.0
39	竹山義雄	川畔秋草	1979 (昭和54)	油彩、キャンバス	145.5× 112.2
40	竹山義雄	山湖 (レイクルイズ)	1979 (昭和54)	油彩、キャンバス	130.3× 162.1
41	寺島春雄	凶斑	1961 (昭和36)	油彩、キャンバス	130.8× 162.4
42	寺島春雄	北の碑	1962 (昭和37)	油彩、キャンバス	130.7× 162.4
43	富谷道信	アデラの記憶	1980 (昭和55)	木	30.0× 115.0× 50.0
44	中江紀洋	H A H A (祈り)	1994 (平成6)	スプルース、金属	91.5× 107.0× 156.0
45	長尾栄三	晩秋の高原	1979 (昭和54)	油彩、キャンバス	130.3× 161.8
46	橋原武正	黒の惑星 17-1-7	1981 (昭和56)	トタン板、空き缶、廃品、釘、針金、塗料	129.5× 162.5
47	橋原武正	黒の惑星 '85-3	1985 (昭和60)	トタン板、空き缶、釘、針金、塗料	227.0× 182.0
48	橋原武正	大地ノ開墾 '93-A	1993 (平成3)	トタン板、麻布、金属、廃品、釘、針金、塗料	230.7× 186.0
49	能勢真美	木々	1958 (昭和33)	油彩、キャンバス	162.1× 130.3
50	能勢真美	疎林初秋	1967 (昭和42)	油彩、キャンバス	97.0× 162.0
51	能勢真美	草木の怪	1973 (昭和48)	油彩、キャンバス	89.0× 130.0
52	村元俊郎	セニョリータ	1991 (平成3)	油彩、キャンバス	130.5× 162.0
53	望月正男	落日	1977 (昭和52)	油彩、キャンバス	112.1× 145.5
54	森 健二	光年のメロディー No. 3	1968 (昭和43)	油彩、キャンバス	130.5× 162.5
55	森 健二	光年の導「道」	1983 (昭和58)	油彩、キャンバス	130.0× 162.0
56	八鍬一郎	糠平の風景	1956 (昭和31)	油彩、キャンバス	50.0× 60.6

- * 寸法は注記以外は、平面(レリーフ)作品は縦×横(×d奥行)、立体作品は奥行×幅×高さ。
- * 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。
- * 出品作品のうち、No11,12,35,40は、12月8日から1月29日まで、No13,32,36,45,52は1月30日から3月24日まで展示。



大浦一志「杉並区阿佐ヶ谷南3丁目23-13〜普賢岳(川は水を必要としていた)」



神田日勝「画室D」

美術講演会

各分野の専門家を招いて、それぞれの展覧会に関連した内容の講演会を開催した。

時間＝午後2時～4時

場所＝当館講堂（聴講無料）

平成9年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	聴講人員
6月21日	エルヴィス：不滅のアメリカン・ヒーロー	前田絢子氏	フェリス女学院大学教授	マリリン・モンローとエルヴィス・プレスリー展	56人
8月9日	茶の湯の魅力	藤浦正行氏	MOA美術館学芸課長	茶の湯の美術 （おんな）	121人
10月4日	浮世絵における美人画の変遷－春信・清長・歌麿を中心として	杉本隆一氏	太田記念美術館学芸課長	浮世絵の中の美人たち	63人
10月25日	愛と幻想の画家シャガール	中山公男氏	群馬県立近代美術館長	マルク・シャガール展	56人

平成10年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	聴講人員
7月11日	明治版画の諸相	河野 実氏	町田市立国際版画美術館学芸係長	明治の浮世絵版画	43人
8月1日	現代日本画の歩みと特色	村木 明氏	美術評論家	現代日本画名品展	69人
8月8日	我が道を行く	関口雄輝氏	画家	現代日本画名品展	82人
9月19日	印象派の誕生－社会の中の芸術運動	浅野春男氏	沖縄県立芸術大学助教授	モネ、ルノワールと印象派の画家たち	94人
11月7日	フランス陶磁の旅	浅岡敬史氏	写真家	リモージュの輝き－磁器名品展－	52人

特別展セミナー

各展覧会に関係したテーマで当館の学芸員が解説を行った。

時間＝午後2時～3時

場所＝当館講堂（聴講無料）

平成9年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	聴講人員
5月31日、6月14日	アカデミズムの伝統と印象派の誕生	寺嶋弘道	当館学芸課長	ヨーロッパ・アカデミー絵画展	50人
7月5日、7月19日	ポップ・アートの巨匠たち	鎌田 享	当館学芸員	マリリン・モンローとエルヴィス・プレスリー展	30人
8月23日、9月6日	わび茶の美意識とモダニズム	平 利弘	当館学芸員	茶の湯の美術 （おんな）	152人
9月27日、10月11日	浮世絵に見る時事風俗	鎌田 享	当館学芸員	浮世絵の中の美人たち	34人
11月8日、11月22日	シャガールと聖書の物語	平 利弘	当館学芸員	マルク・シャガール展	52人

平成10年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	聴講人員
5月30日、6月6日	北海道美術とシンボリズム	平 利弘	当館学芸員	北海道はどう描かれてきたか	16人
7月4日、7月18日	明治浮世絵の変遷－小林清親を中心に	鎌田 享	当館学芸員	明治の浮世絵版画	24人
10月31日、11月28日	リモージュ窯とセーブル窯－宮殿を彩る卓上の美	寺嶋弘道	当館学芸課長	リモージュの輝き－磁器名品展－	25人

ミュージアム・カレッジ

美術についての基礎的な知識を学ぶことを目的に、ひとつのテーマにもとづいた鑑賞講座のほか、ビデオ・プログラムやワークショップも盛り込んだ6週連続の講座として実施した。

時間＝午後2時～3時30分

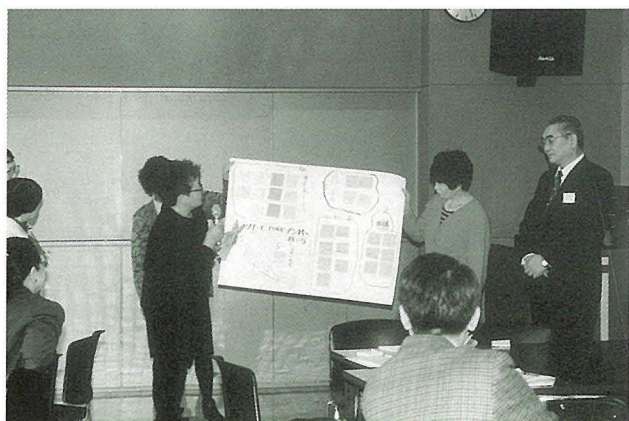
場所＝当館講堂、応募制（聴講無料）

平成9年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	聴講人員
2月7日	バルビゾン絵画紀行：ビデオ・プログラム「自然への情熱」「ミレー」			37人
2月14日	バルビゾン絵画紀行：大地と人間へのまなざし—ミレーの生涯と芸術	鎌田 享	当館学芸員	32人
2月21日	バルビゾン絵画紀行：バルビゾン派の先駆者—コローの世界	新明英仁氏	北海道立旭川美術館学芸課長	34人
2月28日	バルビゾン絵画紀行：バルビゾン派の七星—田園の画家たち	平 利弘	当館学芸員	30人
3月7日	バルビゾン絵画紀行：風景画の19世紀—バルビゾン派から印象派へ	寺嶋弘道	当館学芸課長	30人
3月14日	ワークショップ「私とバルビゾン派」			22人

平成10年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	聴講人員
2月6日	コレクション物語—空想美術館への誘い ：発掘・探検・プリントアート—帯広美術館の冒険物語	寺嶋弘道	当館学芸課長	29人
2月13日	コレクション物語—空想美術館への誘い ：森と平原のイメージ学—バルビゾン派と帯広美術館	平 利弘	当館学芸員	26人
2月20日	コレクション物語—空想美術館への誘い ：作品収集の底流にあるもの—コレクターズ・ソース	藤井 聖氏	デザイン・コーディネーター	27人
2月27日	コレクション物語—空想美術館への誘い ：自身へのまなざし—地域の美術と帯広美術館	鎌田 享	当館学芸員	26人
3月6日	コレクション物語—空想美術館への誘い ：美術収集のこころ—メタル・アート・ミュージアム物語	北詰栄男氏	美術収集家	25人
3月13日	ワークショップ「私の空想美術館」			24人



バルビゾン絵画紀行：ワークショップ



コレクション物語—空想美術館への誘い：ワークショップ

土曜映写室

主として各展覧会に関係のある内容の映画、ビデオ、LD等を上映した。

時間＝午後2時～

場所＝当館講堂（入場無料）

平成9年度

開催期日	上映作品	関連展覧会	入場人員
5月17日、5月24日	「ロマン派宣言」「リアリズムの道」	ヨーロッパ・アカデミー絵画展	23人
6月28日	「ジス・イズ・エルヴィス」「七年目の浮気」	マリリン・モンローとエルヴィス・プレスリー展	21人
8月16日	「千利休の茶」「境の思想」	茶の湯の美術	101人
12月13日、1月17日	「ジャワ更紗の隠れ里」	知られざるインド更紗展	57人
12月20日、1月24日	「ジャワ更紗ー伝統と現代」	知られざるインド更紗展	51人

平成10年度

開催期日	上映作品	関連展覧会	入場人員
4月11日、4月18日、 4月25日、5月2日	「ファーザー・クリスマス」「スノーマン」	イギリス絵本の世界展	310人
8月15日	「日本画の伝統と変革」 「日本の美ー日本人の原風景」	現代日本画名品展	22人
9月12日	「印象派の誕生ーモネ」	モネ、ルノワールと印象派の画家たち	40人
9月26日	「印象派の誕生ーモネ」 「光と色彩の讃歌ールノワール、ピサロ、シスレー」	モネ、ルノワールと印象派の画家たち	46人

トークショー

現代作家のワンマンショーに関連して、トークショーを開催した。

時間＝午後2時～4時

場所＝当館コレクション・ギャラリー（観覧料のみ）



森 弘志と語る

平成10年度

開催期日	演題	講師	講師所属（職業等）	関連展覧会	参加人員
10月17日	森 弘志と語る	森 弘志氏	画家	森 弘志展	58人

キッズ・ミュージアム

親子連れの家族を対象とした事業。子供たちのための造形教室を実施することにより、その間保護者に展覧会鑑賞の機会を提供した。当館ボランティアの協力により実施。

時間＝午後2時～4時

場所＝当館講堂（託児無料）



おり紙・きり紙・かた紙版画

平成9年度

開催期日	事業名	関連展覧会	参加人員
6月7日	スチロール版画に挑戦	ヨーロッパ・アカデミー絵画展	29人
7月26日	彩りいろいろ・コマ作り	マリリン・モンローとエルヴィス・プレスリー展	39人
8月30日	紙版画で遊ぼう	茶の湯の美術	36人
9月20日	おり紙・きり紙・かた紙版画	浮世絵の中の美人たち	21人
11月1日	シャガールでジグソーパズル	マルク・シャガール展	35人

平成10年度

開催期日	事業名	関連展覧会	参加人員
5月9日	彩りいろいろ・ちぎり絵作り	イギリス絵本の世界展	44人
5月23日	光をつかまえろ！透明大壁画に挑戦	北海道はどう描かれてきたか	16人
6月27日	おり紙・きり紙・かた紙版画	明治の浮世絵版画	20人
8月22日	手形・足形・からだでアート	現代日本画名品展	23人
9月5日	落ち葉を集めてプレス版画	モネ、ルノワールと印象派の画家たち	19人
10月24日	紙粘土で遊ぼう	リモージュの輝き ― 磁器名品展 ―	41人



手形・足形・からだでアート



光をつかまえろ！透明大壁画に挑戦

ミュージアム・ミステリー

小学校高学年、中学生を対象とした事業。展覧会の内容に関連し、ワークショップを中心にした鑑賞プログラムとして実施した。

時間＝午前10時～午後4時30分

場所＝当館講堂及びホール等、応募制



ミュージアム・ミステリー1997

平成9年度

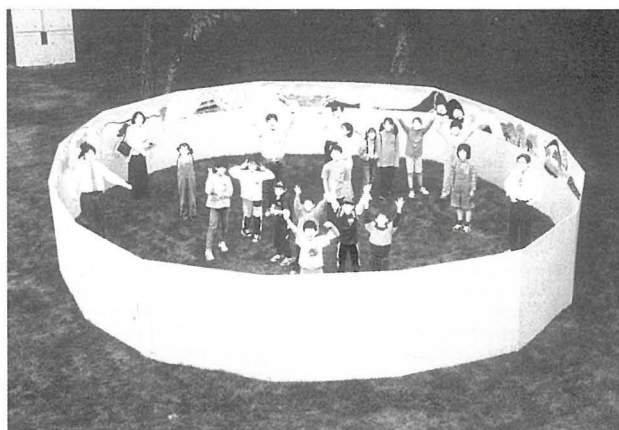
開催期日	事業名	内容	関連展覧会	参加人員
7月12日	ミュージアム・ミステリー1997 アメリカン・ポップの神話に挑戦	作品鑑賞： キミが審査員。グランプリはこれだ！ ワークショップ1： アートにキッス…。アイドル像の秘密にせまる。 ワークショップ2： マップを広げて、モンローウォーク。	マリリン・モンローと エルヴィス・プレスリー展	9人

平成10年度

開催期日	事業名	内容	関連展覧会	参加人員
6月13日	ミュージアム・ミステリー1998 発見！パノラマ・アート北海道	作品鑑賞： キミが選ぶ。なんでもグランプリ！ ワークショップ1： キミが作る！パノラマ・アート。 ワークショップ2： キミが探す！ほっかいどうアート・マップ。	北海道はどう描かれてきたか	15人



ミュージアム・ミステリー1998



ミュージアム・ミステリー1998

団体オリエンテーション

当館の概要と開催中の展覧会の内容を紹介するオリエンテーションを希望の団体に実施。

時間＝随時

場所＝当館講堂、申込制（無料）

平成9年度

事業名	内容	関連展覧会	実施回数	人数	備考
オリエンテーション	館概要と展覧会の紹介 (スライド使用)	帯広美術館コレクション選集	0回	0人	団体観覧者の希望 に応じ随時、実施。
		ヨーロッパ・アカデミー絵画展	20回	662人	
		マリリン・モンローと エルヴィス・プレスリー展	8回	283人	
		茶の湯の美術	11回	538人	
		浮世絵の中の美人たち	15回	862人	
		マルク・シャガール展	22回	1,228人	
		知られざるインド更紗展	1回	23人	
		自然の中の画家たち	7回	335人	

平成10年度

事業名	内容	関連展覧会	実施回数	人数	備考
オリエンテーション	館概要と展覧会の紹介 (スライド使用)	イギリス絵本の世界展	10回	718人	団体観覧者の希望 に応じ随時、実施。
		北海道はどう描かれてきたか	5回	112人	
		明治の浮世絵版画	8回	231人	
		現代日本画名品展	13回	362人	
		モネ、ルノワールと印象派の画家たち	24回	1,490人	
		リモージュの輝き－磁器名品展－	9回	254人	
		帯広美術館コレクション選集	4回	147人	

博物館実習

関係各大学の依頼により、学芸員資格取得希望者の学生を受け入れ実施した。

受け入れ条件として、地元出身者で美術（美学・美術史、美術教育、美術実技）を専攻し、なおかつ卒業後に博物館勤務を現に希望する学生であることを原則とした。

平成9年度

受入期間＝9月30日(火)～10月9日(木)

受入人数＝2名（沖縄県立芸術大学、金沢美術工芸大学）

実習日程

	午前10：00～12：00	午後1：00～4：30
9月30日(火)	○ガイダンス ○施設、展覧会見学	○講義「生涯学習時代の美術館」 ○講義「道立美術館概要」 ○視聴覚機器の取扱い実習
10月 1日(木)	○講義「美術館資料の収集保存」 ○講義「美術作品の収集」	○映像資料作成実習（スライド作成）
10月 2日(木)	○資料整理実習	○事業記録実習
10月 3日(金)	○講義「教育行政と美術館」 ○講義「印刷物の編集作成」	○印刷物作成実習 ○展示記録実習（記録写真、展示図面作成）
10月 4日(土)	○講義「展覧会の企画運営」 ○展覧会企画立案実習	○展覧会企画立案実習 ○教育普及事業実習（講演会準備、聴講）
10月 5日(日)	○博物館施設自主見学（神田日勝記念館）	
10月 6日(月)	休日	
10月 7日(火)	○展覧会企画立案実習	○展覧会企画立案実習
10月 8日(水)	○資料整理実習	○事業記録実習
10月 9日(木)	○団体オリエンテーション見学 ○ビデオ学習「美術作品の保存・取扱」	○展示室監視実習

平成10年度

受入期間＝10月14日(水)～10月23日(金)

受入人数＝1名（道都大学）

実習日程

	午前10：00～12：00	午後1：00～4：30
10月14日(水)	○ガイダンス ○施設見学 ○講義「道立美術館概要」	○講義「教育行政と美術館」 ○展示室自主見学
10月15日(木)	○講義「展覧会の企画運営」 ○講義「美術作品の収集」	○展示室監視実習
10月16日(金)	○講義「生涯学習時代の美術館」 ○資料整理実習（スライド）	○講義「美術館の広報活動について」 ○講義「美術館運営と予算の執行について」
10月17日(土)	○資料整理実習（図書）	○教育普及活動（トークショー）
10月18日(日)	○博物館施設自主見学（神田日勝記念館）	
10月19日(月)	休日	
10月20日(火)	○作品搬出作業見学	○印刷物の編集作成実習 ○講義「教育普及活動の概要」
10月21日(水)	○講義「美術館資料の収集保存」 ○資料整理実習（写真）	○団体オリエンテーション見学 ○視聴覚機器の取扱い実習 ○ビデオ学習「美術作品の保存・取扱」
10月22日(木)	○教育普及事業実習（講演会準備、聴講）	○展示記録実習（記録写真、展示図面作成）
10月23日(金)	○博物館施設自主見学（帯広百年記念館）	○博物館施設自主見学（児童会館） ○資料整理実習（スライド）

移動美術館

当館の所蔵品による移動美術展。地域住民の美術鑑賞の機会を拡充することを目的に、平成10年度より年1回道東エリアで開催することとした。

平成10年度

会期＝10月13日(火)ー10月18日(日)

主催＝北海道立帯広美術館、小清水町教育委員会

後援＝小清水町文化協会

関連事業

ビデオ映写会

「世界の美を訪ねてー風景画の世界」

「風景に人間を見る画家たちーコロー、ミレー、クールベ」

日時＝会期中毎日（10月13日を除く）午後2時、4時、6時

会場＝小清水町多目的研修集会施設視聴覚室



会場風景

展覧会名

〈移動美術館1998〉小清水展
北海道立帯広美術館コレクション50選

会場

小清水町多目的研修集会施設多目的ホール

入場者数

706人

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
◆バルビゾン派の絵画					
1	H.J.アルピニー	川辺の道	不詳	水彩、紙	23.9×33.7
2	A.アロンジュ	森の中	不詳	水彩、紙	53.5×75.7
3	J.B.C.コロー	イタリアの思い出	1863	エッチング、紙	29.5×22.0
4	Ch.E.ジャック	蹄鉄場	1865	エッチング、紙	12.8×19.3
5	J.デュブレ	水飲み場	19世紀後半	パステル、紙	80.0×98.8
6	A.ドゥフォー	農家の中庭	19世紀後半	油彩、キャンバス	40.0×68.0
7	Ch.F.ドービニー	羊の柵囲い	1860	エッチング、紙	18.4×34.3
8	C.トロワイヨン	牛のいる風景	不詳	油彩、キャンバス	80.6×99.7
9	J.R.ブラカサ	海辺の羊	不詳	油彩、キャンバス	49.0×65.0
10	F.L.フランセ	風景ー丘陵の牛	1859	パステル、紙	54.7×82.6
11	K.ボドメール	鹿の呼び声	不詳	油彩、キャンバス	101.0×81.0
12	K.ボドメール	鳥の水場	不詳	リトグラフ、紙	48.8×34.4
13	J.F.ミレー	耕す人	1855頃	エッチング、紙	24.0×34.0
14	J.F.ミレー	落穂ひろい	1855ー56	エッチング、紙	19.2×25.0
15	P.ユエ	フォンテーヌブロー付近	1866	エッチング、紙	19.3×28.0
16	P.ユエ	オージュ谷のノルマンディー人の家の庭	1866	エッチング、紙	9.5×14.0
17	E.A.ラヴィエイユ	村の眺め	不詳	油彩、板	32.8×56.0
18	L.リッシェ	農婦のいる風景	不詳	油彩、キャンバス	43.8×59.7
19	Th.ルソー	ピオーのサクランボの木	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	22.1×27.7
20	Th.ルソー	ピオーの平原	1848頃	クリシェ=ヴェール、紙	21.8×27.7
◆ヨーロッパのポスター					
21	P.コラン	ジョセフィン・ベイカー	1925	リトグラフ、紙	80.0×60.0
22	P.コラン	W公園	1935	リトグラフ、紙	80.0×60.0
23	J.G.ドメルグ	バゲーラ	1935	リトグラフ、紙	117.6×75.2
24	J.ドン	ジャヌ・マルニィ	1930	リトグラフ、紙	153.5×110.5
25	K.ファン・デル・ラーン	国立航空学校	1930頃	リトグラフ、紙	80.0×57.2
26	D.ブラン	バータ	1940頃	リトグラフ、紙	127.4×91.0
27	E.ベネール	アアラウ	1937頃	リトグラフ、紙	126.0×90.0
28	A.M.ミュシャ	タバコ巻紙「ジョブ」	1896	リトグラフ、紙	51.5×39.4

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)
29	A.M.ミュシャ	「メディア」ルネサンス座	1898	リトグラフ、紙	201.5×68.7
30	J.モレル	スペイン探訪	1941	リトグラフ、紙	98.6×60.8
31	H.ラメラ	カジノ、トゥルーヴィル=シュル=メール	1902	リトグラフ、紙	129.5×90.0
32	R.ランピット	コーンウォール	1920頃	リトグラフ、紙	100.0×123.5
33	ロピース	食前酒「トニ・コーラ」	1935	リトグラフ、紙	200.0×130.0
34	不詳	自動車「ベルリエ」	1926	リトグラフ、紙	138.0×95.0
35	不詳	シトロエンの在庫	1923	リトグラフ、紙	156.0×116.0

◆道東の美術

36	阿部貞夫	くまげらと摩周	1958 (昭和33)	木版、紙	37.9×27.0
37	池田良二	Reaching the cape (岬への到着)	1988 (昭和63)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、 ドライポイント、メゾチント、手漉き雁皮	57.0×84.6
38	神田日勝	画室D	1967 (昭和42)	油彩、板	163.3×183.0
39	渋谷栄一	ある女	1968 (昭和43)	エッチング、シュガーアクアチント、紙	60.0×36.5
40	多賀 新	魚No17 (シーラカンス)	1979 (昭和54)	エッチング、アクアチント、紙	36.5×60.0
41	竹山義雄	早春山野	1978 (昭和53)	油彩、キャンバス	130.6×162.0
42	手島圭三郎	しまふくろう・冬	1985 (昭和60)	木版、紙	53.0×75.0
43	寺島春雄	赤の原野	1959 (昭和34)	油彩、キャンバス	131.3×194.3
44	富谷道信	アデラの記憶	1980 (昭和55)	木	115.0×30.0×50.0
45	中江紀洋	H A H A (祈り)	1994 (平成6)	スプルース、金属	91.5×107.0×156.0
46	長尾栄三	晩秋の高原	1979 (昭和54)	油彩、キャンバス	130.3×161.8
47	能勢真美	樹草	1973 (昭和48)	油彩、キャンバス	97.0×145.5
48	増田 誠	公園	1967-68 (昭和42-43)	油彩、キャンバス	37.9×45.5
49	望月正男	落日	1977 (昭和52)	油彩、キャンバス	112.1×145.5
50	矢柳 剛	海…そして今は (No.2)	1975 (昭和50)	油彩、アクリリック、キャンバス	162.3×130.5

* 寸法は立体作品は奥行×幅×高さ。平面作品は縦×横。

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵。

その他

「茶の湯の美術」展に関連して、茶席コーナーを設置。各流派の協力により実施した。

時間＝午前11時～午後4時（8月9日は午後1時～午後4時）

場所＝当館ロビー

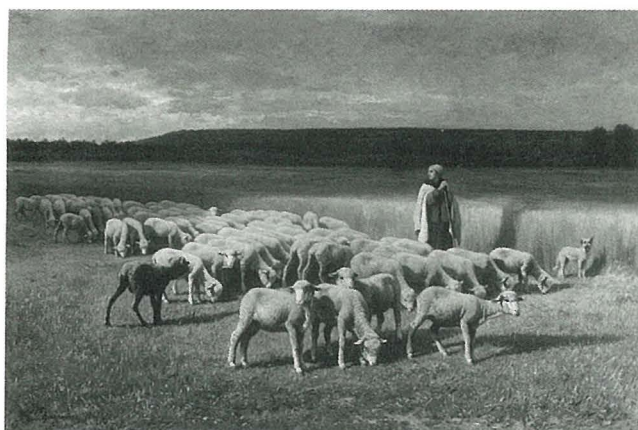


開催期日	事業名	協力会派等	関連展覧会	参加人員
平成9年8月9日(土)、10日(日)	お茶席	MOA美術文化財団道東支部	茶の湯の美術	444人
8月12日(火)、13日(水)		表千家同門会帯広地区		223人
8月19日(火)		肥後古流		171人
8月20日(水)		武者小路千家		245人
8月23日(土)、24日(日)		MOA美術文化財団道東支部		790人
8月26日(火)、27日(水)		宗徧流帯広支部		319人
8月30日(土)、31日		MOA美術文化財団道東支部		710人
9月2日(火)、3日(水)		裏千家淡交会帯広支部		485人
9月6日(土)		MOA美術文化財団道東支部		293人

美術作品の収集

平成9年度 作品収集状況

区 分	前年度末 作品収蔵数	平成9年度収集数				作 品 総 数	受 託 作 品		
		購 入	受 贈	委託制作	計		前年度末	平成9年度	計
油 彩	48 (10.2%)	0	1	0	1	49 (10.2%)	29	0	29
日 本 画	5 (1.1%)	0	0	0	0	5 (1.0%)	1	0	1
水 彩・素 描	20 (4.3%)	0	1	0	1	21 (4.4%)	10	0	10
版 画	174 (37.2%)	2	3	0	5	179 (37.1%)	1	0	1
彫 塑	6 (1.3%)	0	0	0	0	6 (1.2%)	1	0	1
工 芸	0 (0%)	0	0	0	0	0 (0%)	0	0	0
デ ザ イ ン	212 (45.3%)	3	0	0	3	215 (44.6%)	0	0	0
写 真	3 (0.6%)	3	1	0	4	7 (1.5%)	0	0	0
合 計	468 (100%)	8	6	0	14	482 (100%)	42	0	42



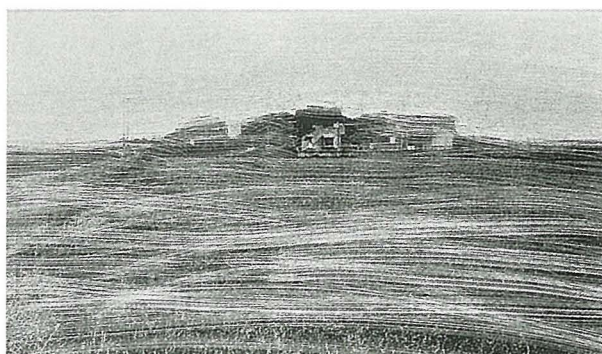
シェンヨー「草原の羊飼いの少女と羊の群れ」



デュプレ「水飲み場」



磯辺行久「江戸障壁」



長谷川哲「HOME 1997-2」

購入

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
97007	版画	磯辺行久	江戸障壁	1965	ミクストメディア、紙	200.2×299.0
97008	版画	R.リクテンスタイン	睡蓮と雲	1992	シルクスクリーン、ステンレス	167.6×114.3
97009	デザイン	A.M.ミュシャ	「ロレンザッチョ」ルネサンス座	1897	リトグラフ、紙	97.5× 35.9
97010	デザイン	A.M.ミュシャ	タバコ巻紙「ジョブ」	1896	リトグラフ、紙	51.5× 39.4
97011	デザイン	A.M.ミュシャ	「メディア」ルネサンス座	1898	リトグラフ、紙	201.5× 68.7
97012	写真	長谷川哲	HOME 1997-2	1997 (平成9)	写真、印画紙	86.3×148.5
97013	写真	森村泰昌	寒雀寒鳩 (御舟)	1990 (平成2)	カラー写真プリント	132.9× 97.8
97014	写真	森村泰昌	野菜涅槃 (若沖)	1990 (平成2)	カラー写真プリント	185.3×100.1

受贈

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
97001	油 彩	J.F.シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	油彩、キャンバス	65.4×100.4
97002	水彩・素描	J.デュブレ	水飲み場	19世紀後半	パステル、紙	80.0× 98.8
97003	版 画	J.F.シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	エッチング、紙	19.8× 30.7
97004	版 画	Ch.E. ジャック	水飲み場、豚飼いの少年	19世紀後半	エッチング、紙	14.5×22.0, 11.5×17.7
97005	版 画	太田三郎	Seed Project	1992-95(平成4-7)	和紙、種子	20.4× 11.7 他
			-1 マメグンバイナズナ <i>Lepidium virginicu</i> L. 1992年8月6日香川県小豆島寒露			
			-2 ナナカマド <i>Sorbus commixta</i> Hedl. 1992年12月30日北海道小樽市幸			
			-3 クジャクソウ <i>Tagestes</i> 1993年6月4日東京都中央区築地			
			-4 イヌムギ <i>Bromus catharticus</i> Vahl. 1993年6月12日東京都練馬区北町			
			-5 ヤマノイモ <i>Dioscorea japonica</i> Thumb. 1993年11月3日東京都練馬区北町			
			-6 センダングサ <i>Bidens biternata</i> Merr.et Sherff. 1993年12月11日東京都練馬区高松			
			-7 シロバナタンポポ <i>Taraxacum albidum</i> Dahlst. 1994年4月24日岡山県津山市北園町			
			-8 チカラシバ <i>Pennisetum alopecuroides</i> Spreng. 1994年10月14日岡山県津山市山北			
			-9 ツワブキ <i>Farfugium japonicum</i> Kitam. 1995年1月3日岡山県津山市北園町			
			-10 ヘリクリサム <i>Helichrysum bracteatum</i> 1995年7月26日山形県山形市霞城公園			
97006	写 真	D.ホックニー	京都 1993年4月24日	1993	カラー・レザー・プリント、紙	43.2×160.2

* 寸法は縦×横。



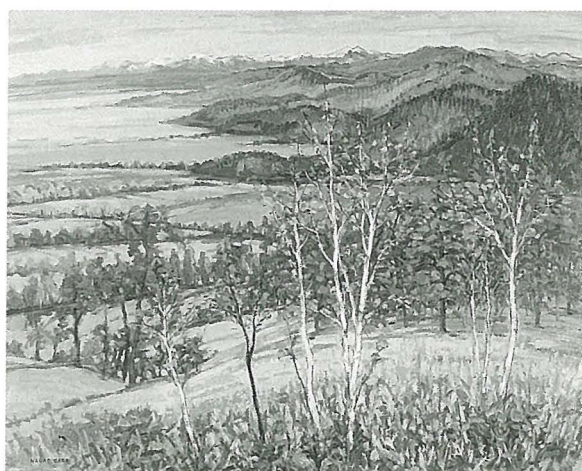
ミュシャ『「メディア」ルネサンス座』



森村泰昌『野菜涅槃 (若沖)』

平成10年度 作品収集状況

区 分	前年度末 作品収蔵数	平成10年度収集数				作 品 総 数	受 託 作 品		
		購 入	受 贈	委託制作	計		前年度末	平成10年度	計
油 彩	49 (10.2%)	3	0	0	3	52 (10.6%)	29	0	29
日 本 画	5 (1.0%)	2	0	0	2	7 (1.4%)	1	0	1
水 彩 ・ 素 描	21 (4.4%)	0	0	0	0	21 (4.3%)	10	0	10
版 画	179 (37.1%)	1	0	0	1	180 (36.7%)	1	0	1
彫 塑	6 (1.2%)	0	0	0	0	6 (1.2%)	1	0	1
工 芸	0 (0%)	1	0	0	1	1 (0.2%)	0	0	0
デ ザ イ ン	215 (44.6%)	2	0	0	2	217 (44.2%)	0	0	0
写 真	7 (1.5%)	0	0	0	0	7 (1.4%)	0	0	0
合 計	482 (100%)	9	0	0	9	491 (100%)	42	0	42



長尾栄三「晩秋の高原」

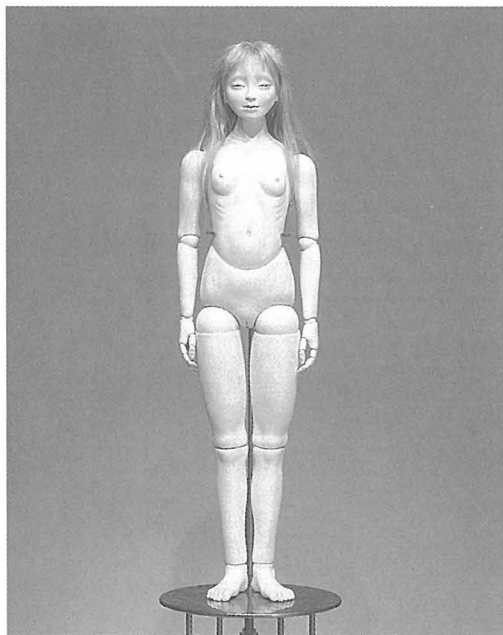


小林満枝「叢原」

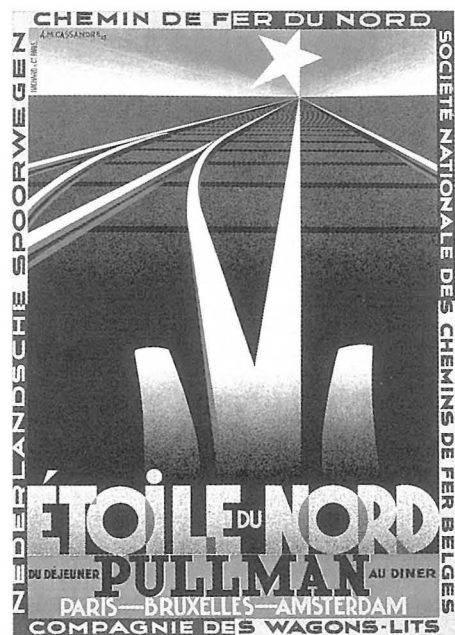
購入

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
98001	油 彩	長尾栄三	晩秋の高原	1979 (昭和54)	油彩、キャンバス	130.3×161.8
98002	油 彩	村元俊郎	セニョリータ	1991 (平成3)	油彩、キャンバス	130.5×162.0
98003	油 彩	森 弘志	それ、普通	1994-95 (平成6-7)	油彩、キャンバス	162.4×162.2
98004	日本画	小林満枝	叢原	1985 (昭和60)	紙本彩色	112.0×145.4
98005	日本画	小林満枝	春夕焼Ⅱ	1991 (平成3)	紙本彩色	116.7× 80.3
98006	版 画	長はるこ	B-cushion	1998 (平成10)	スクアナグラフ (NECO)、和紙	153.1×211.2
98007	工 芸	伽井丹彌	人形譚	1996 (平成8)	桐塑、アクリリック	高さ 110.5
98008	デザイン	カッサンドル	北極星号—フランス北部鉄道	1927	リトグラフ、紙	105.7× 75.4
98009	デザイン	カッサンドル	ノルマンディー号—トランサトランティク総合会社	1935	リトグラフ、紙	96.7× 58.6

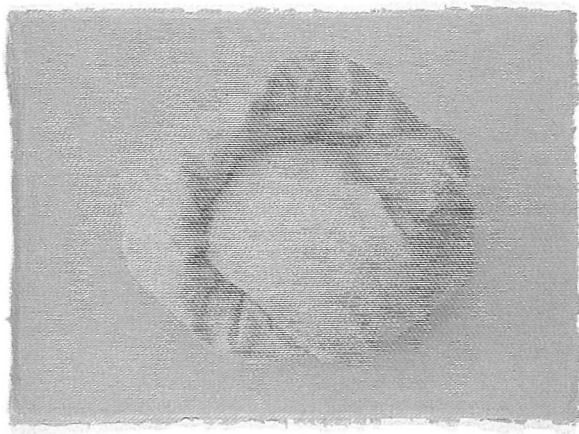
* 寸法は注記以外は縦×横。



伽井丹彌「人形譚」



カッサンドル「北極星号—フランス北部鉄道」



長はるこ「B-cushion」



森 弘志「それ、普通」

美術作品の貸出

平成9年度

分野	作家名	作品名	貸出先	貸出期間	目的
デザイン	E.グラッセ 他	あんず酒「アプリコティース」 他 99点*	株式会社谷口事務所	平成 9年 4月 1日 } 平成11年 1月19日	「黄金時代のポスター芸術」展出品 (ナビオ美術館、石川県七尾美術館、 高崎市美術館、岡崎市美術館、 新潟市美術館、田辺市立美術館、 徳島県立近代美術館、静岡アートギャラリー)
デザイン	G.ベルニ R.ショピィ P.コラン J.ドン H.ララメ V.ギイエ A.シュープラク Ch.ジル 不詳 不詳	最高級浄水器 ブランシュ・ノレル ジョセフィン・ベイカー ジャヌ・マルニィ カジノ、トゥルーヴィル=シュル=メール 「パリ水族館」1900年万国博覧会 トゥルーヴィルのカジノ レオ・マドレーヌ オペラ座の舞踏会 液体ワックス	北海道立近代美術館	平成 9年 5月15日 } 平成 9年 8月19日	「パリの女神たちーベル・エポックの女性像」展出品 (北海道立近代美術館)
油彩	福井正治	サーカスの祭り 北方村落 A	帯広百年記念館	平成 9年 7月 8日 } 平成 9年 7月23日	「福井正治作品展」出品 (帯広百年記念館)
油彩	寺島春雄 橋原武正	赤の原野 大地／開墾 '93-A	北海道立近代美術館	平成 9年 8月19日 }	「北方の形像」展出品 (北海道立近代美術館)
版画	池田良二	Space of foggy ocean (海霧の空間)		平成 9年11月27日	
油彩	能勢眞美	池畔雪景	北海道立三岸好太郎美術館	平成 9年10月 3日 } 平成 9年12月 7日	「抒情の街・札幌ー三岸好太郎と札幌の画家たち」展出品 (北海道立三岸好太郎美術館)
写真	森村泰昌	野菜涅槃 (若沖)	北海道立近代美術館 北海道立旭川美術館	平成 9年12月 4日 } 平成10年 5月12日	「A★MUSE★LAND'98」展出品 (北海道立近代美術館、北海道立旭川美術館)
油彩	神田日勝	瘦馬 画室 D 画室 E 人と牛 B	練馬区立美術館	平成10年 1月28日 } 平成10年 3月25日	「神田日勝 深井克美 展」出品 (練馬区立美術館)

*印の作品は「黄金時代のポスター芸術」展(平成9年1月18日～平成9年2月16日、当館開催)出品作品に同じ。平成7-8年度年報P.81～85を参照。

平成10年度

分野	作家名	作品名	貸出先	貸出期間	目的
デザイン	A.ブルネ	フランスへ、シャルジュール・レユニ海運会社で (オペラ座)	北海道立近代美術館	平成10年 5月12日 }	「パリ・コレクションー花咲く都市の夢」展出品 (北海道立近代美術館)
	A.ブルネ	フランスへ、シャルジュール・レユニ海運会社で (エッフェル塔)		平成10年 9月 9日	
	J.シェレ	「スコットランドの王位」ヴァリエテ座			
	J.コクトー	オルフェの遺言			
	P.コラン	ジョセフィン・ベイカー			
	J.G.ドメルグ	仮面舞踏会 (文字刷り前のポスター)			
	J.G.ドメルグ	バゲーラ			
	J.ドン	ジャヌ・マルニィ			
	A.M.ミュシャ	タバコ巻紙「ジョブ」			
	A.M.ミュシャ	「メディア」ルネサンス劇場			
	不詳	脱毛防止剤「ベルテュイジース」			
	不詳	コニャック「モンタンゴン」			
	不詳	シトロエンの在庫			
	不詳	自動車「ビュイール」			
	不詳	キナ入りワイン「スマルト」を一杯どうぞ			

分野	作家名	作品名	貸出先	貸出期間	目的
油彩	神田日勝	瘦馬 画室 E	神田日勝記念館	平成10年 6月10日 }	「室内風景への軌跡」展出品 (神田日勝記念館)
油彩	能勢眞美	自画像	帯広百年記念館	平成10年 9月17日 平成10年 6月25日 } 平成10年 7月10日	「能勢眞美展」出品 (帯広百年記念館)
油彩	L.シャブリ J.F.シェニョー Ch.E.ジャック	牧場と木々 草原の羊飼いの少女と羊の群れ 森の中の羊飼いと羊の群れ	山梨県立美術館	平成10年 8月26日 } 平成10年12月11日	「自然に帰れーミレーと農民画の伝統」展出品 (山梨県立美術館)
油彩	寺島春雄	赤の原野	北海道立近代美術館	平成10年12月18日 } 平成10年 2月 5日	「A★MUSE★LAND'99」展出品 (北海道立近代美術館)

特別観覧

平成9年度

内 訳	撮 影					複 写	熟 覧	原版使用	そ の 他	合 計
	研 究	展 示	出 版	放 送	上 映					
件 数	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10

平成10年度

内 訳	撮 影					複 写	熟 覧	原版使用	そ の 他	合 計
	研 究	展 示	出 版	放 送	上 映					
件 数	0	0	1	0	0	0	0	7	0	8

名 簿

北海道立帯広美術館協議会委員名簿（平成11年3月31日現在）

役職名	氏 名	現 職
会長	中谷 有逸	美術家
副会長	早坂 隆治	帯広商工会議所専務理事
委員	朝日 照夫	前帯広市PTA連合会会長（株式会社朝日 取締役部長）
委員	足立あつ子	釧路市女性団体協議会会長
委員	安藤孝次郎	北海道立近代美術館副館長
委員	加賀谷裕美	帯広市教育委員会教育委員長
委員	蒲澤 光子	根室市女性のつどい協議会会長
委員	須賀 誠	前帯広市小中学校長連合会会長（前帯広市立光南小学校長）
委員	鈴木 武昭	網走管内教育委員会連絡協議会教育長部会長（女満別町教育委員会教育長）
委員	高橋 兼夫	釧路管内教育委員会連絡協議会教育長部会長（阿寒町教育委員会教育長）
委員	中田 和子	帯広市婦人団体連絡協議会会長
委員	和田 智秋	前十勝管内教育委員会連絡協議会教育長部会長（前更別村教育委員会教育長）

*委員の任期は平成9年6月27日から平成11年6月26日まで。

北海道立帯広美術館職員名簿

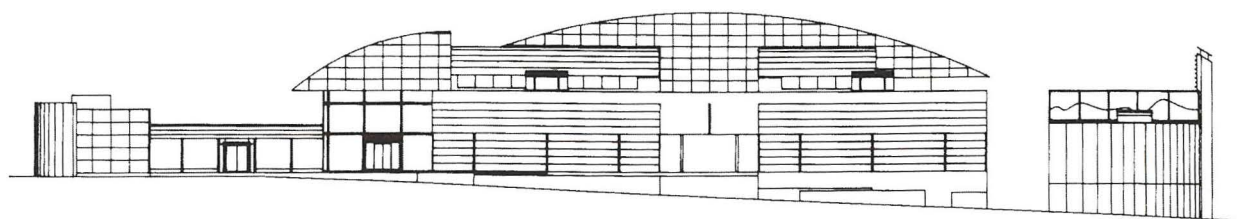
平成9年度（平成10年3月31日現在）

職 名	氏 名	発令年月日
館長（非常勤）	長谷川吉廣	平成9年4月1日
副館長	中村 純子	平成9年6月1日
管理課長	渡邊 正敏	平成8年4月1日
主査	武市 郁則	平成7年4月1日
主事	原田 尚樹	平成9年8月1日
学芸課長	寺嶋 弘道	平成3年4月1日
学芸員	平 利弘	平成8年4月1日
学芸員	鎌田 享	平成7年4月1日
主事（非常勤）	伊藤 昭子	平成9年9月1日
主事（非常勤）	甲斐千香子	平成3年9月1日
主事（非常勤）	菊地 美雪	平成7年4月1日
主事（非常勤）	須貝 恵	平成3年9月1日
主事（非常勤）	高田 佳子	平成9年11月1日
主事（非常勤）	冷水 聖子	平成8年4月1日
主事（非常勤）	森田 幸子	平成7年2月1日

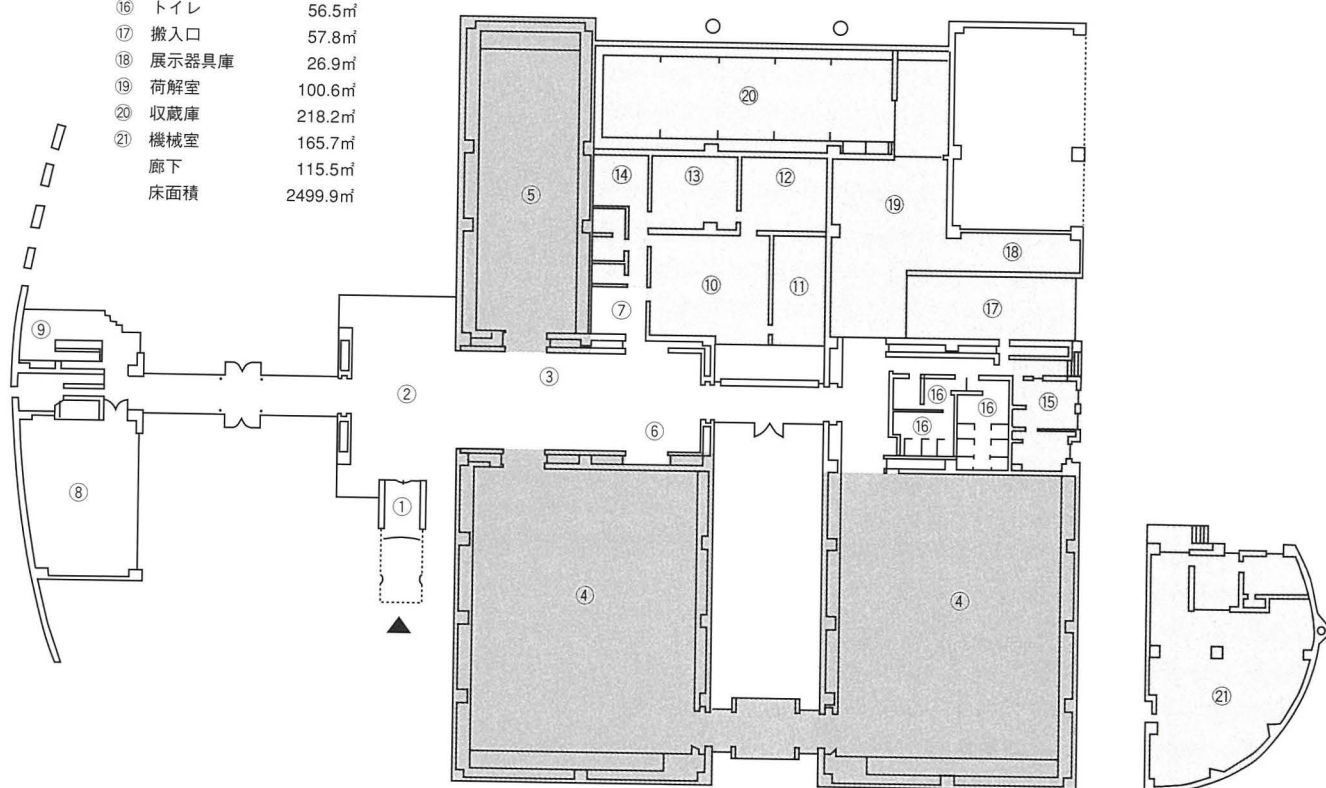
平成10年度（平成11年3月31日現在）

職 名	氏 名	発令年月日
館長（非常勤）	長谷川吉廣	平成9年4月1日
副館長	中村 純子	平成9年6月1日
管理課長	渡邊 正敏	平成8年4月1日
主査	猪口 達也	平成10年4月1日
主事	原田 尚樹	平成9年8月1日
学芸課長	寺嶋 弘道	平成3年4月1日
学芸員	平 利弘	平成8年4月1日
学芸員	鎌田 享	平成7年4月1日
主事（非常勤）	伊藤 昭子	平成9年9月1日
主事（非常勤）	甲斐千香子	平成3年9月1日
主事（非常勤）	菊地 美雪	平成7年4月1日
主事（非常勤）	須貝 恵	平成3年9月1日
主事（非常勤）	高田 佳子	平成9年11月1日
主事（非常勤）	冷水 聖子	平成8年4月1日
主事（非常勤）	森田 幸子	平成7年2月1日

館内案内図



① 風除室	12.1㎡
② ロビー	123.1㎡
③ ホール	209.9㎡
④ 主展示室	841.9㎡
⑤ 常設展示室	209.5㎡
⑥ 売店	
⑦ ロッカー室	5.3㎡
⑧ 講堂	98.4㎡
⑨ 喫茶コーナー	36.7㎡
⑩ 事務室	72.3㎡
⑪ 館長室	32.9㎡
⑫ 資料室	36.0㎡
⑬ 会議室	35.7㎡
⑭ 準備室	14.7㎡
⑮ 管理室	30.2㎡
⑯ トイレ	56.5㎡
⑰ 搬入口	57.8㎡
⑱ 展示器具庫	26.9㎡
⑲ 荷解室	100.6㎡
⑳ 収蔵庫	218.2㎡
㉑ 機械室	165.7㎡
廊下	115.5㎡
床面積	2499.9㎡



展示部門
 管理・事務部門

建築概要

●位 置	帯広市緑ヶ丘2番地1
●構 想 設 計	アトリエアク（公開設計競技最優秀）
●基 本 設 計	アトリエアク・太洋共同企業体
●実 施 設 計	アク・日本設計・谷津共同企業体
●工事施工者	
建 築	宮坂・萩原・曾根・市川・大道共同企業体（1、2期）
電 気 設 備	相互電業(株)（1期）
空 調 和 衛 生 設 備	森設備工業(株)（1期）
電 力 設 備	相互・柴野・誠和・テーテス・長島共同企業体（2期）
通 信 設 備	北口・アサヒ・振興・扶桑・樋口共同企業体（2期）
衛 生 設 備	フジ・梶山・中林共同企業体（2期）
空 調 和 設 備	森・三洋・勝平・道東・浅岡共同企業体（2期）
●総 工 事 費	約13億4千700万円
●工 期	起工 平成元年10月9日 竣工 平成3年3月25日
●敷 地 面 積	7,000㎡
●建 物 面 積	建面積 2,499,99㎡ 延面積 3,521,60㎡
●構 造 概 要	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
●仕 上	
〔外 装〕	
外 壁	大理石（ライムストーン） コンクリート打放し小叩仕上 アルミパネル
屋 根	アルミ垂鉛メッキ銅板葺
屋 上	露出アスファルト防水トップコート仕上
〔内 装〕	
ロビー・ホール床	テラゾーブロック
主展示室床	フローリング
常設展示室床	タイルカーペット
ロビー・ホール壁	大理石（ライムストーン） 合成樹脂系軽量骨材吹付
展 示 室 壁	石膏ボード 一部ラワンベニア下地クロスEP仕上
ロビー・ホール天井	合成樹脂系軽量骨材吹付
展示室天井	岩綿吸音板EP仕上

設備概要

●電 気 設 備	
受変電設備	受電電圧 6.6KV 変圧器容量 450KVA
非常電源設備	ディーゼル機関123PS 3,000RPH 発電機 98KVA 3相 200V
動力設備	防災用動力 排煙機 11KW×3 消火ポンプ5.5KW×1
電灯設備	展示室 壁面照明 退色防止蛍光灯（調光式） ロビー 間接照明 蛍光灯 講 堂 ワイヤメッシュ天井内埋込蛍光灯
電話設備	電子ボタン電話
放送設備	防災一般兼用アンプ160W
テレビ共聴設備	OCTV（帯広ケーブルTV）による共聴
火災報知設備	P1級受信機
視聴覚設備	上降式ビデオプロジェクター 1式 音声・映像ラック 1式 映写設備（16mmフィルム、35mmスライド） 1式
●機 械 設 備	
空気調和設備	
設定温湿度	
常設展示室、主展示室	
夏	24℃（21～25℃）55%（50～60%）
冬	23℃（21～24℃）50%（45～55%）
収蔵庫、展示ケース	
年間	22℃（20～24℃）55%（40～60%）
*（ ）内は可変調整範囲、設定精度は温度±1℃ 湿度±3%	
熱源機器	
冷空チリングユニット	冷却能力 240,000Kcal/H
吸収式冷温水発生機	冷却能力 100USRT 暖房能力 253,000Kcal/H
温 水 機	暖房能力 500,000Kcal/H
空気調和機	
主展示室	2系統
常設展示室、荷解室	1系統
展示ケース	1系統
収蔵庫	1系統
ロビー、ホール	1系統
管理諸室	1系統
衛生設備	
給水設備	市水道使用
排水設備	市下水道放流
給湯設備	電気温水機
消火設備	屋内消火栓設備、ハロン消火設備



沿革

昭和62年 7 月	道東地域道立地方美術館設置調査費計上
昭和63年 2 月	帯広市への道立地方美術館設置を決定
昭和63年 4 月	北海道立帯広美術館設置基本構想策定
昭和63年 5 月	北海道立帯広美術館構想設計競技実施
昭和63年10月	北海道立帯広美術館構想設計競技入選作品決定
平成元年 3 月	北海道立帯広美術館基本設計完了
平成元年 8 月	北海道立帯広美術館実施設計完了
平成元年10月	北海道立帯広美術館建設工事着工
平成 3 年 3 月	北海道立帯広美術館建設工事竣工
平成 3 年 4 月	北海道立美術館条例の一部改正により、北海道立帯広美術館設置 北海道立帯広美術館職員を発令、組織発足 初代館長、室田浩志発令
平成 3 年 9 月	北海道立帯広美術館落成、開館記念式、屋外彫刻除幕（平成 3 年 9 月21日） 一般公開（平成 3 年 9 月22日）
平成 4 年 5 月	日本建築学会北海道支部第17回北海道建築賞受賞（平成 4 年5月21日授賞式）
平成 4 年 6 月	照明学会照明普及賞受賞（平成 4 年 6 月18日授賞式）
平成 4 年12月	第9回帯広市都市景観賞受賞（建物）（平成 4 年12月 4 日授賞式）
平成 6 年 4 月	第 2 代館長、阿部皎発令
平成 7 年12月	公共建築賞北海道優秀賞受賞（平成 7 年12月 7 日授賞式）
平成 9 年 4 月	第 3 代館長、長谷川吉廣発令

観覧者数一覧

平成9年度

展 覧 会 名	会 期 (開催日数)	観覧者数 A = D + E (1日当たり)	個 人				団 体 / 前 売				有料観覧者計 D = B + C (/ A)	無料免除招待 E (/ A)
			一 般 (/ B)	高大生 (/ B)	小中生 (/ B)	計 B (/ A)	一 般 (/ C)	高大生 (/ C)	小中生 (/ C)	計 C (/ A)		
コレクション・ギャラリー	4/5~3/29 (258日)	19,865人 (77人)	8,307人 (95.8%)	404人 (4.2%)		9,711人 (48.9%)	1,212人 (85.4%)	207人 (14.6%)		1,419人 (7.1%)	11,130人 (56.0%)	8,735人 (44.0%)
特 別 展	帯広美術館コレク ション選集	4/5~5/5 (27日)	1,951人 (72人)	1,606人 (96.9%)	52人 (3.1%)	1,658人 (85.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)		0人 (0.0%)	1,658人 (85.0%)	293人 (15.0%)
	ヨーロッパ・アカ デミー絵画展	5/13~6/15 (30日)	8,861人 (295人)	4,136人 (92.1%)	153人 (3.4%)	4,491人 (50.7%)	1,519人 (57.3%)	74人 (2.8%)	1,057人 (39.9%)	2,650人 (29.9%)	7,141人 (80.6%)	1,720人 (19.4%)
	マリリン・モンローと エルヴィス・プレスリー展	6/21~7/31 (34日)	3,838人 (113人)	2,037人 (91.1%)	113人 (5.1%)	2,237人 (58.3%)	330人 (43.5%)	11人 (1.5%)	417人 (55.0%)	758人 (19.7%)	2,995人 (78.0%)	843人 (22.0%)
	茶の湯の美術	8/9~9/7 (26日)	20,739人 (798人)	4,204人 (89.3%)	192人 (4.1%)	4,710人 (22.7%)	12,629人 (91.0%)	182人 (1.3%)	1,060人 (7.6%)	13,871人 (66.9%)	18,581人 (89.6%)	2,158人 (10.4%)
	浮世絵の中の美人たち おんな	9/15~10/16 (27日)	4,735人 (175人)	2,146人 (93.7%)	75人 (3.3%)	2,291人 (48.4%)	596人 (48.0%)	12人 (1.0%)	634人 (51.0%)	1,242人 (26.2%)	3,533人 (74.6%)	1,202人 (25.4%)
	マルク・シャガール展	10/25~12/7 (37日)	9,380人 (254人)	4,565人 (87.8%)	345人 (6.6%)	5,198人 (55.4%)	872人 (34.8%)	183人 (7.3%)	1,451人 (57.9%)	2,506人 (26.7%)	7,704人 (82.1%)	1,676人 (17.9%)
	知られざるインド更紗展	12/13~1/25 (29日)	2,144人 (74人)	1,168人 (91.3%)	70人 (5.5%)	1,279人 (59.7%)	49人 (59.0%)	12人 (14.5%)	22人 (26.5%)	83人 (3.9%)	1,362人 (63.5%)	782人 (36.5%)
	自然の中の画家たち	1/31~3/29 (48日)	2,863人 (60人)	1,430人 (93.9%)	93人 (6.1%)	1,523人 (53.2%)	93人 (100.0%)	0人 (0.0%)		93人 (3.2%)	1,616人 (56.4%)	1,247人 (43.6%)
	計	8回 (258日)	54,511人 (211人)	21,292人 (91.0%)	1,093人 (4.7%)	23,387人 (42.9%)	16,088人 (75.9%)	474人 (2.2%)	4,641人 (21.9%)	21,203人 (38.9%)	44,590人 (81.8%)	9,921人 (18.2%)
計 [コレクション・ギャラリー+特別展]	9回 (516日)	74,376人 (144人)	30,599人 (92.4%)	1,497人 (4.5%)	1,002人 (3.0%)	33,098人 (44.5%)	17,300人 (76.5%)	681人 (3.0%)	4,641人 (20.5%)	22,622人 (30.4%)	55,720人 (74.9%)	18,656人 (25.1%)
貸 館	(0日)											
合 計	9回 (516日)	74,376人 (144人)	30,599人 (92.4%)	1,497人 (4.5%)	1,002人 (3.0%)	33,098人 (44.5%)	17,300人 (76.5%)	681人 (3.0%)	4,641人 (20.5%)	22,622人 (30.4%)	55,720人 (74.9%)	18,656人 (25.1%)

平成10年度

展 覧 会 名		会 期 (開催日数)	観覧者数 A = D + E (1日当たり)	個 人				団 体 / 前 売				有料観覧者計 D = B + C (/ A)	無料免除招待 E (/ A)
				一 般 (/ B)	高大生 (/ B)	小中生 (/ B)	計 B (/ A)	一 般 (/ C)	高大生 (/ C)	小中生 (/ C)	計 C (/ A)		
コレクション・ギャラリー		4/10～3/24 (242日)	17,867人 (74人)	7,576人 (96.0%)	318人 (4.0%)		7,894人 (44.2%)	886人 (92.3%)	74人 (7.7%)		960人 (5.4%)	8,854人 (49.6%)	9,013人 (50.4%)
特 別 展	イギリス絵本の世界展	4/10～5/13 (29日)	8,067人 (278人)	4,651人 (82.4%)	356人 (6.3%)	640人 (11.3%)	5,647人 (70.0%)	60人 (4.8%)	84人 (6.7%)	1,107人 (88.5%)	1,251人 (15.5%)	6,898人 (85.5%)	1,169人 (14.5%)
	北海道はどう描かれてきたか	5/22～6/17 (23日)	2,007人 (87人)	1,100人 (94.8%)	23人 (2.0%)	37人 (3.2%)	1,160人 (57.8%)	174人 (77.3%)	0人 (0.0%)	51人 (22.7%)	225人 (11.2%)	1,385人 (69.0%)	622人 (31.0%)
	明治の浮世絵版画	6/26～7/22 (23日)	2,198人 (96人)	1,064人 (93.5%)	37人 (3.3%)	37人 (3.3%)	1,138人 (51.8%)	118人 (33.1%)	0人 (0.0%)	238人 (66.9%)	356人 (16.2%)	1,494人 (68.0%)	704人 (32.0%)
	現代日本画名品展	7/31～8/26 (23日)	7,692人 (334人)	2,744人 (87.7%)	160人 (5.1%)	226人 (7.2%)	3,130人 (40.7%)	2,837人 (93.2%)	22人 (0.7%)	185人 (6.1%)	3,044人 (39.6%)	6,174人 (80.3%)	1,518人 (19.7%)
	モネ、ルノワールと印象派の画家たち	9/4～10/2 (25日)	10,699人 (428人)	5,746人 (90.6%)	301人 (4.7%)	295人 (4.7%)	6,342人 (59.3%)	652人 (23.9%)	3人 (0.1%)	2,078人 (76.0%)	2,733人 (25.5%)	9,075人 (84.8%)	1,624人 (15.2%)
	リモージュの輝き —磁器名品展—	10/9～12/2 (46日)	6,878人 (150人)	3,255人 (95.1%)	73人 (2.1%)	96人 (2.8%)	3,424人 (49.8%)	1,457人 (76.3%)	53人 (2.8%)	400人 (20.9%)	1,910人 (27.8%)	5,334人 (77.6%)	1,544人 (22.4%)
	帯広美術館コレク ション選集	12/18～3/24 (73日)	1,924人 (26人)	1,299人 (95.9%)	55人 (4.1%)		1,354人 (70.4%)	40人 (100.0%)	0人 (0.0%)		40人 (2.1%)	1,394人 (72.5%)	530人 (27.5%)
	計	7回 (242日)	39,465人 (163人)	19,859人 (89.5%)	1,005人 (4.5%)	1,331人 (6.0%)	22,195人 (56.2%)	5,338人 (55.8%)	162人 (1.7%)	4,059人 (42.5%)	9,554人 (24.2%)	31,745人 (80.5%)	7,711人 (19.5%)
計 [コレクション・ギャラリー+特別展]		8回 (484日)	57,332人 (118人)	27,435人 (91.2%)	1,323人 (4.4%)	1,331人 (4.4%)	30,089人 (52.5%)	6,224人 (59.2%)	236人 (2.2%)	4,059人 (38.6%)	10,519人 (18.3%)	40,608人 (70.8%)	16,724人 (29.2%)
貸 館		(0日)											
合 計		8回 (484日)	57,332人 (118人)	27,435人 (91.2%)	1,323人 (4.4%)	1,331人 (4.4%)	30,089人 (52.5%)	6,224人 (59.2%)	236人 (2.2%)	4,059人 (38.6%)	10,519人 (18.3%)	40,608人 (70.8%)	16,724人 (29.2%)

平成9年—10年度
北海道立帯広美術館年報

発行日 平成12年3月28日

発行者 北海道立帯広美術館
〒080-0846

帯広市緑ヶ丘2番地

Tel. (0155)22-6963

印刷所 株式会社アド・プリント

© Hokkaido Obihiro Museum of Art 2000

